

平成26年度

日光市水田農業に関するアンケート調査報告書

平成27年2月

日光市  
上都賀農業協同組合  
(一財)日光市農業公社





問 7. 農地中間管理機構	
(1) 農地中間管理機構の認知度	48
(2) 農地中間管理機構を知った方法	49
(3) 農地中間管理機構を通じた利用権設定のメリット	51
(4) 今後農地の貸し借りをを行う場合の賃借方法	53
《地域農業と農地を守る方策について》	
問 1. 農業経営に関する問題解決の方策	59
問 2. 「集落営農を組織し管理」を回答した理由	61
問 3. 「担い手（認定農業者等個人）」を回答した理由	63
問 4. 「公的性格の農業生産法人」を回答した方の法人への希望	65
《今後、地域の農業発展のためのご意見やアイデア等》	67
《各問での記述項目の一覧》	74

## 《調査の目的と実施の概要について》

### 1. 調査の目的

日光市の農業の状況は、高齢化の進行や担い手の減少、加えて農畜産物価格の低迷等、極めて厳しい環境下にあり、遊休農地や耕作放棄地が各所において散見されています。

これらの課題の解決策のひとつとして、日光市・上都賀農業協同組合・(一財)日光市農業公社では、農地の賃貸借による効率的な農業経営を促進するとともに、地域合意のもと農業の受委託事業を展開しております。

今回、より実情に合った施策を検討する資料として、農業従事者の現状と率直なご意見を伺うためアンケート調査を実施いたしました。農家の皆様のご協力に感謝申し上げます。

このアンケートの集計結果に表れた皆様からの意向を踏まえ、水田農業の維持と発展に寄与する仕組みづくりに取り組んでまいります。

### 2. 実施の概要

- |          |  |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 日光市内水稲作付地域   |
| (2) 調査対象 | 「水稲生産実施計画及び経営所得安定対策等営農計画書（確認野帳）」提出農家   |
| (3) 対象戸数 | 2, 728戸  |
| (4) 調査方法 | 郵送による配布及び回収  |
| (5) 調査時期 | 平成26年11月   |
| (6) 回答戸数 | 1, 137戸（回収率41.7%）<br>地区別／今市地区152戸、落合地区190戸、豊岡地区169戸、<br>大沢地区207戸、塩野室地区147戸、日光地区86戸、<br>藤原地区41戸、地区無回答145戸 |

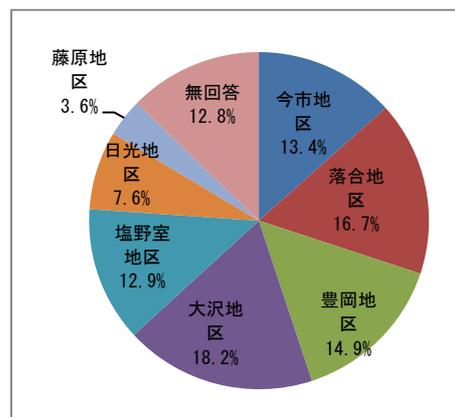
#### ■本調査報告書の基本的な事項

- (1) 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%に合わない場合があります。
- (2) 「複数選択可」とある設問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良いことから、合計比率が100%を超える場合があります。
- (3) 一つの回答を設定した設問においても複数の回答を出している場合、その回答を全て集計していることから、合計比率が100%を超えています。

## 《回答者の基礎情報について》

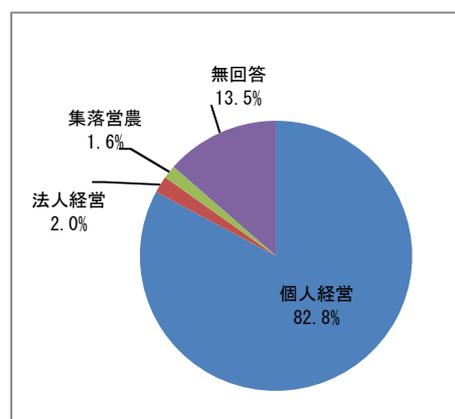
### 1. 集落

回答者 1,137 人が居住する集落の比率をみると、大沢地区が 18.2% で最も高く、次いで落合地区の 16.7%、豊岡地区の 14.9% と続いています。



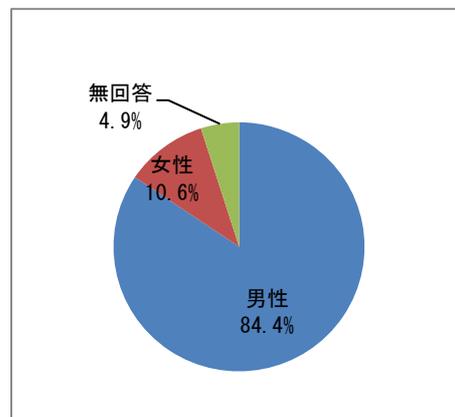
### 2. 世帯の経営種別

世帯の経営種別の比率をみると、個人経営が 82.8% を占めており、法人経営は 2.0%、集落営農は 1.6% の結果となっています。



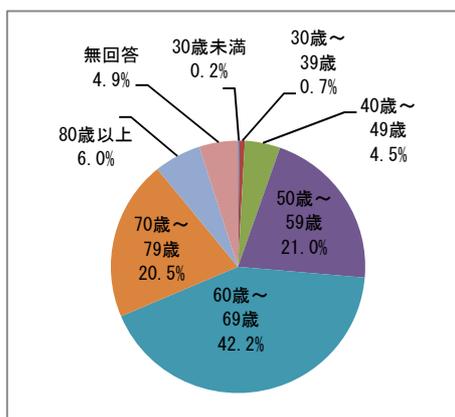
### 3. 記入した方の性別

回答を記入した方の性別の比率をみると、男性は 84.4%、女性は 10.6% となっています。



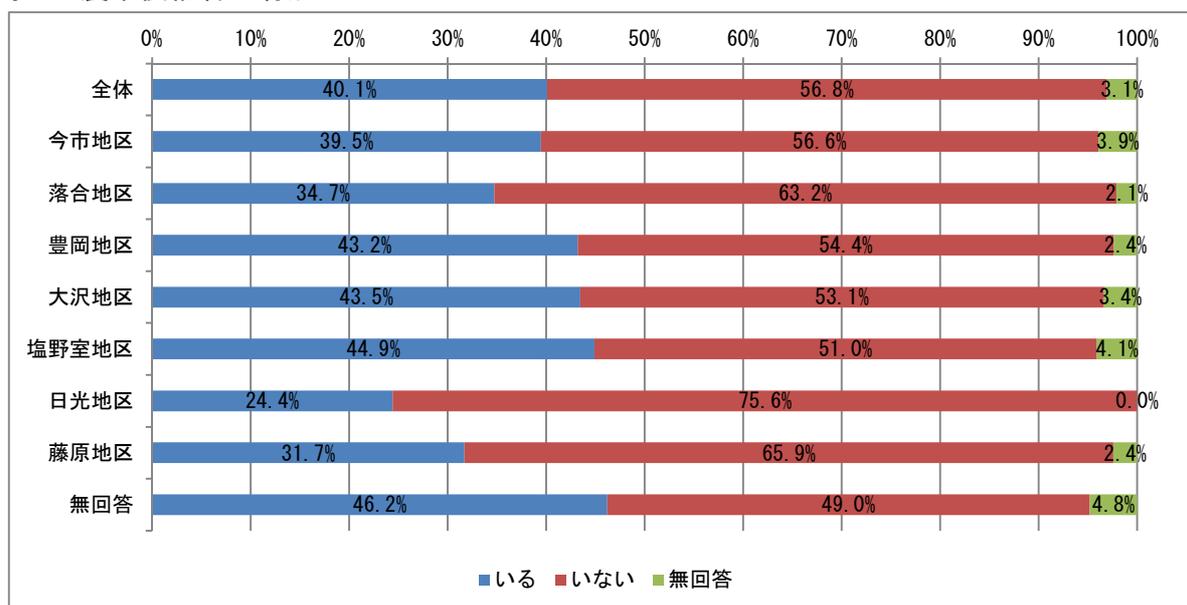
### 4. 記入した方の年齢

回答を記入した方の年齢層の比率をみると、60歳～69歳が 42.2% で最も高く、次いで 50歳～59歳が 21.0%、70歳～79歳が 20.5% と続いています。



## 《現在の農業経営について》

### 問1. 農業後継者の有無



### 【回答数】

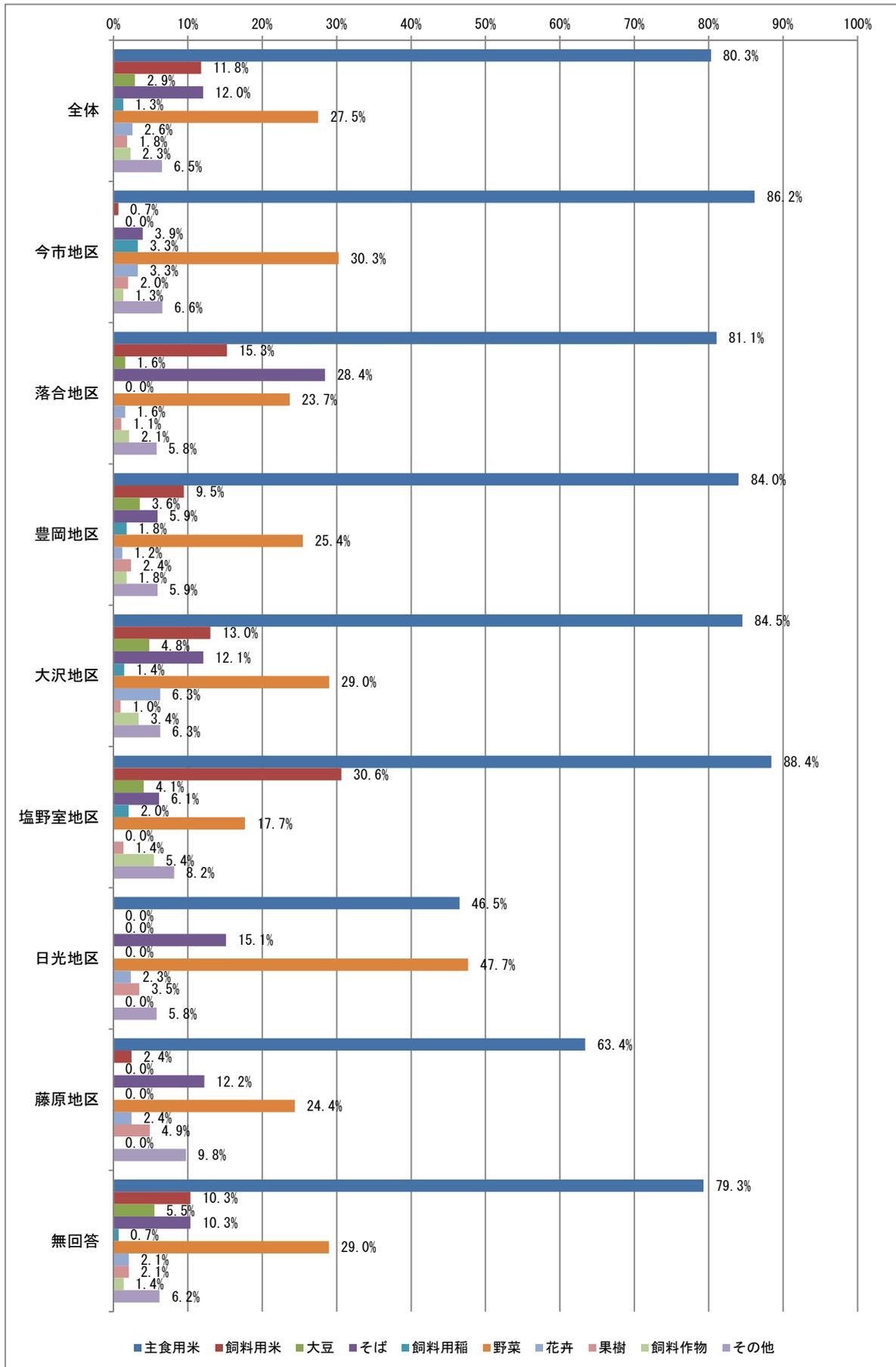
	いる	いない	無回答	計
全体	456	646	35	1,137
今市地区	60	86	6	152
落合地区	66	120	4	190
豊岡地区	73	92	4	169
大沢地区	90	110	7	207
塩野室地区	66	75	6	147
日光地区	21	65	0	86
藤原地区	13	27	1	41
無回答	67	71	7	145

### ○コメント

“農業後継者の有無”について尋ねてみると、全体では、「後継者がいる」は40.1%、「後継者がいない」は56.8%との結果であり、過半数以上の世帯で農業を引き継ぐ人材が不足していることがうかがえます。

これを地区別で見ると、「後継者がいる」が最も高いのは塩野室地区の44.9%であり、次いで大沢地区の43.5%、豊岡地区の43.2%となっており、この3地区が全体平均を上回っています。「後継者がいる」が最も低いのは日光地区の24.4%、次いで藤原地区の31.7%、落合地区の34.7%と続いており、この3地区は特に深刻な後継者不足がうかがえます。

問2. 農業経営の中心作物とその面積（平成26年度作付け分）／複数選択可



## 【回答数】

	主食用米	飼料用米	大豆	そば	飼料用稲	野菜	花卉	果樹	飼料作物	その他	計	比率の母数
全体	913	134	33	137	15	313	29	21	26	74	1,695	1,137
今市地区	131	1	0	6	5	46	5	3	2	10	209	152
落合地区	154	29	3	54	0	45	3	2	4	11	305	190
豊岡地区	142	16	6	10	3	43	2	4	3	10	239	169
大沢地区	175	27	10	25	3	60	13	2	7	13	335	207
塩野室地区	130	45	6	9	3	26	0	2	8	12	241	147
日光地区	40	0	0	13	0	41	2	3	0	5	104	86
藤原地区	26	1	0	5	0	10	1	2	0	4	49	41
無回答	115	15	8	15	1	42	3	3	2	9	213	145

※比率計算の母数は地区別回収票数（合計 1,137）となります。

## 【中心作目の面積 (ha)】

	主食用米	飼料用米	大豆	そば	飼料用稲	野菜	花卉	果樹	飼料作物	その他	計
全体	1,821.6	170.1	54.4	210.7	16.5	145.1	21.3	17.4	54.1	66.1	2,577.3
今市地区	227.6	3.7	0.0	19.2	1.9	11.4	2.5	0.3	2.5	11.6	280.7
落合地区	277.0	35.8	4.3	127.9	0.0	19.7	0.9	10.1	1.1	4.0	480.8
豊岡地区	275.7	19.8	3.6	5.0	6.0	18.8	0.3	3.5	4.7	12.1	349.5
大沢地区	408.3	42.7	21.0	26.9	1.7	36.4	14.6	1.5	38.2	7.9	599.2
塩野室地区	328.6	49.2	22.4	6.6	5.3	10.2	0.0	0.2	5.0	12.1	439.6
日光地区	66.0	0.0	0.0	13.4	0.0	24.1	2.1	1.6	0.0	16.4	123.6
藤原地区	22.5	0.2	0.0	8.4	0.0	1.1	0.1	0.2	0.0	0.5	33.0
無回答	215.9	18.8	3.2	3.4	1.6	23.5	0.9	0.2	2.5	1.4	271.4

※小数点以下2位を四捨五入していることから、全体と各地区計が合致しない場合があります。

## ○コメント

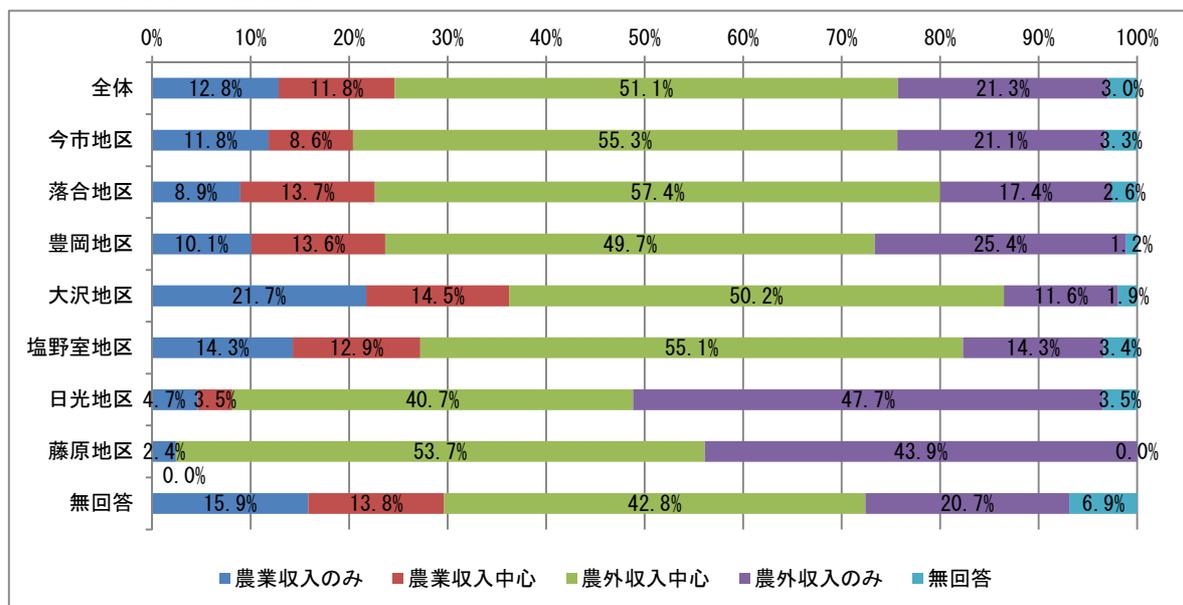
“農業経営の中心作物”について尋ねてみると、全体では、「主食用米」が80.3%で最も高く、次いで「野菜」が27.5%、「そば」が12.0%、「飼料用米」が11.8%と続き、この4品目以外は10%未満の結果となっています。

これを地区別で見ると、日光地区では「野菜」が47.7%で最も高い状況ですが、それ以外の地区は「主食用米」の比率が最も高くなっています。

品目別で見ると、「主食用米」が最も高いのは塩野室地区の88.4%、最も低いのは日光地区の46.5%です。「飼料用米」が最も高いのは塩野室地区の30.6%、最も低いのは日光地区の0.0%です。「大豆」が最も高いのは大沢地区の4.8%であり、今市地区・日光地区・藤原地区では0.0%となっています。日光市の特産でもある「そば」の比率が高いのは落合地区の28.4%であり、日光地区が15.1%、藤原地区が12.2%、大沢地区12.1%と続いています。

「飼料用稲」は全体的に低い状況であり、最も高い今市地区でも3.3%となっています。「野菜」は日光地区の47.7%が特に高く、最も低いのは塩野室地区の17.7%です。「花卉」では大沢地区が6.3%で最も高くなっていますが、塩野室地区のみ0.0%です。市全体としても低い比率の「果樹」では、最も高いのは藤原地区の4.9%であり、最も低いのは大沢地区の1.0%です。「飼料作物」では、塩野室地区は5.4%で最も高く、日光地区・藤原地区では0.0%となっています。

### 問3. 家計収入の主なもの



#### 【回答数】

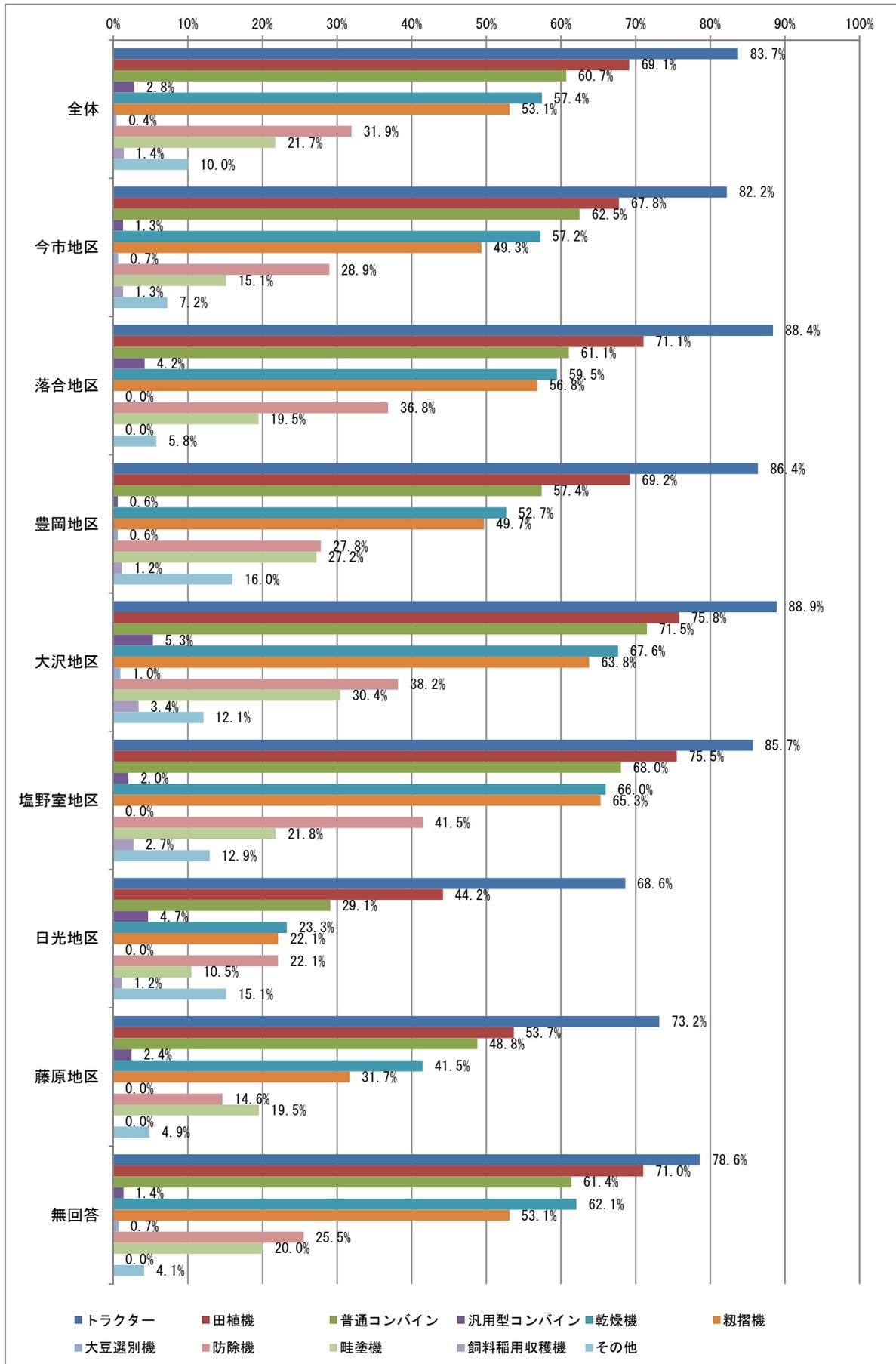
	農業収入のみ	農業収入中心	農外収入中心	農外収入のみ	無回答	計
全体	146	134	581	242	34	1,137
今市地区	18	13	84	32	5	152
落合地区	17	26	109	33	5	190
豊岡地区	17	23	84	43	2	169
大沢地区	45	30	104	24	4	207
塩野室地区	21	19	81	21	5	147
日光地区	4	3	35	41	3	86
藤原地区	1	0	22	18	0	41
無回答	23	20	62	30	10	145

#### ○コメント

“家計収入の主なもの”について尋ねてみると、全体では、「農外収入中心」が51.1%で最も高く、次いで「農外収入のみ」が21.3%、「農業収入のみ」が12.8%、「農業収入中心」が11.8%の順となっています。

地区別では、「農業収入のみ」が最も高いのは大沢地区の21.7%で、次いで塩野室地区の14.3%、今市地区の11.8%と続いています。「農業収入中心」では大沢地区が14.5%で最も高く、日光地区の3.5%と藤原地区の0.0%が低い状況となっています。「農外収入中心」はいずれの地区も40～57%の範囲となっています。「農外収入のみ」では特に日光地区の47.7%と藤原地区の43.9%が高い比率を示しています。

問4. 所有している農業機械 / 複数選択可



【回答数】

	トラクター	田植機	普通コンバイン	汎用型コンバイン	乾燥機	粃摺機	大豆選別機	防除機	畦塗機	飼料稲用收穫機	その他	計	比率の母数
全体	952	786	690	32	653	604	5	363	247	16	114	4,462	1,137
今市地区	125	103	95	2	87	75	1	44	23	2	11	568	152
落合地区	168	135	116	8	113	108	0	70	37	0	11	766	190
豊岡地区	146	117	97	1	89	84	1	47	46	2	27	657	169
大沢地区	184	157	148	11	140	132	2	79	63	7	25	948	207
塩野室地区	126	111	100	3	97	96	0	61	32	4	19	649	147
日光地区	59	38	25	4	20	19	0	19	9	1	13	207	86
藤原地区	30	22	20	1	17	13	0	6	8	0	2	119	41
無回答	114	103	89	2	90	77	1	37	29	0	6	548	145

※比率計算の母数は地区別回収票数（合計1,137）となります。

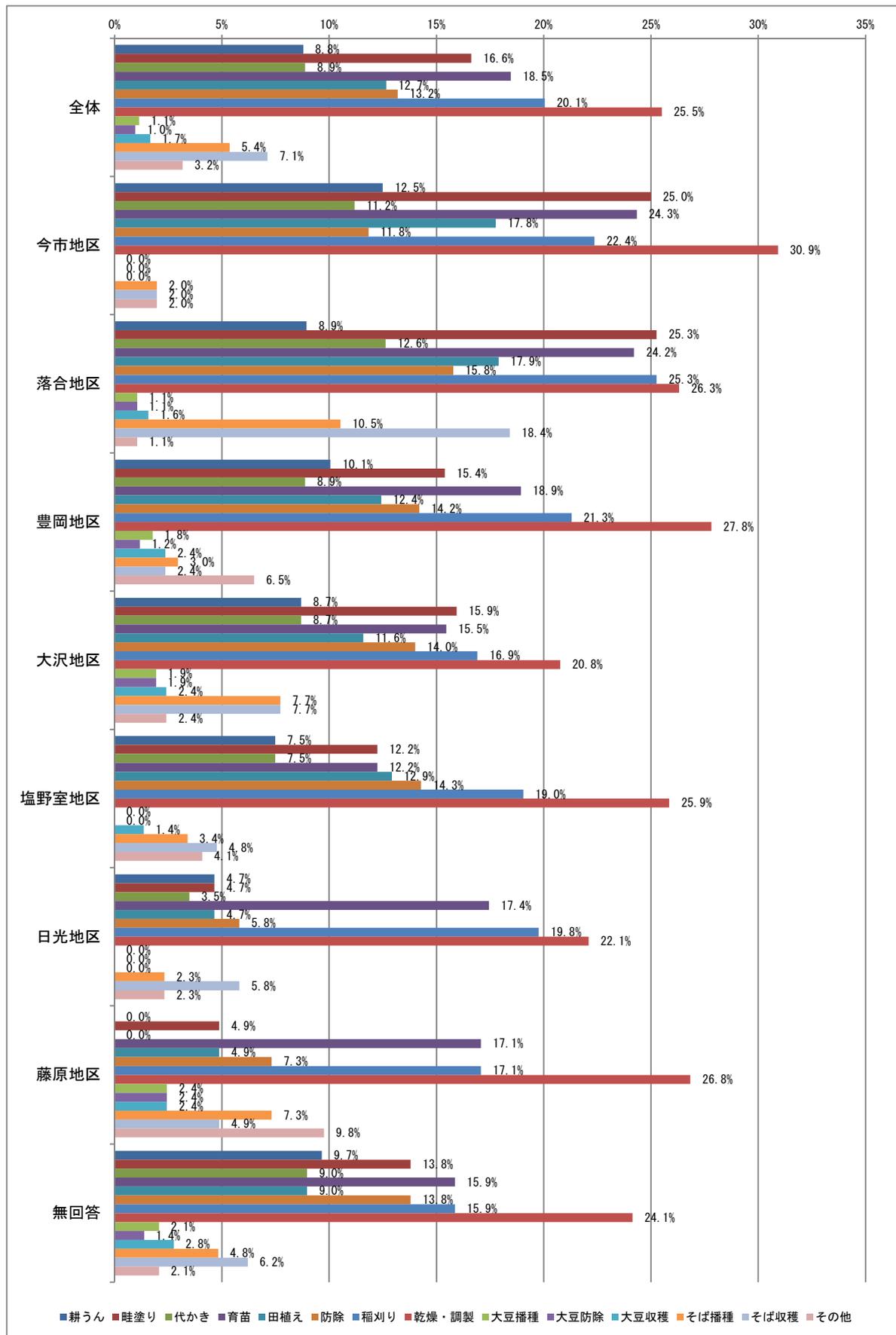
○コメント

“所有している農業機械”について尋ねてみると、全体では、最も比率が高いのは「トラクター」で83.7%、次いで「田植機」が69.1%、「普通コンバイン」が60.7%、「乾燥機」が57.4%、「粃摺機」が53.1%と続いており、これらの5種類の機械は過半数の世帯で所有している結果となっています。

これを地区別で見ると、日光地区と藤原地区においてはその他の地区に比べて「トラクター」以外の所有率が若干低い傾向にあり、特に日光地区では「普通コンバイン」「乾燥機」「粃摺機」の所有率は30%以下の状況です。

### 問5. 水稻・大豆・そばの作業委託

(1) 現在委託している作業 / 複数選択可



【回答数】

	耕うん	畦塗り	代かき	育苗	田植え	防除	稲刈り	乾燥・調製	大豆播種	大豆防除	大豆収穫	そば播種	そば収穫	その他	計	比率の母数
全体	100	189	101	210	144	150	228	290	13	11	19	61	81	36	1,633	1,137
今市地区	19	38	17	37	27	18	34	47	0	0	0	3	3	3	246	152
落合地区	17	48	24	46	34	30	48	50	2	2	3	20	35	2	361	190
豊岡地区	17	26	15	32	21	24	36	47	3	2	4	5	4	11	247	169
大沢地区	18	33	18	32	24	29	35	43	4	4	5	16	16	5	282	207
塩野室地区	11	18	11	18	19	21	28	38	0	0	2	5	7	6	184	147
日光地区	4	4	3	15	4	5	17	19	0	0	0	2	5	2	80	86
藤原地区	0	2	0	7	2	3	7	11	1	1	1	3	2	4	44	41
無回答	14	20	13	23	13	20	23	35	3	2	4	7	9	3	189	145

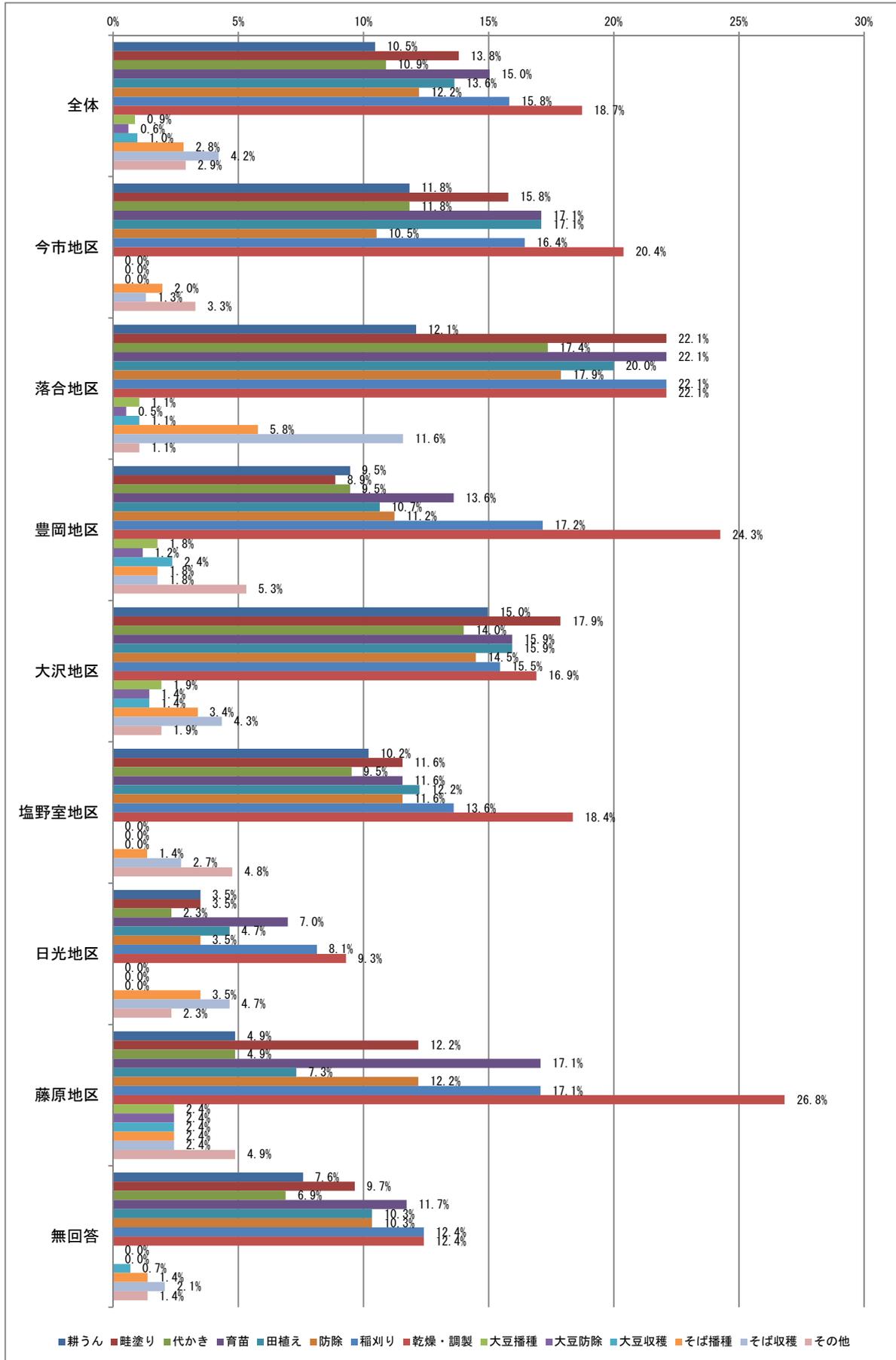
※比率計算の母数は地区別回収票数（合計 1,137）となります。

○コメント

“現在委託している作業”について尋ねてみると、全体では、「乾燥・調製」が 25.5%で最も高く、次いで「稲刈り」が 20.1%、「育苗」が 18.5%と続いています。また、「大豆播種」「大豆防除」「大豆収穫」においてはいずれも 2%未満であり、「そば播種」は 5.4%、「そば収穫」は 7.1%の状況です。

これらを地区別でみると、全体的に水稲に関する作業を委託している率が比較的高いのは今市地区と落合地区であり、反対に委託している率が低いのは日光地区と藤原地区との傾向がうかがえます。大豆に関する作業の委託では、いずれの地区とも低い傾向であり、今市地区と日光地区では 0.0%となっています。そばに関する作業の委託では、特に落合地区の比率が高く、「そば播種」は 10.5%、「そば収穫」は 18.4%となっています。

(2) 将来委託する予定の作業／複数選択可



【回答数】

	耕うん	畦塗り	代かき	育苗	田植え	防除	稲刈り	乾燥・調製	大豆播種	大豆防除	大豆収穫	そば播種	そば収穫	その他	計	比率の母数
全体	119	157	124	171	155	139	180	213	10	7	11	32	48	33	1,399	1,137
今市地区	18	24	18	26	26	16	25	31	0	0	0	3	2	5	194	152
落合地区	23	42	33	42	38	34	42	42	2	1	2	11	22	2	336	190
豊岡地区	16	15	16	23	18	19	29	41	3	2	4	3	3	9	201	169
大沢地区	31	37	29	33	33	30	32	35	4	3	3	7	9	4	290	207
塩野室地区	15	17	14	17	18	17	20	27	0	0	0	2	4	7	158	147
日光地区	3	3	2	6	4	3	7	8	0	0	0	3	4	2	45	86
藤原地区	2	5	2	7	3	5	7	11	1	1	1	1	1	2	49	41
無回答	11	14	10	17	15	15	18	18	0	0	1	2	3	2	126	145

※比率計算の母数は地区別回収票数（合計 1,137）となります。

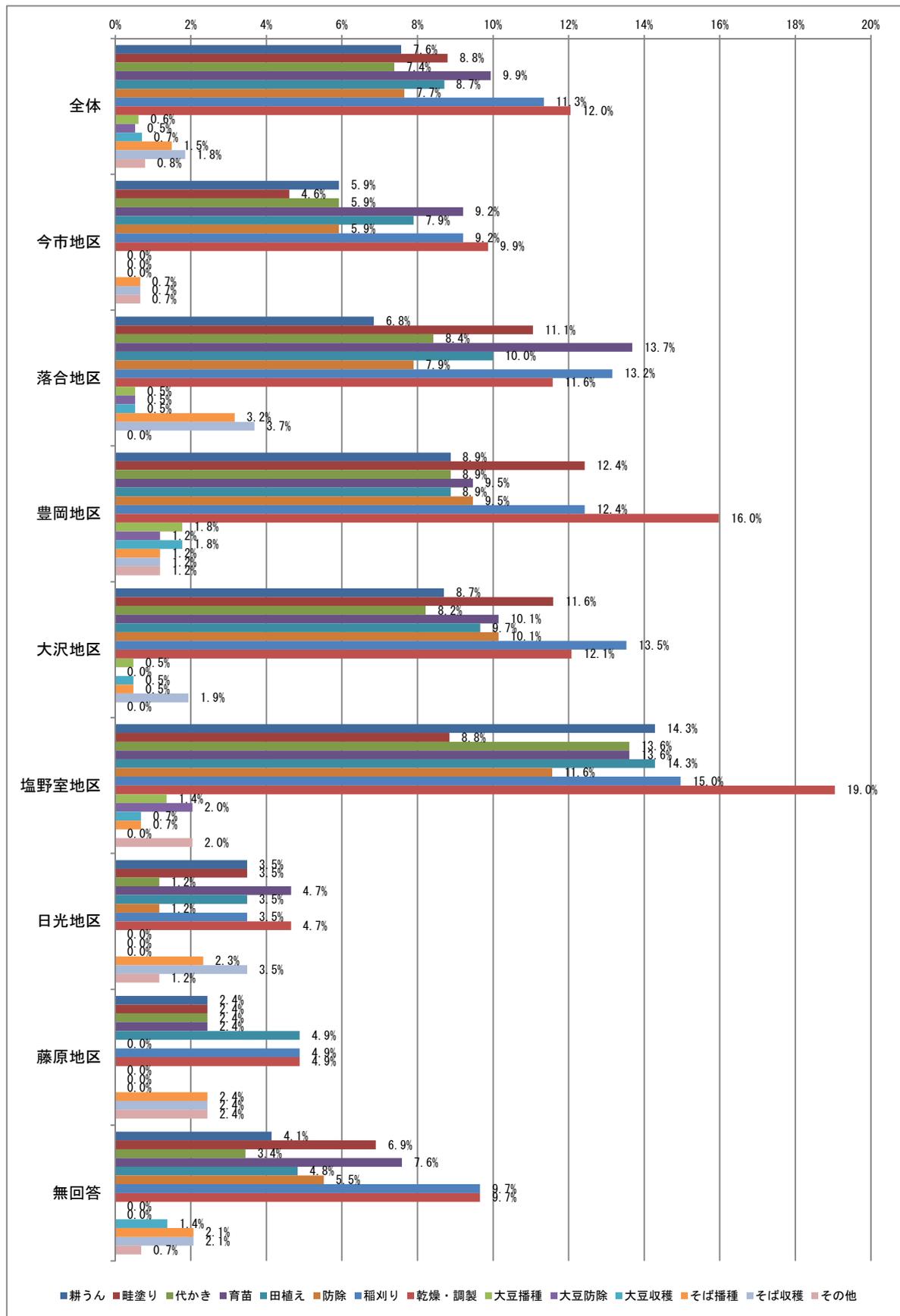
○コメント

“将来委託する予定の作業”について尋ねてみると、全体では、「乾燥・調製」が 18.7%で最も高く、次いで「稲刈り」が 15.8%、「育苗」が 15.0%と続いています。大豆に関する作業の委託では「大豆播種」が 0.9%、「大豆防除」が 0.6%、「大豆収穫」が 1.0%であり、委託予定の意向が低い状況です。そばに関する作業の委託では「そば播種」は 2.8%、「そば収穫」は 4.2%の状況です。

これらを地区別にみると、水稻に関する作業を委託する予定が総体的に高いのは落合地区、大沢地区、今市地区であり、特に落合地区では「畦塗り」「育苗」「田植え」「稲刈り」「乾燥・調製」で 20%を超えています。反対に作業を委託する予定が総体的に低いのは日光地区といった状況です。大豆に関する作業で、いずれの地区も低い傾向であり、今市地区と塩野室地区と日光地区では 0.0%となっています。そばに関する作業の委託では、特に落合地区の比率が高く、「そば播種」は 5.8%、「そば収穫」は 11.6%となっています。

## 問6. 水稻・大豆・そばの作業受託

(1) 現在受託している作業 / 複数選択可



【回答数】

	耕うん	畦塗り	代かき	育苗	田植え	防除	稲刈り	乾燥・調製	大豆播種	大豆防除	大豆収穫	そば播種	そば収穫	その他	計	比率の母数
全体	86	100	84	113	99	87	129	137	7	6	8	17	21	9	903	1,137
今市地区	9	7	9	14	12	9	14	15	0	0	0	1	1	1	92	152
落合地区	13	21	16	26	19	15	25	22	1	1	1	6	7	0	173	190
豊岡地区	15	21	15	16	15	16	21	27	3	2	3	2	2	2	160	169
大沢地区	18	24	17	21	20	21	28	25	1	0	1	1	4	0	181	207
塩野室地区	21	13	20	20	21	17	22	28	2	3	1	1	0	3	172	147
日光地区	3	3	1	4	3	1	3	4	0	0	0	2	3	1	28	86
藤原地区	1	1	1	1	2	0	2	2	0	0	0	1	1	1	13	41
無回答	6	10	5	11	7	8	14	14	0	0	2	3	3	1	84	145

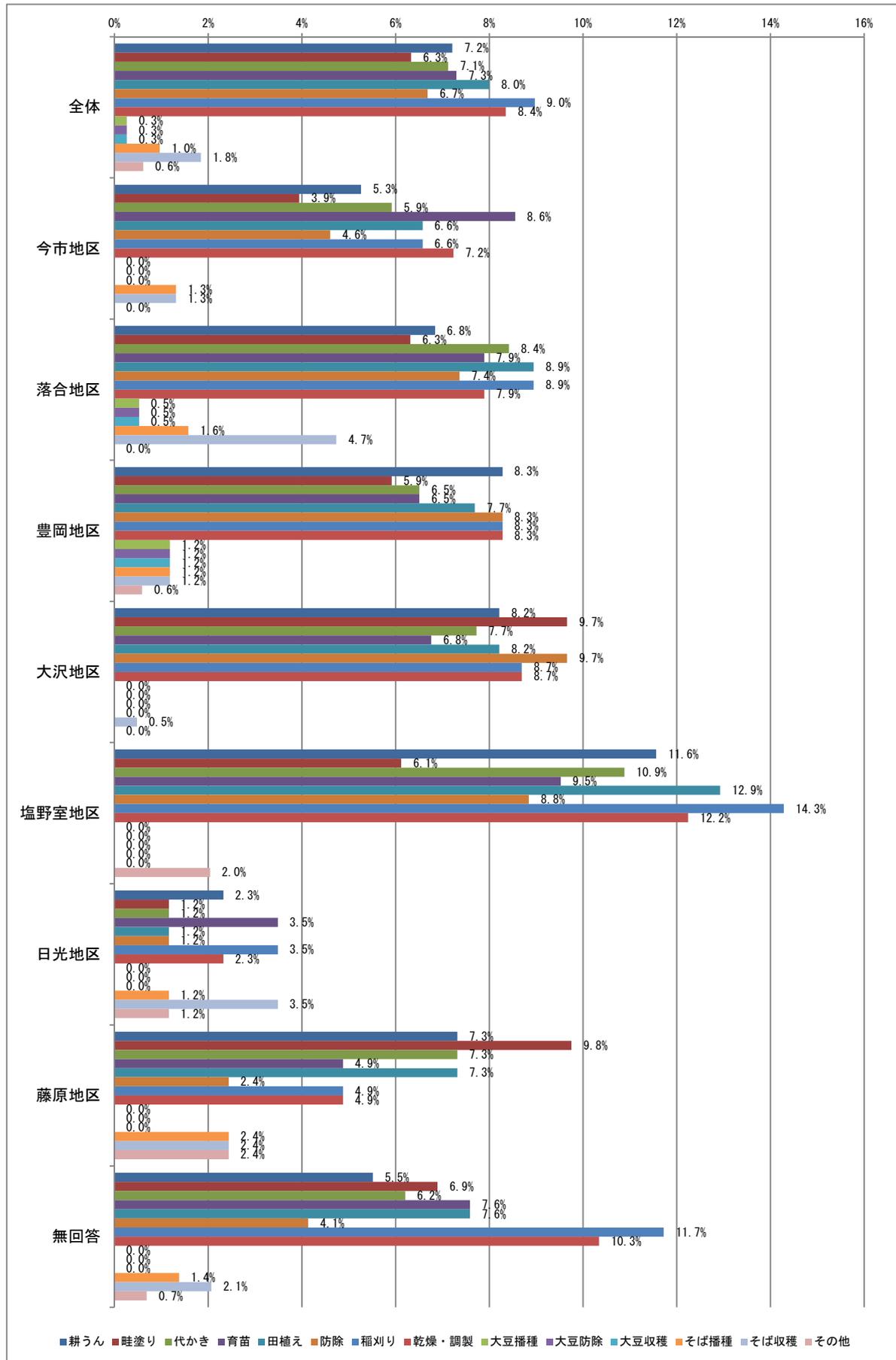
※比率計算の母数は地区別回収票数（合計 1,137）となります。

○コメント

“現在受託している作業”について尋ねてみると、全体では、「乾燥・調製」が 12.0%で最も高く、次いで「稲刈り」が 11.3%、「育苗」が 9.9%と続いています。また、「大豆播種」「大豆防除」「大豆収穫」においてはいずれも 1%未満であり、「そば播種」は 1.5%、「そば収穫」は 1.8%の状況です。

これらを地区別で見ると、水稻に関する作業を受託している率が総体的に高いのは塩野室地区、豊岡地区、大沢地区、落合地区であり、特に塩野室地区では「耕うん」「代かき」「育苗」「田植え」「防除」「稲刈り」「乾燥・調製」が 10%以上となっています。反対に受託している率が低いのは日光地区と藤原地区となっています。大豆に関する作業の受託では、いずれの地区も低い状況であり、今市地区と日光地区と藤原地区では 0.0%となっています。そばに関する作業の受託ではいずれの地区も 4%未満となっています。

(2) 将来受託する予定の作業／複数選択可



【回答数】

	耕うん	畦塗り	代かき	育苗	田植え	防除	稲刈り	乾燥・調製	大豆播種	大豆防除	大豆収穫	そば播種	そば収穫	その他	計	比率の母数
全体	82	72	81	83	91	76	102	95	3	3	3	11	21	7	730	1,137
今市地区	8	6	9	13	10	7	10	11	0	0	0	2	2	0	78	152
落合地区	13	12	16	15	17	14	17	15	1	1	1	3	9	0	134	190
豊岡地区	14	10	11	11	13	14	14	14	2	2	2	2	2	1	112	169
大沢地区	17	20	16	14	17	20	18	18	0	0	0	0	1	0	141	207
塩野室地区	17	9	16	14	19	13	21	18	0	0	0	0	0	3	130	147
日光地区	2	1	1	3	1	1	3	2	0	0	0	1	3	1	19	86
藤原地区	3	4	3	2	3	1	2	2	0	0	0	1	1	1	23	41
無回答	8	10	9	11	11	6	17	15	0	0	0	2	3	1	93	145

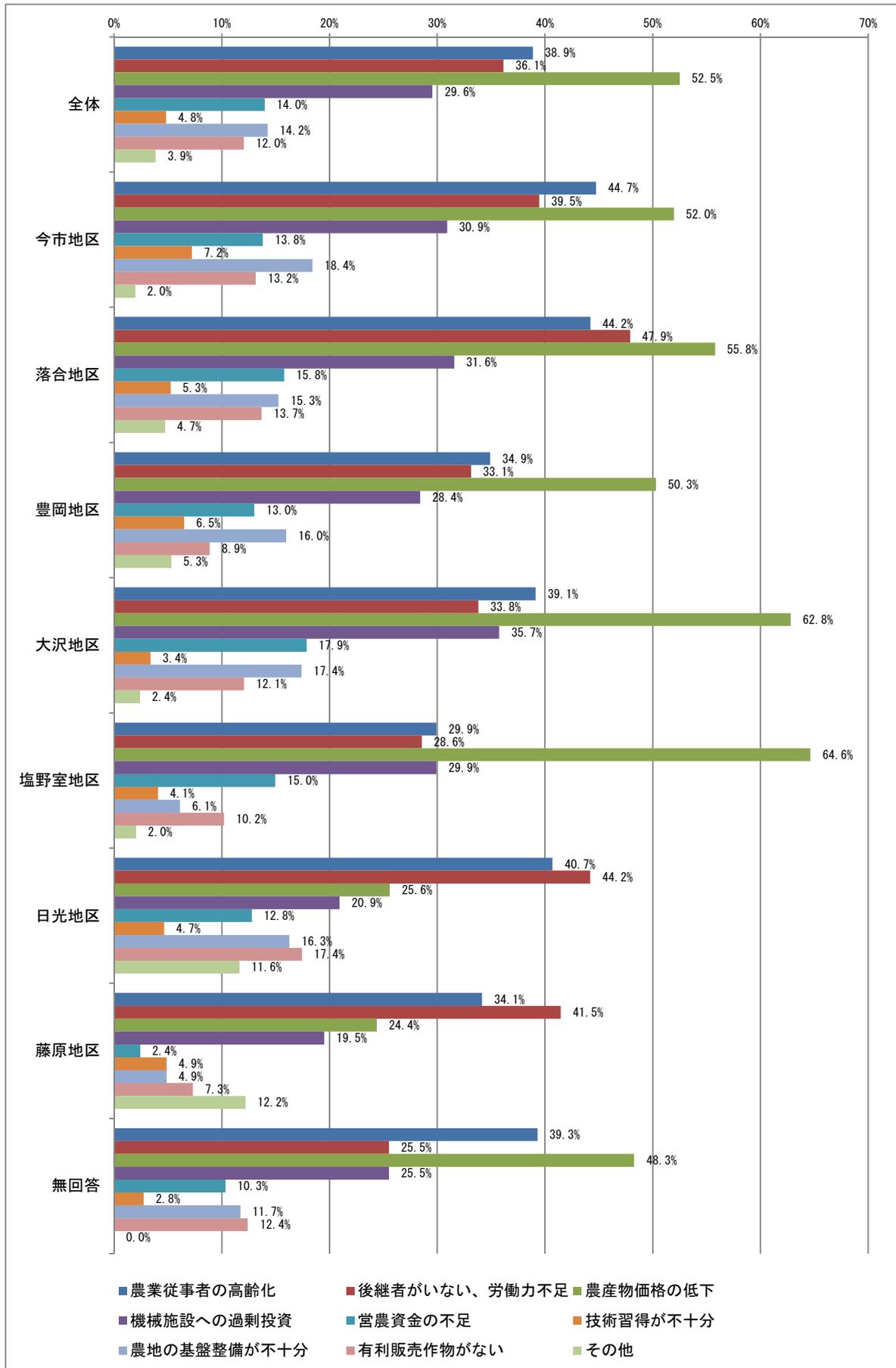
※比率計算の母数は地区別回収票数（合計 1,137）となります。

○コメント

“将来受託する予定の作業”について尋ねてみると、全体では、「稲刈り」が9.0%で最も高く、次いで「乾燥・調製」が8.4%、「田植え」が8.0%と続いています。これら以外の水稲に関する項目も6~7%程度の状況であり、全体的に受託の予定は少ないことがうかがえます。大豆に関する作業の受託の予定も少なく、各種0.3%の状況です。そばに関する作業の受託の予定についても少なく、「そば播種」は1.0%、「そば収穫」は1.8%の状況です。

これらを地区別にみると、水稲に関する作業を受託する予定が総体的に高いのは塩野室地区、大沢地区、落合地区であり、特に塩野室地区では「耕うん」「代かき」「田植え」「稲刈り」「乾燥・調製」で10%を超えています。反対に作業を受託する予定が総体的に低いのは日光地区といった状況です。大豆に関する作業では、いずれの地区も低い状況であり、落合地区・豊岡地区以外の地区では0.0%となっています。そばに関する作業の受託の予定では、落合地区、日光地区、藤原地区の比率が高くなっていますが、それでも落合地区の「そば収穫」の4.7%が最高といった状況です。

問7. 農業を続ける上で困っていること / 複数選択可



【回答数】

	農業従事者の高齢化	後継者がいない、労働力不足	農産物価格の低下	機械施設への過剰投資	営農資金の不足	技術習得が不十分	農地の整備が不十分	有利販売作物がない	その他	計	比率の母数
全体	442	411	597	336	159	55	162	137	44	2,343	1,137
今市地区	68	60	79	47	21	11	28	20	3	337	152
落合地区	84	91	106	60	30	10	29	26	9	445	190
豊岡地区	59	56	85	48	22	11	27	15	9	332	169
大沢地区	81	70	130	74	37	7	36	25	5	465	207
塩野室地区	44	42	95	44	22	6	9	15	3	280	147
日光地区	35	38	22	18	11	4	14	15	10	167	86
藤原地区	14	17	10	8	1	2	2	3	5	62	41
無回答	57	37	70	37	15	4	17	18	0	255	145

※比率計算の母数は地区別回収票数（合計1,137）となります。

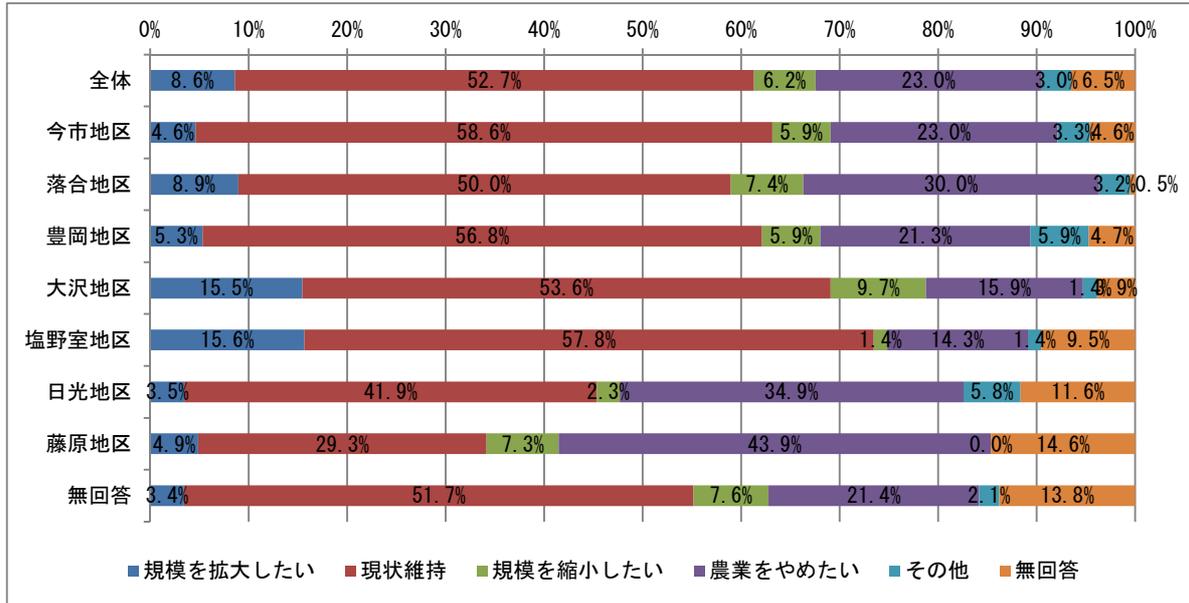
○コメント

“農業を続ける上で困っていること”について尋ねてみると、全体では、「農産物価格の低下」が52.5%で過半数を超えており、次いで「農業従事者の高齢化」の38.9%、「後継者がいない、労働力不足」の36.1%、「機械施設への過剰投資」の29.6%が続いています。また、比率が低いのは「技術習得が不十分」で4.8%といった状況です。

これを地区別で見ると、いずれの地区も上記4つが上位となっており、塩野室地区及び大沢地区では「農作物価格の低下」が60%以上であり、また、日光地区と藤原地区では「後継者がいない、労働力不足」が1位となっています。

## 《これからの農業経営について》

### 問1. 将来の農業経営



### 【回答数】

	規模を 拡大したい	現状維持	規模を 縮小したい	農業を やめたい	その他	無回答	計
全体	98	599	71	261	34	74	1,137
今市地区	7	89	9	35	5	7	152
落合地区	17	95	14	57	6	1	190
豊岡地区	9	96	10	36	10	8	169
大沢地区	32	111	20	33	3	8	207
塩野室地区	23	85	2	21	2	14	147
日光地区	3	36	2	30	5	10	86
藤原地区	2	12	3	18	0	6	41
無回答	5	75	11	31	3	20	145

### ○コメント

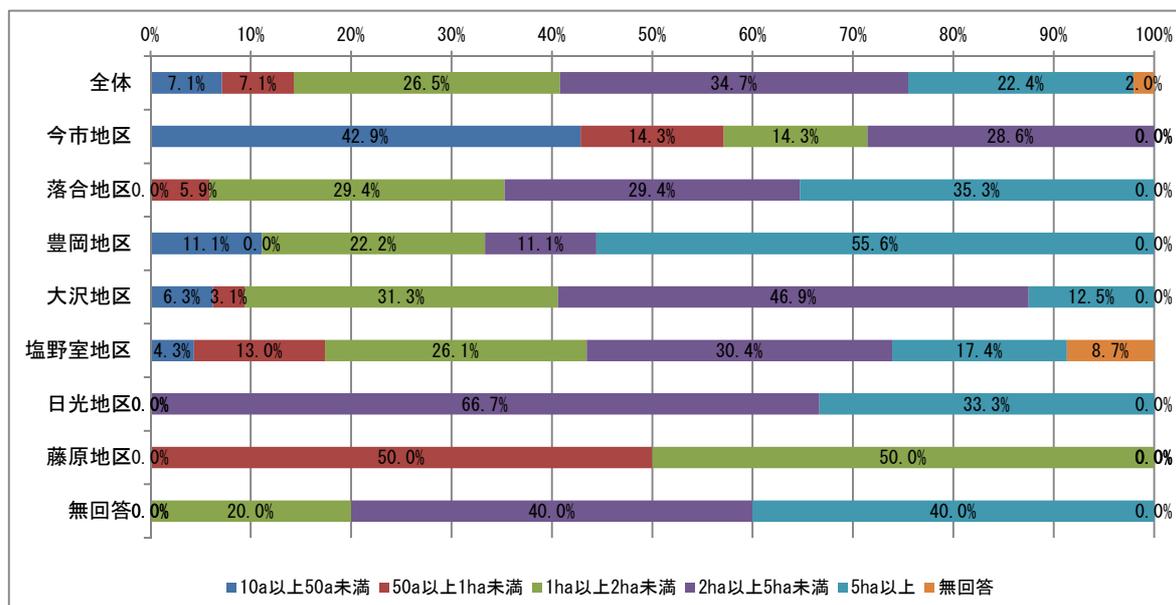
“将来の農業経営”について尋ねてみると、全体では、「現状維持」が52.7%で最も高く、過半数を超えており、「規模を拡大したい」の8.6%を合わせると約6割が今後も営農意欲を有していることがうかがえます。また、「農業をやめたい」が23.0%、「規模を縮小したい」の6.2%を合わせると約3割が現状以下の営農意欲ということがうかがえます。

これを地区別でみると、「規模を拡大したい」「現状維持」を合わせた比率が特に高いのは塩野室地区の73.4%と大沢地区の69.1%であり、この2つの地区では「規模を拡大したい」が15%を超えています。また、「農業をやめたい」と「規模を縮小したい」を合わせた比率が最も高いのは藤原地区の51.2%、次いで落合地区の37.4%、日光地区の37.2%といった状況であり、当地区における農業の衰退や休耕地・荒地の急増が懸念されます。

## 問2. 規模の拡大または規模の縮小をしたい方

### (1) 貸借したい面積

#### ・規模拡大を考えている方が借りたい面積



#### 【回答数】

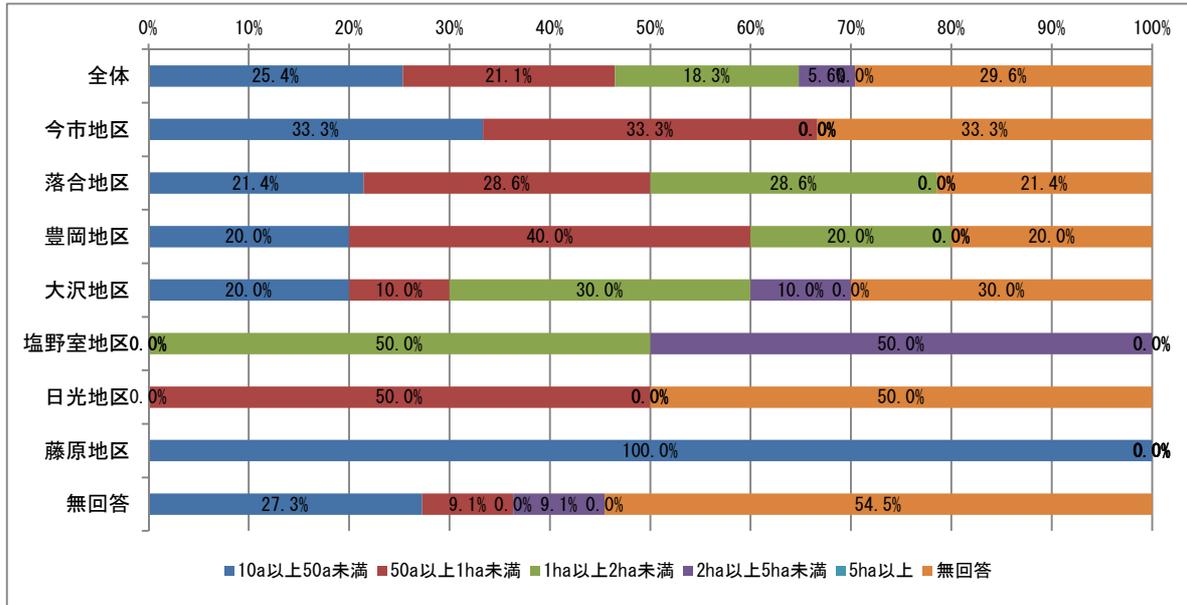
	10a 以上 50a 未満	50a 以上 1ha 未満	1ha 以上 2ha 未満	2ha 以上 5ha 未満	5ha 以上	無回答	計
全体	7	7	26	34	22	2	98
今市地区	3	1	1	2	0	0	7
落合地区	0	1	5	5	6	0	17
豊岡地区	1	0	2	1	5	0	9
大沢地区	2	1	10	15	4	0	32
塩野室地区	1	3	6	7	4	2	23
日光地区	0	0	0	2	1	0	3
藤原地区	0	1	1	0	0	0	2
無回答	0	0	1	2	2	0	5

#### ○コメント

“規模を拡大する場合に借りたい面積”について尋ねてみると、全体では、「2ha 以上 5ha 未満」が 34.7%で最も高く、次いで「1ha 以上 2ha 未満」が 26.5%、「5ha 以上」が 22.4%で続いており、「10a 以上 50a 未満」と「50a 以上 1ha 未満」を合わせた比率は 14.2%との結果です。

これを地区別でみると、「10a 以上 50a 未満」「50a 以上 1ha 未満」の小規模に借りたい方が多いのは今市地区（合わせて 57.2%）であり、「5ha 以上」の大規模に借りたい方が多いのは豊岡地区の 55.6%、落合地区の 35.3ha、日光地区の 33.3%との結果になっています。

・規模縮小を考えている方が貸したい面積



【回答数】

	10a 以上 50a 未満	50a 以上 1ha 未満	1ha 以上 2ha 未満	2ha 以上 5ha 未満	5ha 以上	無回答	計
全体	18	15	13	4	0	21	71
今市地区	3	3	0	0	0	3	9
落合地区	3	4	4	0	0	3	14
豊岡地区	2	4	2	0	0	2	10
大沢地区	4	2	6	2	0	6	20
塩野室地区	0	0	1	1	0	0	2
日光地区	0	1	0	0	0	1	2
藤原地区	3	0	0	0	0	0	3
無回答	3	1	0	1	0	6	11

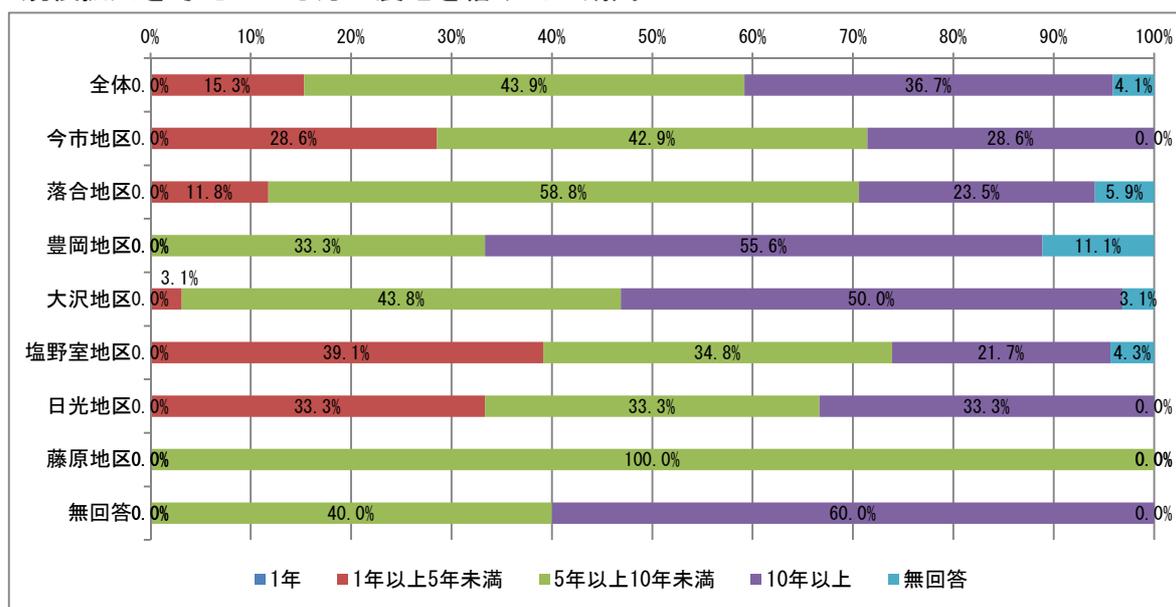
○コメント

“規模を縮小する場合に貸したい面積”について尋ねてみると、全体では、「10a 以上 50a 未満」が 25.4%で最も高く、次いで「50a 以上 1ha 未満」が 21.1%、「1ha 以上 2ha 未満」が 18.3%で続いており、「2ha 以上 5ha 未満」は 5.6%、「5ha 以上」は 0.0%との結果で、貸す場合は出来るだけ小面積にしたい意向がうかがえます。

これを地区別でみると、「10a 以上 50a 未満」「50a 以上 1ha 未満」の小規模で貸したい方が多いのは藤原地区（合わせて 100.0%）と今市地区（66.6%）と豊岡地区（60.0%）と落合地区及び日光地区（50.0%）であり、「2ha 以上 5ha 未満」の規模で貸したい方が多いのは塩野室地区（50.0%）と大沢地区（10.0%）といった結果になっています。

## (2) 貸借したい期間

### ・規模拡大を考えている方が農地を借りたい期間



### 【回答数】

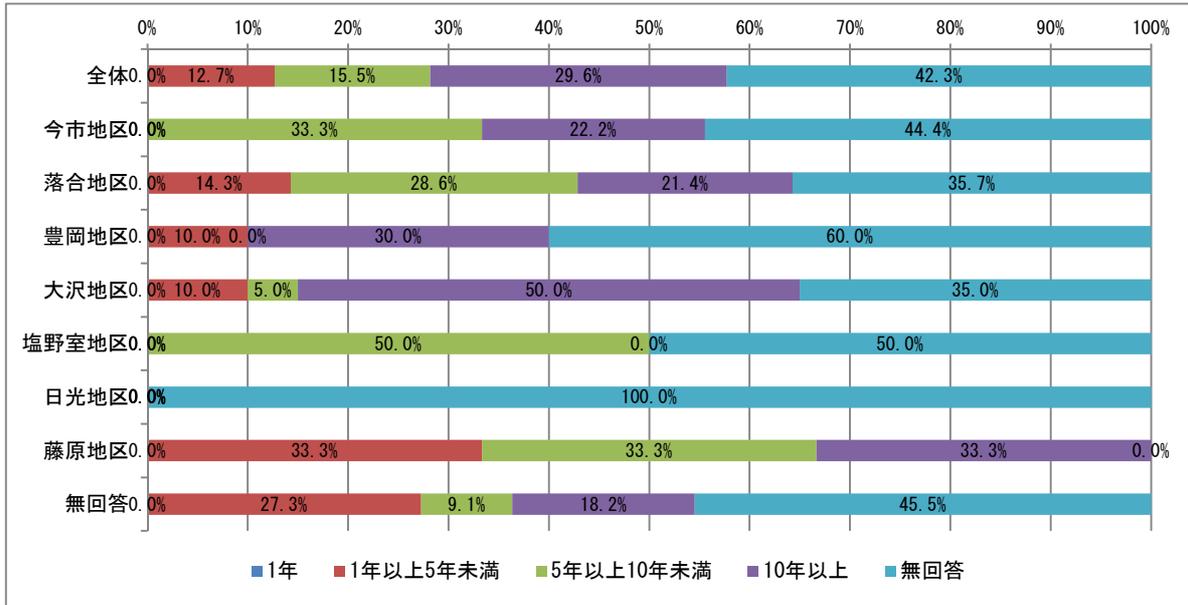
	1年	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答	計
全体	0	15	43	36	4	98
今市地区	0	2	3	2	0	7
落合地区	0	2	10	4	1	17
豊岡地区	0	0	3	5	1	9
大沢地区	0	1	14	16	1	32
塩野室地区	0	9	8	5	1	23
日光地区	0	1	1	1	0	3
藤原地区	0	0	2	0	0	2
無回答	0	0	2	3	0	5

### ○コメント

“規模を拡大する場合、その農地を何年借りたいか”について尋ねてみると、全体では、「5年以上10年未満」が43.9%で最も高く、次いで「10年以上」が36.7%の結果であり、全体的に長期借用を希望していることがうかがえます。

これを地区別でみると、ほぼ同様の傾向を示していますが、「1年以上5年未満」を希望する割合が比較的高いのは塩野室地区の39.1%と日光地区の33.3%、今市地区の28.6%となっています。

・規模縮小を考えている方が農地を貸したい期間



【回答数】

	1年	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答	計
全体	0	9	11	21	30	71
今市地区	0	0	3	2	4	9
落合地区	0	2	4	3	5	14
豊岡地区	0	1	0	3	6	10
大沢地区	0	2	1	10	7	20
塩野室地区	0	0	1	0	1	2
日光地区	0	0	0	0	2	2
藤原地区	0	1	1	1	0	3
無回答	0	3	1	2	5	11

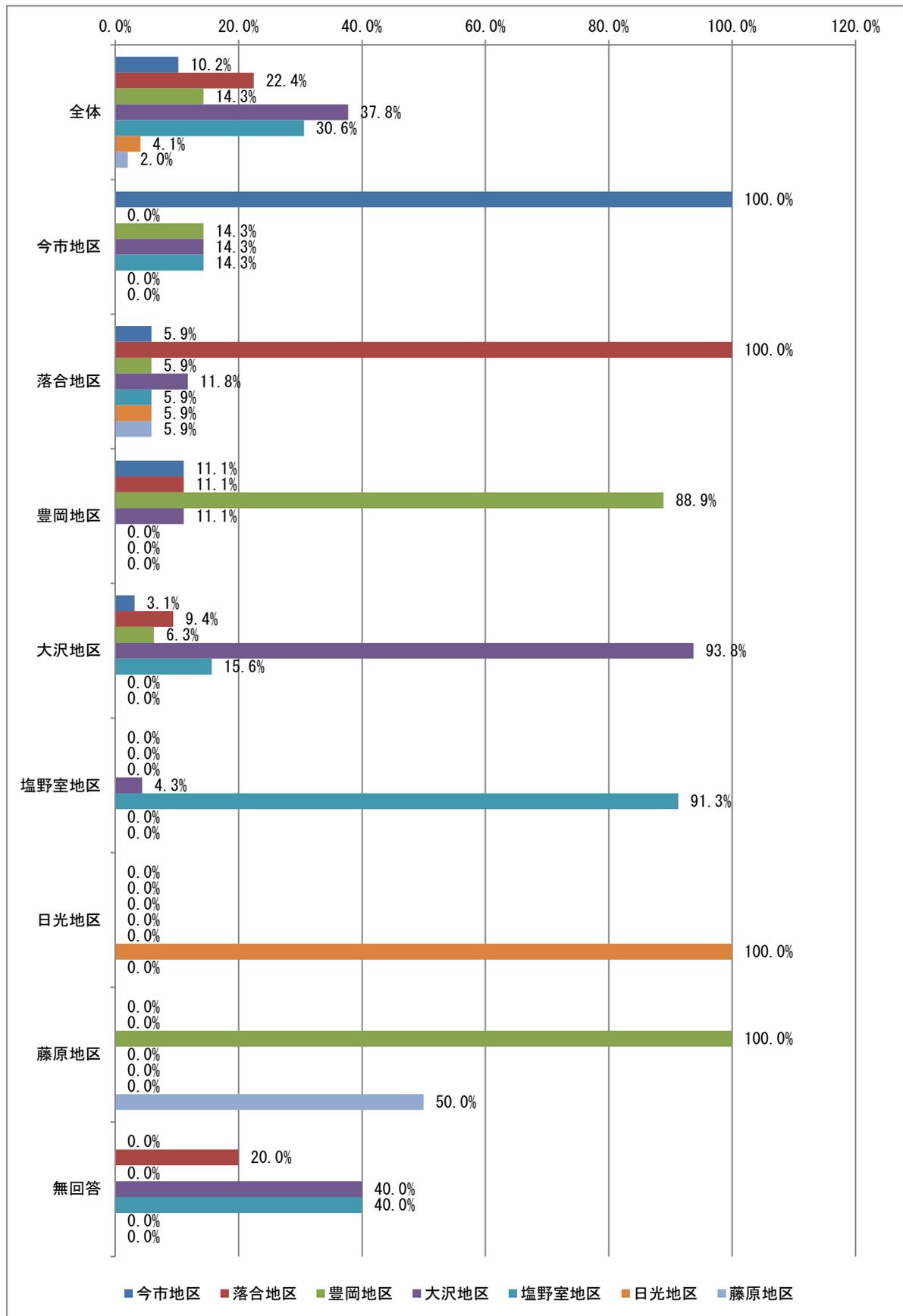
○コメント

“規模を縮小する場合、何年貸したいか”について尋ねてみると、全体では、「10年以上」が29.6%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が15.5%、「1年以上5年未満」が12.7%、「1年」が0.0%の結果であり、全体的に長期貸与を希望していることがうかがえます。

これを地区別でみると、「10年以上」で貸したい方が多いのは大沢地区の50.0%、藤原地区の33.3%、豊岡地区の30.0%であり、「5年以上10年未満」で多いのは塩野室地区の50.0%、今市地区・藤原地区の33.3%、落合地区の28.6%といった状況です。

(3) 貸借したい場所

・規模拡大を考えている方が農地を借りたい地区



【回答数】

	今市地区	落合地区	豊岡地区	大沢地区	塩野室地区	日光地区	藤原地区	計	比率の 母数
全体	10	22	14	37	30	4	2	119	98
今市地区	7	0	1	1	1	0	0	10	7
落合地区	1	17	1	2	1	1	1	24	17
豊岡地区	1	1	8	1	0	0	0	11	9
大沢地区	1	3	2	30	5	0	0	41	32
塩野室地区	0	0	0	1	21	0	0	22	23
日光地区	0	0	0	0	0	3	0	3	3
藤原地区	0	0	2	0	0	0	1	3	2
無回答	0	1	0	2	2	0	0	5	5

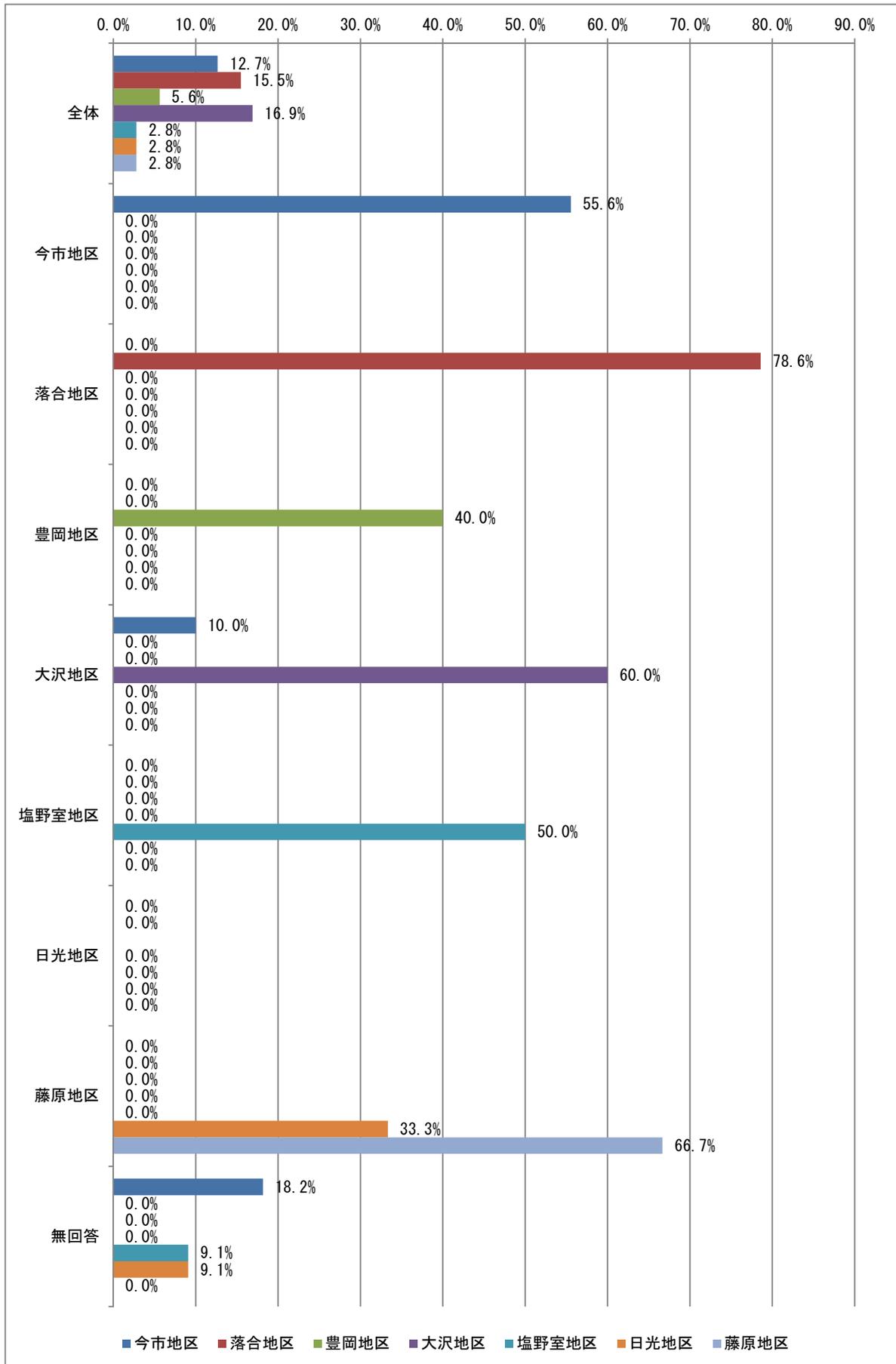
※比率計算の母数は問1で「規模を拡大したい」を選択した地区別回答数（合計98）となります。

○コメント

“規模を拡大する場合、借りたい場所”について尋ねてみると、全体では、「大沢地区」が37.8%で最も高く、次いで「塩野室地区」が30.6%、「落合地区」が22.4%の結果となりました。

これを地区別で見ると、ほとんどが自分の地区での借用を希望していますが、自分の地区の隣接地区を希望する回答も多くみられます。また、落合地区からの回答では全地区への借用希望がみられます。

・規模縮小を考えている方が農地を貸したい地区



【回答数】

	今市地区	落合地区	豊岡地区	大沢地区	塩野室地区	日光地区	藤原地区	計	比率の 母数
全体	9	11	4	12	2	2	2	42	71
今市地区	5	0	0	0	0	0	0	5	9
落合地区	0	11	0	0	0	0	0	11	14
豊岡地区	0	0	4	0	0	0	0	4	10
大沢地区	2	0	0	12	0	0	0	14	20
塩野室地区	0	0	0	0	1	0	0	1	2
日光地区	0	0	0	0	0	0	0	0	2
藤原地区	0	0	0	0	0	1	2	3	3
無回答	2	0	0	0	1	1	0	4	11

※比率計算の母数は問1で「規模を縮小したい」を選択した地区別回答数（合計71）となります。

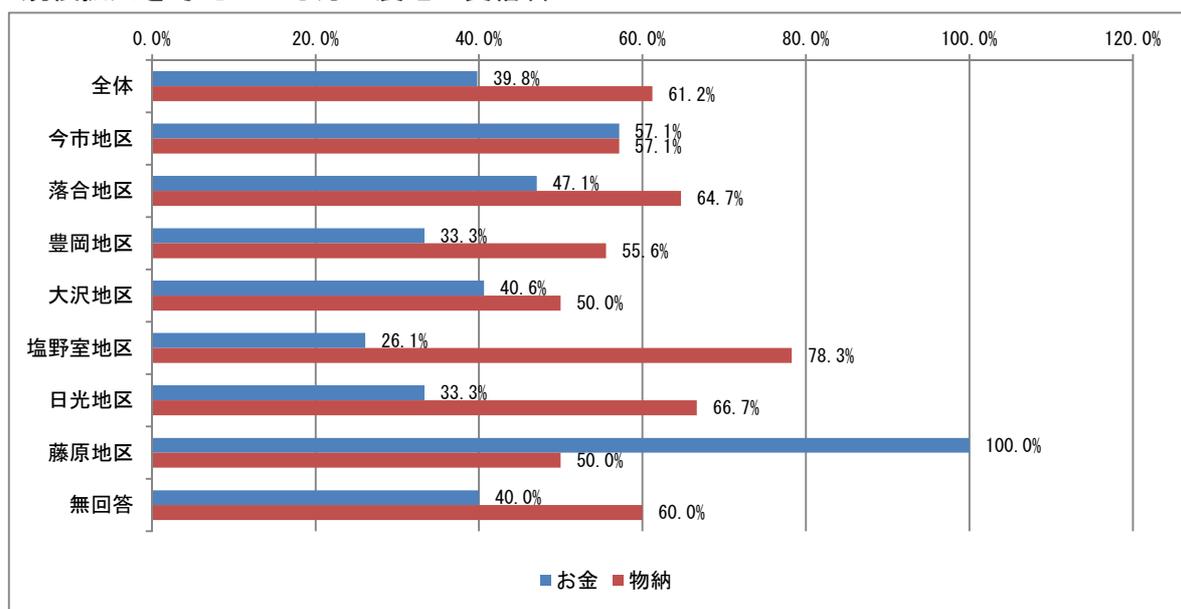
○コメント

“規模を縮小する場合、貸したい場所”について尋ねてみると、全体では、「大沢地区」が16.9%で最も高く、次いで「落合地区」が15.5%、「今市地区」が12.7%の結果です。

これを地区別で見ると、大沢地区と藤原地区のみ、他地区で所有している農地の貸出を希望する方もいます。

#### (4) 貸借料の希望

##### ・規模拡大を考えている方の農地の賃借料



#### 【回答数】

	お金	物納	計	比率の母数
全体	39	60	99	98
今市地区	4	4	8	7
落合地区	8	11	19	17
豊岡地区	3	5	8	9
大沢地区	13	16	29	32
塩野室地区	6	18	24	23
日光地区	1	2	3	3
藤原地区	2	1	3	2
無回答	2	3	5	5

※比率計算の母数は問1で「規模を拡大したい」を選択した地区別回答数（合計98）となります。

#### ○コメント

“規模を拡大する場合の賃借料”について尋ねてみると、全体では、「お金」が39.8%、「物納」が61.2%の結果となっています。

これを地区別で見ると、ほとんどの地区が「お金」よりも「物納」を希望している結果となっています。

※10aあたり：平均9,650円

最大30,000円

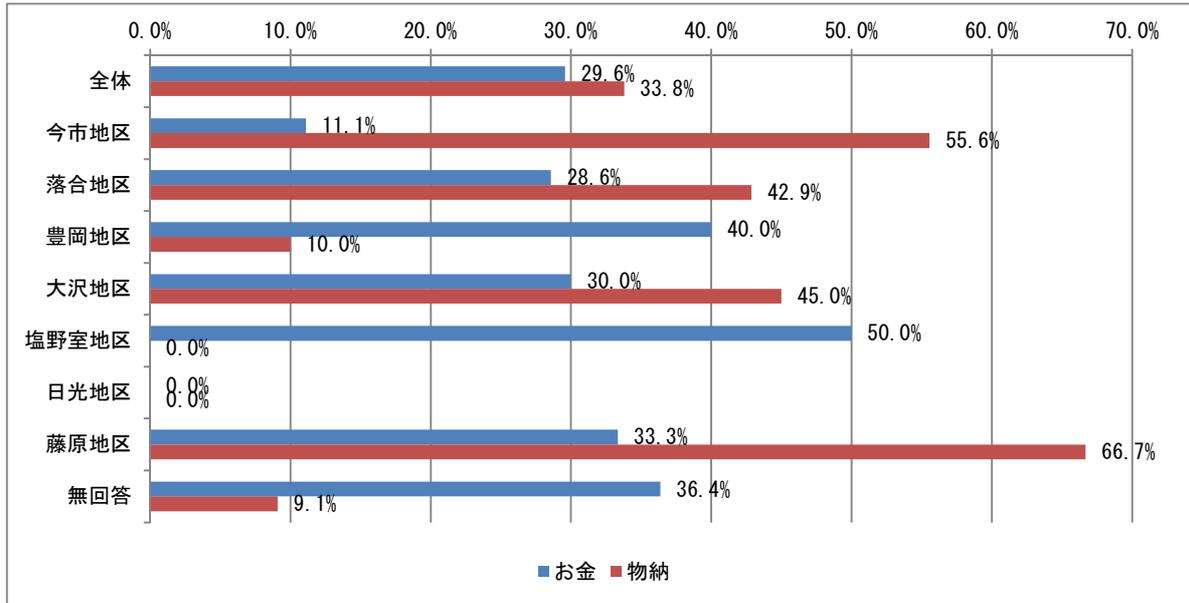
最小3,500円

※10aあたり：平均1.7袋

最大4袋

最小0袋 (30kg玄米)

・規模縮小を考えている方の農地の賃借料



【回答数】

	お金	物納	計	比率の母数
全体	21	24	45	71
今市地区	1	5	6	9
落合地区	4	6	10	14
豊岡地区	4	1	5	10
大沢地区	6	9	15	20
塩野室地区	1	0	1	2
日光地区	0	0	0	2
藤原地区	1	2	3	3
無回答	4	1	5	11

※比率計算の母数は問1で「規模を縮小したい」を選択した地区別回答数（合計71）となります。

○コメント

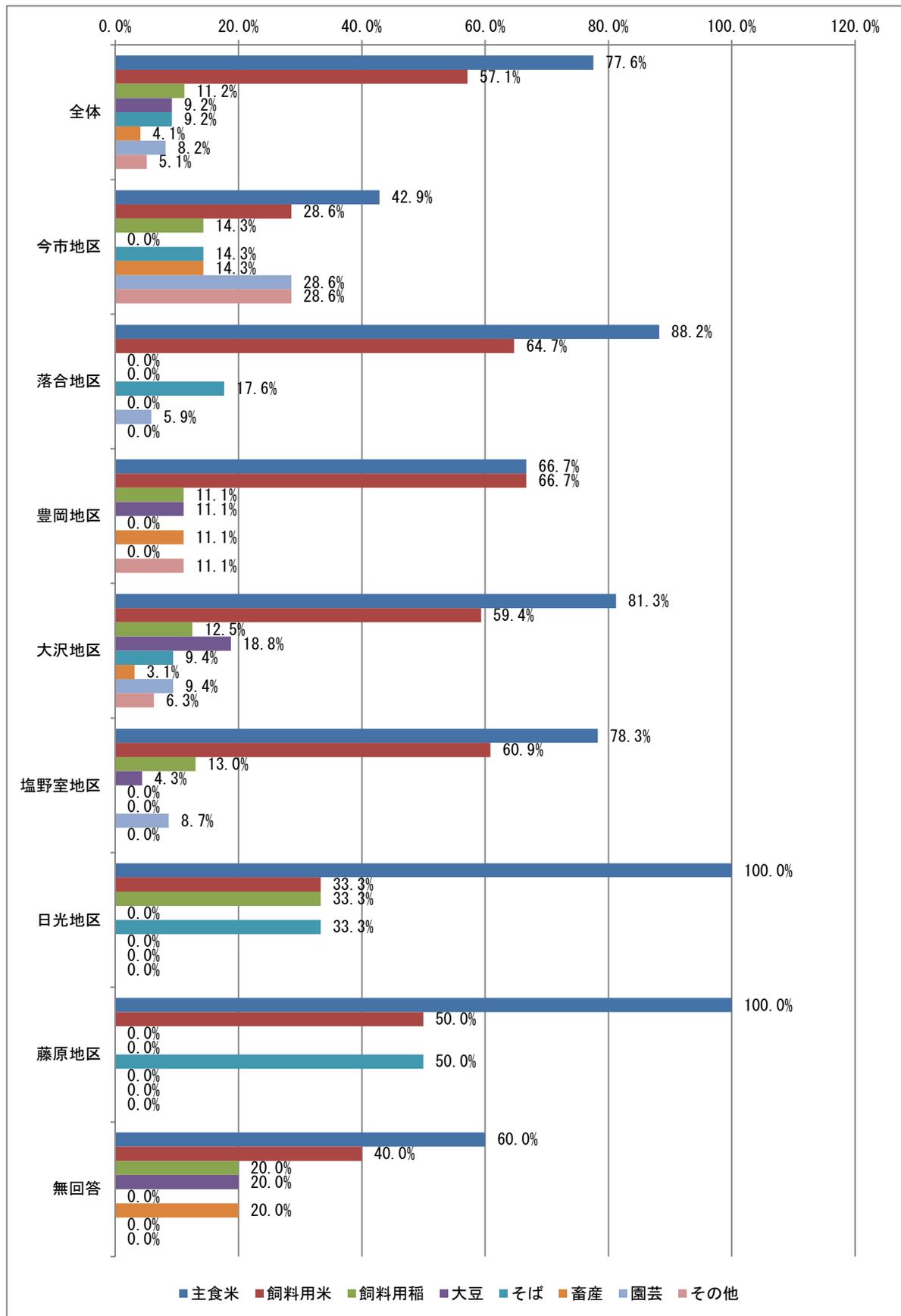
“規模を縮小する場合の賃借料”について尋ねてみると、全体では、「お金」が29.6%、「物納」が33.8%の結果となっています。

これを地区別で見ると、「物納」よりも「お金」を希望している方が多いのは、豊岡地区と塩野室地区となっています。

※10aあたり：平均 53,000 円      最大 500,000 円      最小 1,000 円  
 ※10aあたり：平均 2.3 袋      最大 6 袋      最小 1 袋      (30kg 玄米)

### 問3. 規模の拡大

#### (1) 拡大したい部門／複数選択可



【回答数】

	主食米	飼料用米	飼料用稲	大豆	そば	畜産	園芸	その他	比率の 母数
全体	76	56	11	9	9	4	8	5	98
今市地区	3	2	1	0	1	1	2	2	7
落合地区	15	11	0	0	3	0	1	0	17
豊岡地区	6	6	1	1	0	1	0	1	9
大沢地区	26	19	4	6	3	1	3	2	32
塩野室地区	18	14	3	1	0	0	2	0	23
日光地区	3	1	1	0	1	0	0	0	3
藤原地区	2	1	0	0	1	0	0	0	2
無回答	3	2	1	1	0	1	0	0	5

※比率計算の母数は問1で「規模を拡大したい」を選択した地区別回答数（合計98）となります。

○コメント

“規模を拡大したい方がどの部門を拡大したいのか”について尋ねてみると、全体では「主食米」が77.6%で最も高く、次いで「飼料用米」が57.1%となっており、この2部門が他より選択されています。その他の「飼料用稲」「大豆」「そば」「園芸」は10%前後となっています。

これを地区別でみると、どの地区も概ね「主食米」と「飼料用米」が高くなっていますが、今市地区では「園芸」が28.6%、日光地区では「飼料用稲」と「そば」が33.3%、藤原地区では「そば」が50.0%との結果になっています。

(2) 農地を借りるにあたっての希望／自由意見

地区	圃場の希望
今市	自宅近く、農道入り口の広い広場
	圃場整備をしている所。まとまった土地
	自作地に近い所、圃場整備をしている所
	自作地に近く圃場整備をしている所
	自作地に近い所
	自作地に近い所
落合	例の通り（自作地に近い所、圃場整備をしている所）
	自作地に近い所。圃場整備している所
	自作地に近い
	自作地に近く、圃場整備をされ、四角い水田
	圃場整備をした所で、面積は1区画30a～50aの水田
	水はけのよい所
	自宅近く
	近い所
	圃場整備をしている所
	自作地に近い
	自作地に近い
	自作地周辺
	自作地に近い所
	排水のよいところ、自作地に近い所、圃場整備をしている所
豊岡	同じ集落内か、あまり離れていない所
	圃場整備をしている所
	自作地に近い所
	近いので、大型の機械が利用できる圃場（進入路等）
	例が理想（自作地に近い所、圃場整備をしている所）
	住居と農地がセットになって場所を強く希望します
	圃場整備をしている所
自作地に近い所（手軽2*以内）圃場整備をしている所	
大沢	近くで水利の良い所、30a以上（1枚）の農地
	自作地に隣接し、圃場整備済で、用水路から摂取できる、山際でない水田。
	自作地に近い所
	40a以上、畦畔をなくして広く使えるような圃場
	自作地に近い所。圃場整備している所
	自作地に近い。圃場整備をしている所。水回りのよい所。
	自作地に近い所、圃場整備の所、大型農機具の入場できる所
	自宅に近い所
	自作地に近く、1ヶ所でまとまった拾い面積の場所、水はけのいい土地日当たりの良い土地
	自作地に近い所
	圃場整備をしている所
	自作地や現在借りている圃場の近く。水利に不安がない。圃場整備の進んでいる所や、それに準ずる圃場規模である。
	広い区画の農地(50a以上)
	自作地に近い所、圃場整備をしている所
	圃場整備をしている所
	自作地の近くで、圃場整備されていれば云うことがないです。それに近い圃場があれば良い。
	自作地に近い所。現在借りている水田の近く
	圃場整備をしている所希望
	圃場整備されており、自作地に近い、遠方ならまとまって土地があること。
	自作地に近い所
自作地に近い所	
自作地が近く、圃場整備をしている所	
自作地に近く、圃場整備をしている所	
自治内か近い所。水の便の良い所。圃場を整備しているところ	
家から近く、圃場がまとまっている排水の良い所	
自作地の近所	
自作地に近い所	

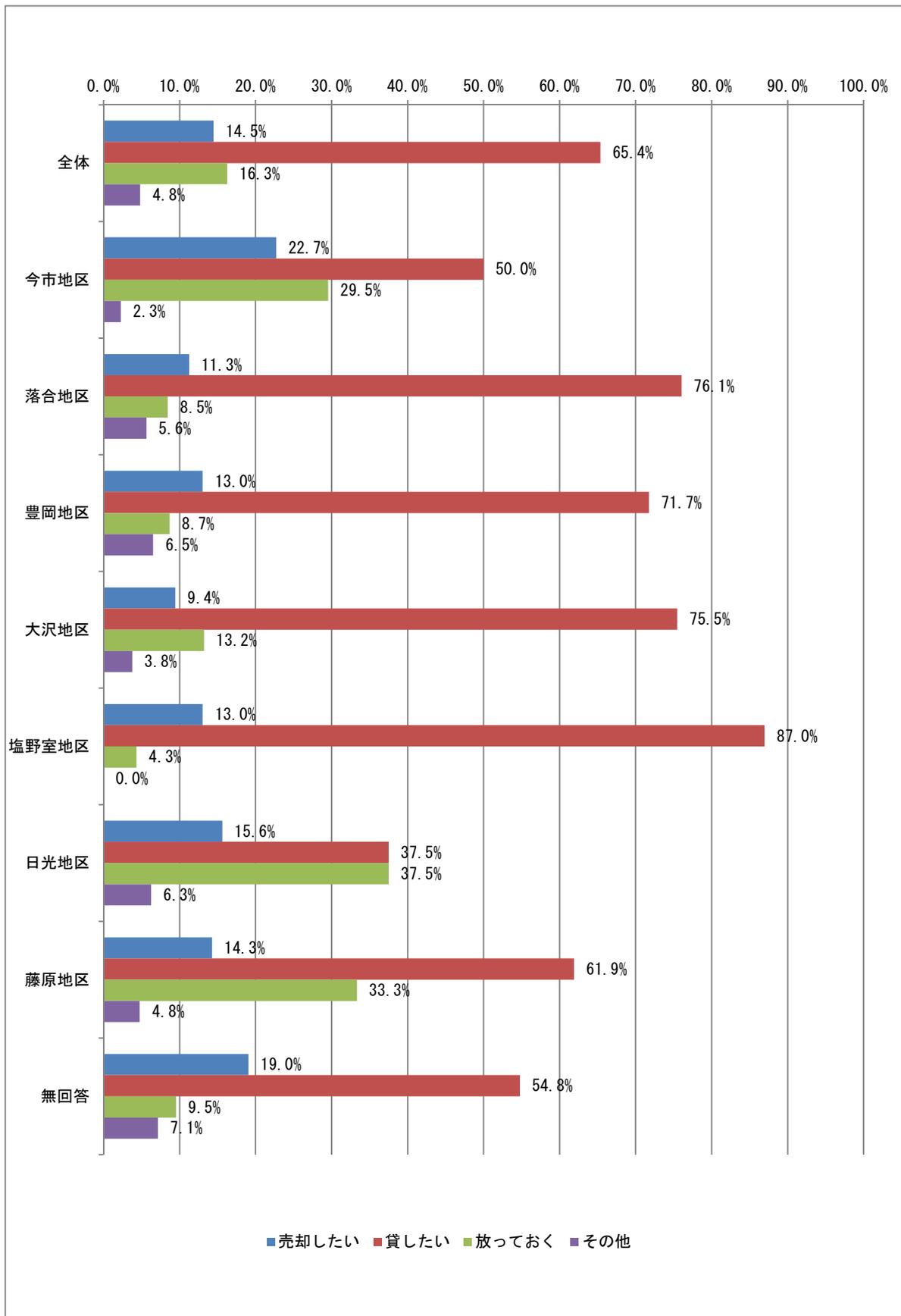
塩野室	自作地に近い所で基盤整備が行われた所
	自作地に近い所、区形の良い圃場
	圃場整備をした所
	圃場整備をしている所
	自作地に近い所、圃場整備をしている所
	自作地に近いところ
	自作地の隣接地、圃場整備している所
	半径 3km 以内の圃場整備地区
	自作地に近い。圃場整備をしている所、排水のよい所（湿田ではない）
	自分の家の近所が良いです。家とはなれていると燃料代が無駄。
	例に揚げる 2 項目（圃場整備をしている所）
	自作地に近い所、圃場整備をしている所。
	自作地に近く圃場整備済みのところ。水利が自然水であること（流水）湿田ではない所
	自作地に近い所
自宅よりも 0.7km 前後（水の管理の為）迄	
日光	自作地に近い所及び圃場整備完了地区
	自作地に近い所、圃場の整備が良い所
	大型の機械が利用出来る所
藤原	自作地に近い所、圃場整備の所、日照時間が長い所
	自宅から 5 キロ圏内で、圃場整備等が行われている所
無回答	肥沃な土地。自宅 1km 以内
	自作地に近い所、圃場整備をしている所
	圃場整備している所
	自作地に近い所

(3) 農地を借りる、もしくは現在借りている農地で、地主負担してもらいたいもの

／自由意見

地区	地主負担だと助かるもの
今市	草刈
	草刈、水の管理、水利費
	畦畔の草刈り、水の管理
	水の管理
落合	例の通り（畦畔の草刈り、水の管理）、料金がある程度支払ってやってほしい。
	畦畔、農道の草刈、用水路の管理
	畦畔の草刈り、水の管理
	草刈
	畦畔の草刈
	畦畔の草刈り
	畦畔の草刈
	畦畔の草刈、水の管理
	畦畔の草刈
	畦畔の草刈、水の管理、とてもやりきれない
	畦畔の草刈
豊岡	借りる時は自分でやりたいです
	田畑周辺の林の手入れ田畑に竹や木が張り出して危険倒木した例もある
	用水路の泥上げ等（複数の集落になった場合、堀さらいの日程が重なる）
大沢	草刈、水の管理
	手間賃は支払う
	畦畔の草刈、水の管理
	畦畔の草刈、水の管理
	農地を借りるにあたっては、農地管理は借主だと思います。
	草刈
	水の管理・・・遠い所では水の管理が大変。水路の整備・・・水路の保全がないと水が不安になる。
	畦畔の草刈
	畦畔の草刈り、水の管理
	畦畔の草刈り
	今の所、別にはないです。借りた場合、自分の土地同様に使いたいから。
	畦畔の草刈り等
	畦畔の草刈
	土堀の管理、電柵などの鳥獣害対策
	草刈（まにあわない）
畦畔の草刈→一番大変	
条件にもよりますが、原則、借り手側が全て管理することが望ましいと思います。	
畦畔の草刈	
塩野室	水利権は地主支払いとする
	畦畔の草刈、土地改良区の賦課金…米価下落による経費の削減
	草刈（となりの田んぼに迷惑がかかる）
	草刈
	畦畔の草刈
	水の管理（自宅より2km以上離れている場合）
	畦畔の草刈、水の管理、水利費など
	草刈
	畦畔の草刈、水の管理
	草刈
草刈を行ってもらえるのであれば良い	
日光	畦畔の草刈及び水の管理
	水の管理、畦の草刈等
藤原	畦畔の草刈
	畦畔の草刈
無回答	草刈

問4. 規模縮小または離農を希望する方  
 (1) 規模縮小または離農した場合の農地



【回答数】

	売却したい	貸したい	放っておく	その他	計	比率の母数
全体	48	217	54	16	335	332
今市地区	10	22	13	1	46	44
落合地区	8	54	6	4	72	71
豊岡地区	6	33	4	3	46	46
大沢地区	5	40	7	2	54	53
塩野室地区	3	20	1	0	24	23
日光地区	5	12	12	2	31	32
藤原地区	3	13	7	1	24	21
無回答	8	23	4	3	38	42

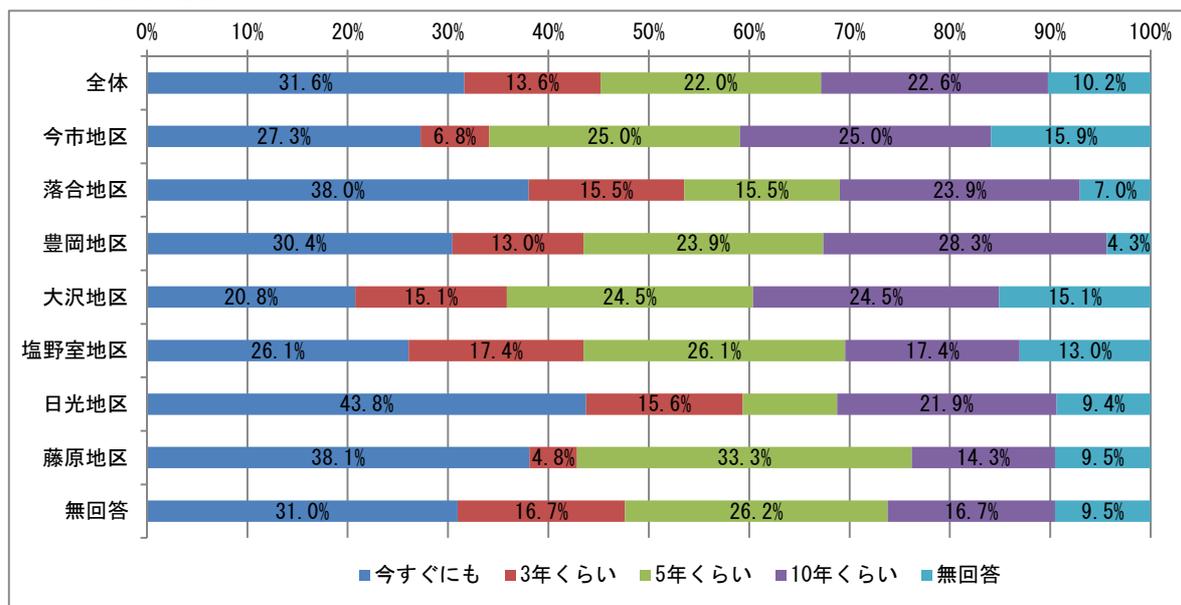
※比率計算の母数は問1で「規模を縮小したい」または「農業をやめたい」を選択した地区別回答数（合計 332）となります。

○コメント

“規模縮小または農業をやめたい方が、その農地をどうするか”を尋ねてみると、全体では、「貸したい」が 65.4%で最も高く、次いで「放っておく」が 16.3%、「売却したい」が 14.5%となっています。

これを地区別で見ると、いずれの地区も「貸したい」の意向が最も高くなっています。また「売却したい」の市全体 14.5%を超えるのは今市地区の 22.7%、日光地区の 15.6%となっています。「放っておく」においては日光地区の 37.5%、藤原地区の 33.3%、今市地区の 29.5%が市全体より高い比率となっており、当地区での休耕地や荒地の増加を懸念する材料といえます。

## (2) 離農するまでの期間



## 【回答数】

	今すぐにも	3年くらい	5年くらい	10年くらい	無回答	計	比率の母数
全体	105	45	73	75	34	332	332
今市地区	12	3	11	11	7	44	44
落合地区	27	11	11	17	5	71	71
豊岡地区	14	6	11	13	2	46	46
大沢地区	11	8	13	13	8	53	53
塩野室地区	6	4	6	4	3	23	23
日光地区	14	5	3	7	3	32	32
藤原地区	8	1	7	3	2	21	21
無回答	13	7	11	7	4	42	42

※比率計算の母数は問1で「規模を縮小したい」または「農業をやめたい」を選択した地区別回答数（合計332）となります。

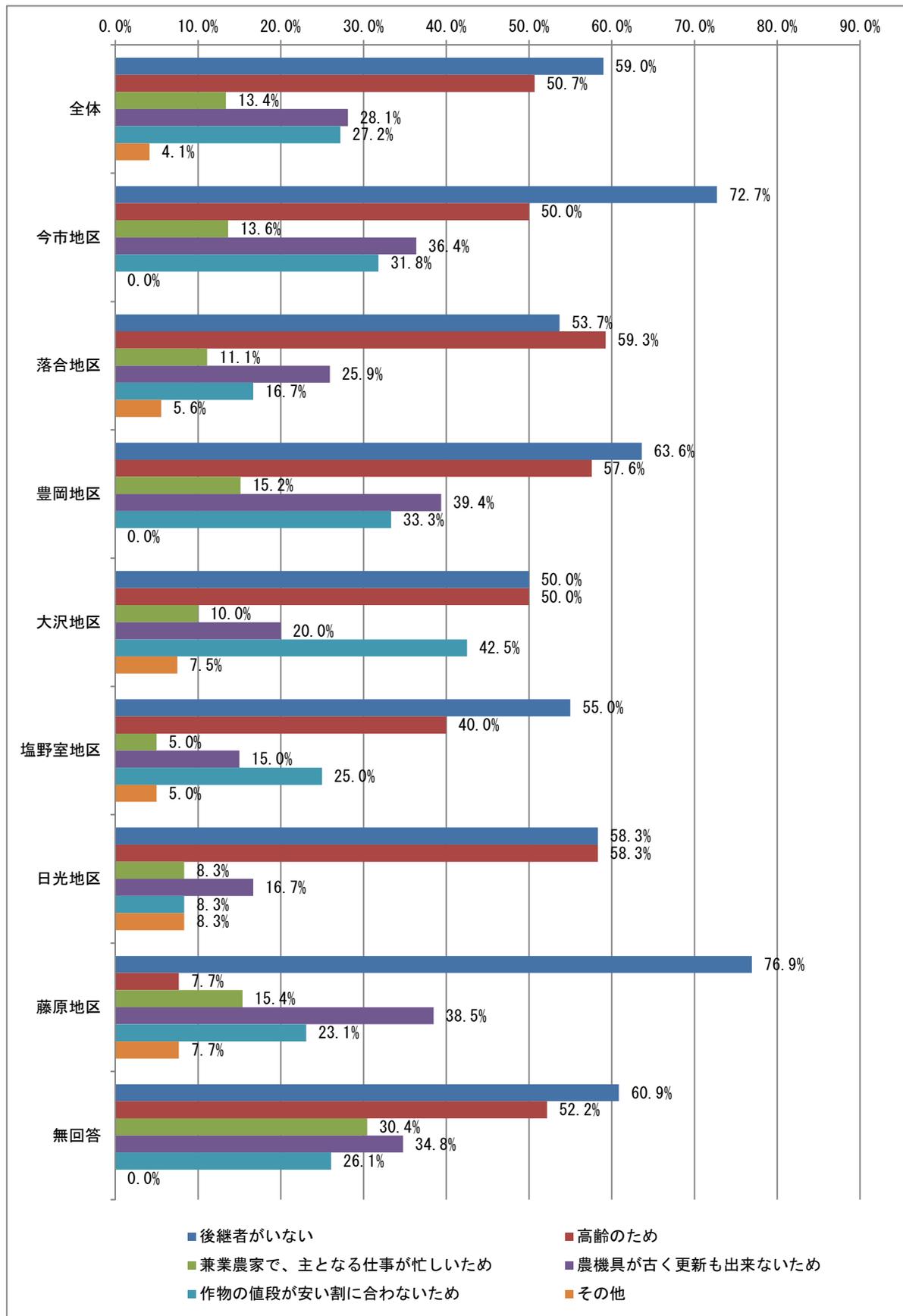
## ○コメント

“規模縮小または農業をやめたい方が、何年先にやめるか”を尋ねてみると、全体では、「今すぐにも」が31.6%で最も高く、次いで「10年くらい」が22.6%、「5年くらい」が22.0%、「3年くらい」が13.6%の順になっています。

これを地区別でみると、「今すぐにも」は日光地区で43.8%、藤原地区で38.1%、落合地区で38.0%、豊岡地区で30.4%を占めており、逆に「10年くらい」は豊岡地区で28.3%、今市地区で25.0%、大沢地区で24.5%、落合地区で23.9%の結果になり、総体的に市城南側の地区と市域北側の地区での差がうかがえます。

## 問5. 農地を貸したい方

### (1) 貸したい理由



【回答数】

	後継者がいない	高齢のため	兼業農家で、主となる仕事が忙しいため	農機具が古く更新も出来ないため	作物の値段が安く割に合わないため	その他	計	比率の母数
全体	128	110	29	61	59	9	396	217
今市地区	16	11	3	8	7	0	45	22
落合地区	29	32	6	14	9	3	93	54
豊岡地区	21	19	5	13	11	0	69	33
大沢地区	20	20	4	8	17	3	72	40
塩野室地区	11	8	1	3	5	1	29	20
日光地区	7	7	1	2	1	1	19	12
藤原地区	10	1	2	5	3	1	22	13
無回答	14	12	7	8	6	0	47	23

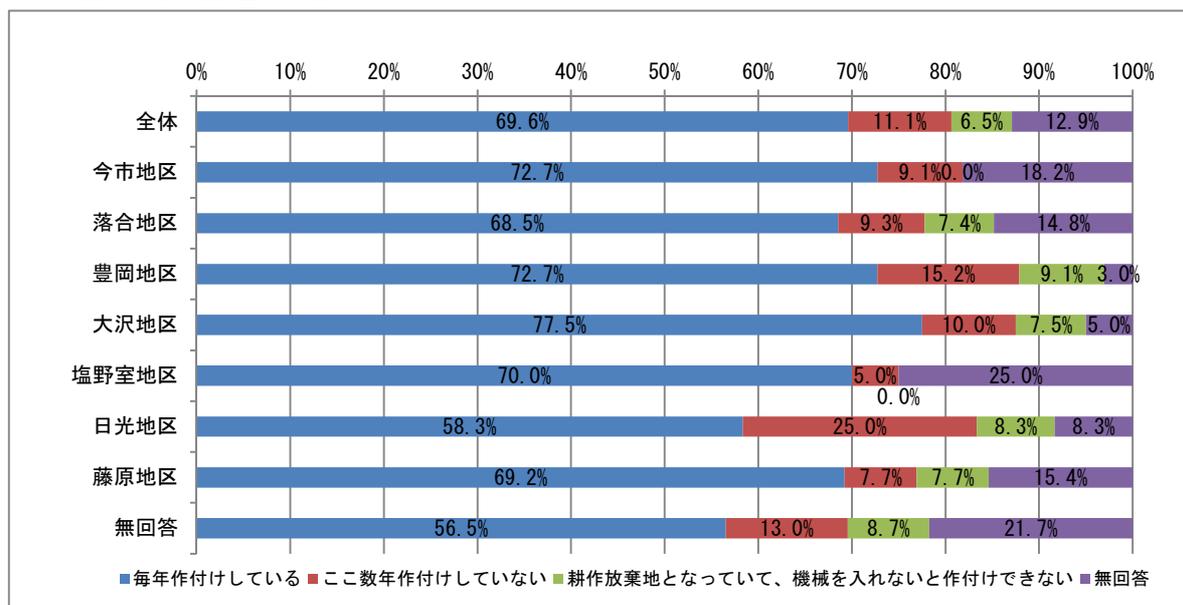
※比率計算の母数は問4で「農地を貸したい」を選択した地区別回答数（合計217）となります。

○コメント

“農地を貸したいと回答した方の理由”について尋ねてみると、全体では、「後継者がいない」が59.0%で最も高く、次いで「高齢のため」が50.7%、「農機具が古くて更新も出来ないため」が28.1%、「作物の値段が安く割に合わないため」が27.2%、「兼業農家で、主となる仕事が忙しいため」が13.4%の順となっています。

これを地区別にみると、「後継者がいない」の比率が高いのは藤原地区の76.9%、今市地区の72.7%、豊岡地区の63.6%、日光地区の58.3%となっています。また、「高齢のため」の比率が高いのは落合地区の59.3%、日光地区の58.3%、豊岡地区の57.6%となっています。「農機具が古くて更新も出来ないため」とするのは、豊岡地区の39.4%、藤原地区の38.5%、今市地区の36.4%が高い比率を示しています。

## (2) 貸したい農地の状況



### 【回答数】

	毎年作付けしている	ここ数年作付けしていない	耕作放棄地となっていて、機械を入れないと作付けできない	無回答	計
全体	151	24	14	28	217
今市地区	16	2	0	4	22
落合地区	37	5	4	8	54
豊岡地区	24	5	3	1	33
大沢地区	31	4	3	2	40
塩野室地区	14	1	0	5	20
日光地区	7	3	1	1	12
藤原地区	9	1	1	2	13
無回答	13	3	2	5	23

### ○コメント

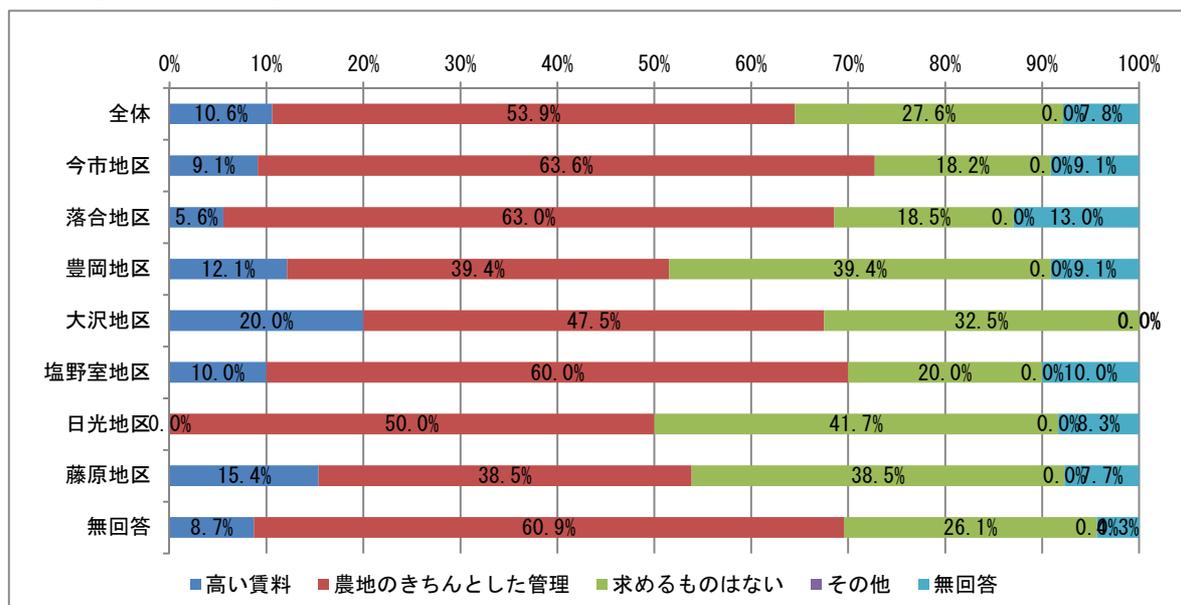
“農地を貸したいと回答した方の貸したい農地の状況”について尋ねてみると、全体では、「毎年作付けしている」が69.6%で最も高く、次いで「ここ数年作付けしていない」が11.1%、「耕作放棄地となっていて、機械を入れないと作付けできない」が6.5%の順となっています。

これを地区別にみると、この傾向はどの地区も同様ですが、日光地区では「毎年作付けしている」が58.3%で他の地区より低く、「ここ数年作付けしていない」の比率が25.0%で他の地区よりも高めになっています。「耕作放棄地となっていて、機械を入れないと作付けできない」は今市地区と塩野室地区では0.0%ですが、その他の地区では6.5～9.1%の比率となっています。

【貸したい農地の状況等で特筆すること】

地区	特筆する状況
落合	湿田で、畑作にならない所がある。水田としては、水の便が悪い所
	イノブタが年に4回入る
	電気であげ水をしている。
	一部湿田
	維持管理が大変
	たぶん形状が悪いので借り手は？（基盤整備していないので）
	湿田である
	1圃場が0.84ha
	昨年まで水稲、今年からそば猪の土手被害がひどい、ほられている。
湿田あり。来年の作付けが未定。	
豊岡	毎年作付けしているが大豆そばをまいて下さいます。
大沢	高齢でこれ以上できそうにもないから
	山の近くで猪がひどい、湿田 湿田、区画がせまく曲がっている。獣害（イノシシ）水もちが悪い。蒸留に大室ダムがあり大雨、台風の 時放水するので水田が冠水する。
塩野室	乾田で面積は30a~55aが4か所。共同場水+自然用水、共同場水のポンプが古い為、こわれたら中止という 希望者多い。用水は下流の為、早く植えるのは不可。畑作で作る人を希望している 一般財団法人日光市農業公社と利用権設定中
藤原	獣害がひどい
	獣害がひどい（サル、シカ）。ネットを張っても役に立たない。
無回答	鹿、猪等
	そばを作っている

### (3) 借り手に求めるもの



### 【回答数】

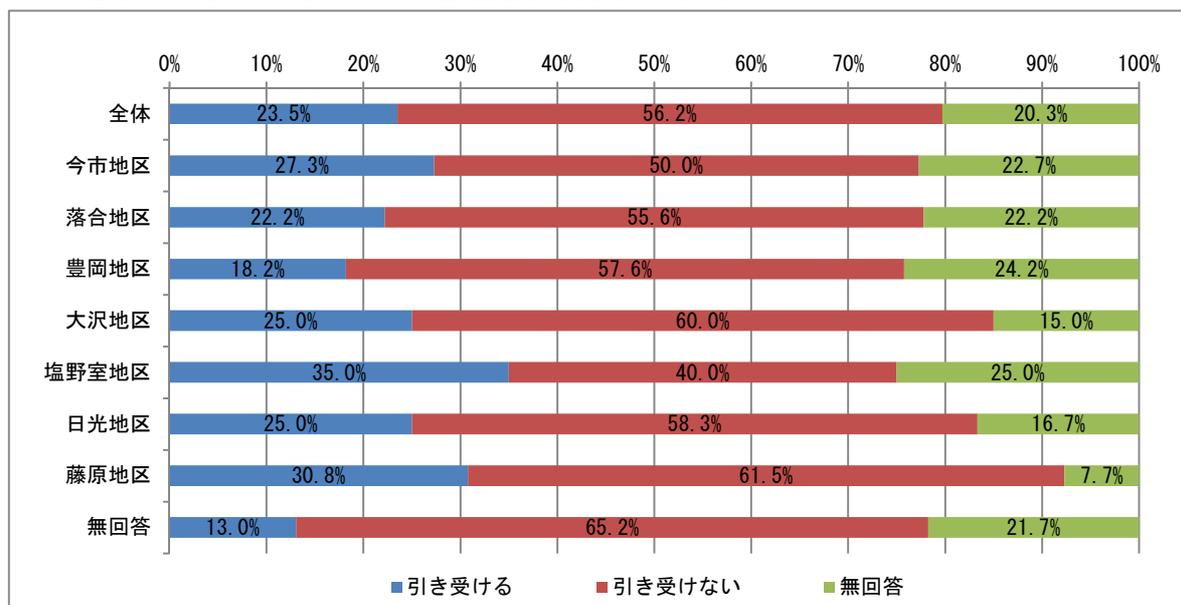
	高い賃料	農地のきちんとした管理	求めるものはない	その他	無回答	計
全体	23	117	60	0	17	217
今市地区	2	14	4	0	2	22
落合地区	3	34	10	0	7	54
豊岡地区	4	13	13	0	3	33
大沢地区	8	19	13	0	0	40
塩野室地区	2	12	4	0	2	20
日光地区	0	6	5	0	1	12
藤原地区	2	5	5	0	1	13
無回答	2	14	6	0	1	23

### ○コメント

“農地を貸したいと回答した方が借り手に求めるもの”について尋ねてみると、全体では、「農地のきちんとした管理」が53.9%で過半数を超えて最も高く、次いで「求めるものはない」が27.6%、「高い賃料」が10.6%の順となっています。

これを地区別にみると、「農地のきちんとした管理」と「求めるものはない」が豊岡地区(39.4%)と藤原地区(38.5%)で同率になっており、「高い賃料」では大沢地区が20.0%、藤原地区が15.4%と全体の10.6%よりも高い比率になっています。

#### (4) 借り手からの草刈りや水の管理を依頼された場合



#### 【回答数】

	引き受ける	引き受けない	無回答	計
全体	51	122	44	217
今市地区	6	11	5	22
落合地区	12	30	12	54
豊岡地区	6	19	8	33
大沢地区	10	24	6	40
塩野室地区	7	8	5	20
日光地区	3	7	2	12
藤原地区	4	8	1	13
無回答	3	15	5	23

#### ○コメント

“農地を貸したいと回答した方が借り手から草刈りや水の管理を依頼された場合”について尋ねてみると、全体では、「引き受ける」が23.5%、「引き受けない」が56.2%となっており、基本的に借り手の自主管理を求めています。

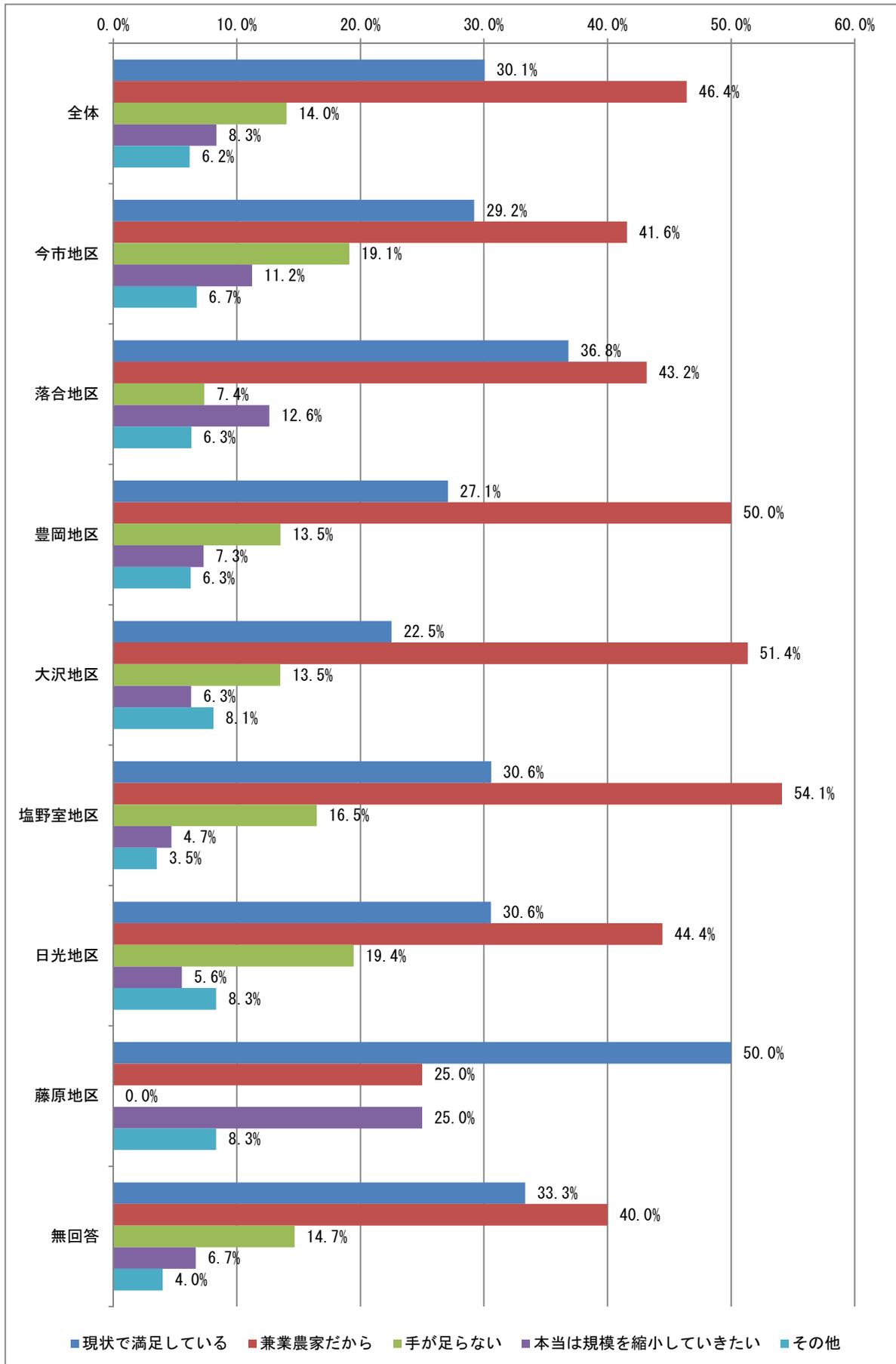
これを地区別にみると、どの地区も「引き受けない」が高い比率を占めていますが、「引き受ける」が比較的高いのは塩野室地区の35.0%、藤原地区の30.8%、今市地区の27.3%、大沢地区と日光地区の25.0%となっています。

【引き受ける又は引き受けない理由】

地区	理由
引き受ける	
今市	出来るうちはやりたい 草刈ぐらいは自分でしたいので。
落合	可能な限り作業を受ける（軽い作業なら）（機械があるなら）草刈機 出来る範囲で引き受ける。借り手の負担を少しでも軽減してあげられれば良いかと思って。 できるだけ、水田の環境をよくしたいから
豊岡	自分でできるまではやってみたい 土手の草をきれいに刈り、次の日に行って刈った草がしんなりしているのを見るととても気持ちがよいです。私が草を刈らなければ土手のそばは3尺くらいで大豆まいた人がかわいそうです。
大沢	草刈が重労働 10年先になっても水の管理くらいは出来ると思う。自走式の草刈機で出来ると思う 草刈が大変と聞いている為 借手側の面積が多くて間に合わない おそらく依頼されてないと思う 高齢のため
塩野室	草刈、水の管理は苦にならない。 自分の田の現状をみてみたい。 働けるうちは協力する
日光	まだ働けるから
藤原	自分の健康維持のため 借り手が出られない場合は出る
無回答	出来ることは引き受ける 借り手に対する協力
引き受けない	
今市	農業以外の仕事で、働き手が無い 高齢のため 高齢のため出来ない 高齢のため 高齢で作業が出来なくなる すべてを委託したい 高齢のため
落合	労力がない 体調が良くない 高齢の為約束できない 会社勤めの為、両立は無理。 草刈や水の管理が大変なので、借りた方が全部やっていただきたい。 草刈が一番大変な重労働と思う 高齢や後継者がいない状態では、水の管理や草刈が難しくなる。また、男手が無い場合、やり方が分からないようになる。 高齢のため実行に不安である 高齢で作業が困難 高齢のため 人手不足 高齢のためできないから 高齢の為に足、腰がどうなっているかわからない？ 主となる仕事が忙しいため 耕作者に全管理をしていただくことがよいと思う 高齢になってきて、草刈等が大変だから 実家に居ないことが多い
豊岡	水の管理が兼業の仕事でできないことも考えられるので。さらに農地と自宅が離れているため、できないのかと思っています。 草刈は高齢ではつらい 出来ないから 自発的に自己管理（草刈のみ）実施している。※特に草刈については、借手に実施してもらいたいが、管理が不十分なので、自己作業しています。（管理料はありません）

豊岡	体調の理由で草刈できない
	自分ではできない
	高齢化のため
大沢	全面的に責任をもって自分でやってもらいたい
	水の管理などわからない。草刈は農業外の仕事が忙しくてできない。
	草刈は大変ですから。休日にしなければ出来ないから。
	貸した場合草刈等は一体であるので出来ない。
	出来れば全て委託したい
	高齢のため
	時間の都合がつかない
	体調不良で農業ができない
	後継者がいない
	高齢になる。
労力が厳しいから	
塩野室	労働力不足
	借り手がすべてを行うべきである為、管理全般、水耕等も借り手もつべき
	高齢化と後継者がいないため作業ができなくなるため
日光	生産者が管理するのは当然
	高齢になる為
	夫が急死し、自分1人では出来ない。しかし借り手に荒らさずに使ってもらいたい。
	借りていただけるのであれば、草刈等含めてやっていただけるとありがたい。
藤原	できない、地元に住んでいないので
	高齢、病弱の為
	それでは貸している意味がない
	忙しい
無回答	高齢により離農するのだから身体が動かない。
	賃貸料をもらわないから草刈くらいはやってほしい。
	高齢のため、作業ができない
	仕事が忙しい
落合	主となる仕事が忙しい為
	草刈のみやる。水の管理は保障できない。
無回答	貸して自分の田だけでも水の管理をしてあげたい。
	体力がない
選択肢の回答なし	

## 問6. 現状維持の方の理由



【回答数】

	現状で満足している	兼業農家だから	手が足りない	本当は規模を縮小していきたい	その他	計	比率の母数
全体	180	278	84	50	37	629	599
今市地区	26	37	17	10	6	96	89
落合地区	35	41	7	12	6	101	95
豊岡地区	26	48	13	7	6	100	96
大沢地区	25	57	15	7	9	113	111
塩野室地区	26	46	14	4	3	93	85
日光地区	11	16	7	2	3	39	36
藤原地区	6	3	0	3	1	13	12
無回答	25	30	11	5	3	74	75

※比率計算の母数は問1で「現状維持」を選択した地区別回答数（合計 599）となります。

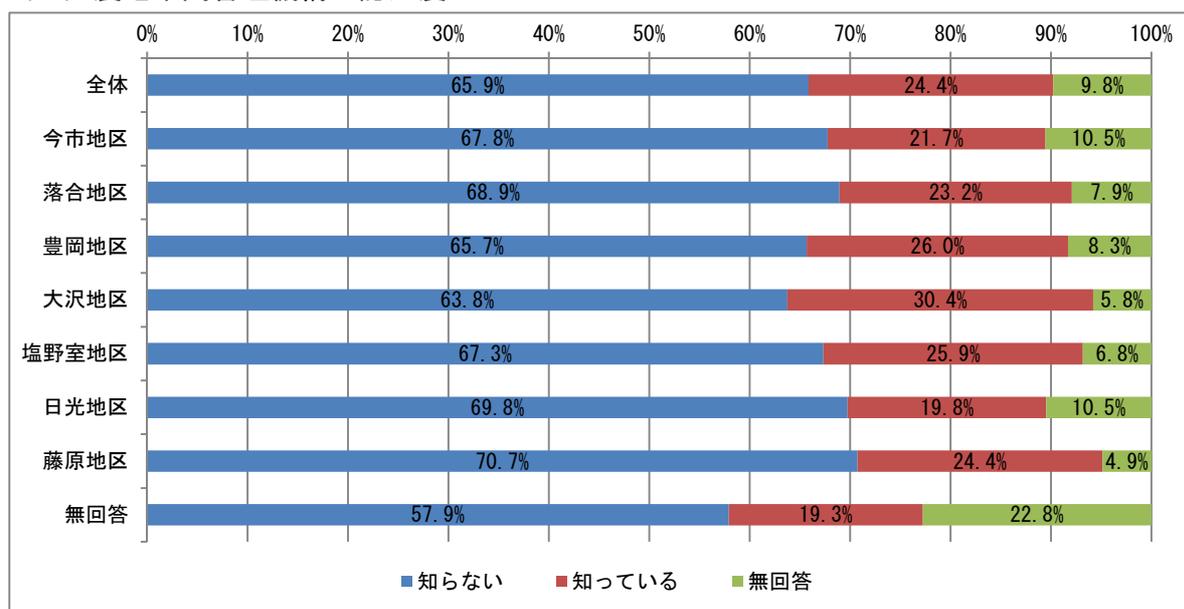
○コメント

“現状維持を回答した方の理由”について尋ねてみると、全体では、「兼業農家だから」が46.4%で最も高く、次いで「現状で満足している」が30.1%、「手が足りない」が14.0%、「本当は規模を縮小していきたい」が8.3%の順となっています。

これを地区別で見ると、藤原地区のみが「現状で満足している」50.0%、「兼業農家だから」「本当は規模を縮小していきたい」が25.0%となっており、その他の地区は全体と同様の傾向を示しています。

## 問7. 農地中間管理事業

### (1) 農地中間管理機構の認知度



#### 【回答数】

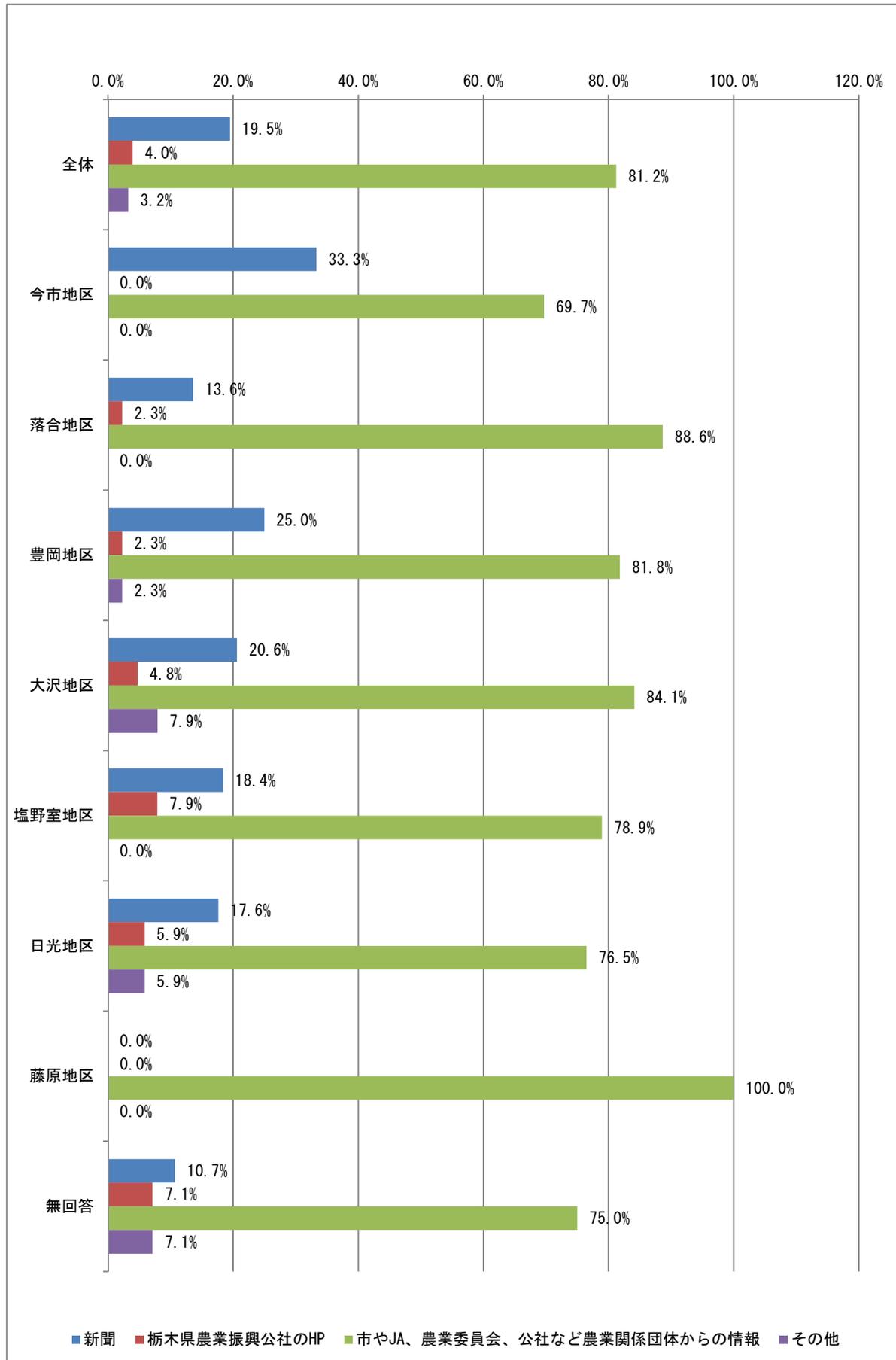
	知らない	知っている	無回答	計
全体	749	277	111	1,137
今市地区	103	33	16	152
落合地区	131	44	15	190
豊岡地区	111	44	14	169
大沢地区	132	63	12	207
塩野室地区	99	38	10	147
日光地区	60	17	9	86
藤原地区	29	10	2	41
無回答	84	28	33	145

#### ○コメント

“農地中間管理機構の認知度”について尋ねたところ、全体では、「知らない」が65.9%、「知っている」が24.4%の結果であり、3世帯のうち2世帯にはまだ知られていないことになり、平成26年度開始の新事業ではありますが、今後一層の周知を広げていくための対応が求められます。

これを地区別でみると、どの地区もほぼ同様の傾向を示しています。

(2) 農地中間管理機構を知った方法



【回答数】

	新聞	栃木県農業振興公社のHP	市や JA、農業委員会、公社など農業関係団体からの情報	その他	計	比率の母数
全体	54	11	225	9	299	277
今市地区	11	0	23	0	34	33
落合地区	6	1	39	0	46	44
豊岡地区	11	1	36	1	49	44
大沢地区	13	3	53	5	74	63
塩野室地区	7	3	30	0	40	38
日光地区	3	1	13	1	18	17
藤原地区	0	0	10	0	10	10
無回答	3	2	21	2	28	28

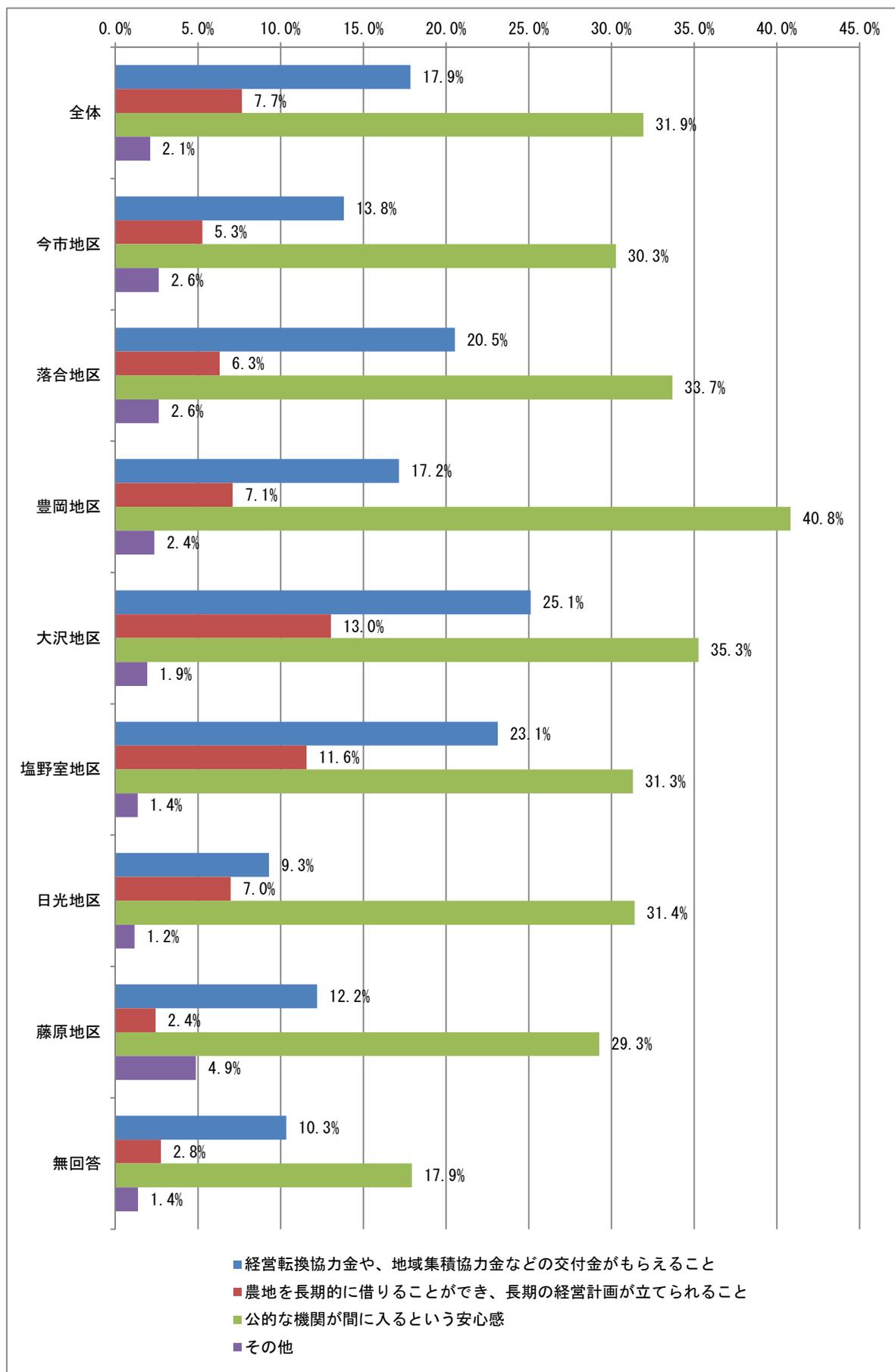
※比率計算の母数は問7の(1)で「知っている」を選択した地区別回答数（合計277）となります。

○コメント

“農地中間管理機構を知った方法”について尋ねたところ、全体では、「市やJA、農業委員会、公社など農業関係団体からの情報」が81.2%で最も高く、次いで「新聞」が19.5%、「栃木県農業振興公社のホームページ」が4.0%、「その他」が3.2%の順になっています。

これを地区別にみると、藤原地区のみ「市やJA、農業委員会、公社など農業関係団体からの情報」が100.0%であり、その他の地区では全体とほぼ同様の傾向を示しています。

### (3) 農地中間管理機構を通じた利用権設定のメリット



【回答数】

	経営転換協力金 や、地域集積協力 金などの交付金 がもらえること	農地を長期的に 借りることがで き、長期の経営計 画が立てられる こと	公的な機関が間 に入るという安 心感	その他	計	比率の 母数
全体	203	87	363	24	677	1,137
今市地区	21	8	46	4	79	152
落合地区	39	12	64	5	120	190
豊岡地区	29	12	69	4	114	169
大沢地区	52	27	73	4	156	207
塩野室地区	34	17	46	2	99	147
日光地区	8	6	27	1	42	86
藤原地区	5	1	12	2	20	41
無回答	15	4	26	2	47	145

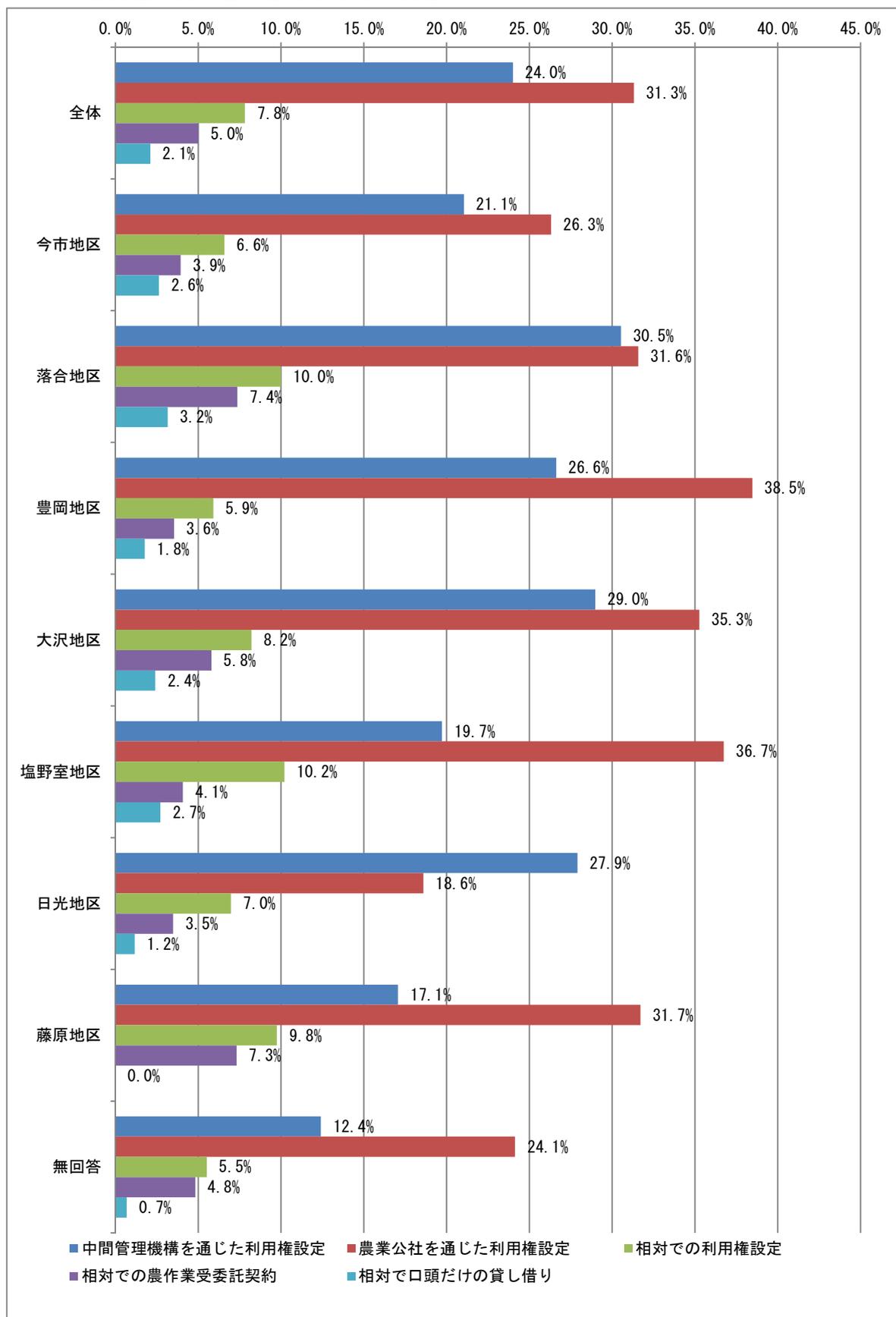
※比率計算の母数は地区別回収票数（合計1,137）となります。

○コメント

“農業中間管理機構を通した利用権設定のメリット”について尋ねたところ、全体では、「公的な機関が間に入るという安心感」が31.9%で最も高く、次いで「経営転換協力金や、地域集積協力金などの交付金がもらえること」が17.9%、「農地を長期的に借りることができ、長期の経営計画が立てられること」が7.7%で続いています。

これを地区別にみると、いずれの地区も同様の傾向を示しており、特に豊岡地区では「公的な機関が間に入るという安心感」が40.8%と特に高くなっています。

(4) 今後農地の貸し借りをを行う場合の賃借方法



【回答数】

	中間管理機構を通じた利用権設定	農業公社を通じた利用権設定	相対での利用権設定	相対での農作業受委託契約	相対で口頭だけの貸し借り	計	比率の母数
全体	273	356	89	57	24	799	1,137
今市地区	32	40	10	6	4	92	152
落合地区	58	60	19	14	6	157	190
豊岡地区	45	65	10	6	3	129	169
大沢地区	60	73	17	12	5	167	207
塩野室地区	29	54	15	6	4	108	147
日光地区	24	16	6	3	1	50	86
藤原地区	7	13	4	3	0	27	41
無回答	18	35	8	7	1	69	145

※比率計算の母数は地区別回収票数（合計 1,137）となります。

○コメント

“今後農地の貸し借りをを行う場合の貸借方法”について尋ねてみると、全体では、「農業公社を通じた利用権設定」が 31.3%で最も高く、次いで「中間管理機構を通じた利用権設定」が 24.0%となっており、公的性格の第三者を介しての利用権設定を半数以上が希望しています。また、「相対での利用権設定」の 7.8%、「相対での農作業受委託契約」の 5.0%、「相対で口頭だけの貸し借り」の 2.1%から、当事者同士での了解のもとを希望するのは約 15%程度となっています。

これを地区別でみると、いずれの地区も同様の傾向がうかがえますが、日光地区のみ「中間管理機構を通じた利用権設定」が 27.9%で他の方法よりも高くなっています。

【どのような形で貸し借りを行いたいかの理由】

地区	理由
<b>中間管理機構を通じた利用権設定</b>	
今市	相対で貸貸すると条件がまちまちになる可能性がある
	当事者間の摩擦防止、責任、安心感
	安心感
	公的な機関なので安心感があるのでトラブルが少ないと思う。
	公的な機関が間に入る安心感
	便利そう
	事後の不具合の防止
	公的機関を通じているので、安心して作業に専念できるから。
	安心感があると思うから
	安心して貸し付ける
	安心できるから
	契約の手続きが楽
	面倒な諸々の手続き、対人関係などのトラブル緩和
落合	条件による契約を結びたい
	安全で信用できる利用権が設定できるから
	貸手、借手の情報が集約できる
	安心感、協力金の交付 etc
	安心性
	貸し借りにおける安心感
	中間管理機構や農業公社などを通じた利用権設定だったら安心すると思います。
	貸し手に協力金がでるので
	集積協力金がもらえるから。前の段階では、何年かの契約でも貸し手が貸して欲しいと言われれば、契約年数があっても近所（貸手）だと、揉め事がいやだから言われるままにする。
	公的機関が間に入った方が安心感がある
	公的な機関を通す
	安心して貸すことができる
	公的機関が間に入るので安心感
安心感	
公的な機関が間に入るという安心感	

落合	いろいろなメリットがあるから。
	現状原野状態の土地を貸したいが所有権者が複数居るため分割協議が出来ない状況になっている為農地として復活させる事が出来ないので困っています。
	めんどろがなさそうだから
豊岡	公的な機関が入ることは、まず安心できる所です。法的にも安心できる。(正直、詳細はしらないのですが)
	折角、設立したのだから活用すべき
	公的機関であることの安心感
	安心感がある
	機構ができたのだから利用する
	規定が明確になっており、貸し手側に一定の収入が見込める
	安心だから
	交付金と安心感
	公平な視点で問題が処理される可能性が期待できる
	行政を通す事で、面倒なトラブル等のリスクを避けられる
	公的な中間管理機構の仲介により、信頼度がより高くなると思われるため
	安心感
	後継者がいないため、規模拡大が難しい現状であるため。
	[3]と同じ理由から(交付金がもらえる。長期的に借りられる。公的機関が間に入る安心感。)
事務的に楽、安心感	
現時点で公社との違いが良く分からないが、安心して借りられるなら機構を通したい。	
大沢	公的機関が間に入ることにより、トラブル等が起きた場合の対応力が公平で良いと思うので。
	安心感
	公的な機関であり安心。相対では心配。
	機関が間に入ると安心
	安心感
	相対だといろんな問題が生じる場合があるので(土地の返還とか、その他)。公平な立場の人が入った方が安心します。
	借りた農地を利用する条件等、貸しての希望等を決めて、貸した側との問題をなくしたい。問題なくやっていきたいと思いますので、間に機構、公社が入っていた方がいいと思う。
	安心感
	機構が担い手ごとに希望を踏まえて利用農地を集約して担い手に転貸できる事。
	適切な公的機関が間に入ってもらう事により、地主とのトラブルがもしあった場合に相談、指導がしてもらえる点。
	公的な機関が間に入るという安心感
	安心感がある。問題の解決がしやすい。
	お互いの契約であるから、トラブルにならないと思うため。
	安心できると思う
安心して貸し借りが出来るから	
時代に即したものと思われる。	
相対での貸し借りよりも第三者が入る事により、トラブルの際円滑に話しを進めることができるから	
公的な機関が間に入る安心感!	
手続きがめんどろ	
あいだに公的な機関が入った方が安心(後のトラブルつながらないように)	
機構が間に入ってくれる事で、利用権設定などの話がスムーズにいくと思うので。	
塩野室	公的な安心感(トラブル防止)
	交付金で圃場整備代の一部にしたい
	貸借のトラブル解消
	トラブル防止のため
	協力金などの交付金がもらえるから
	協力金等の交付金が出るだけ農業公社より有利か
	公的機関が仲介するため、農業公社でも同様
	自分管理から公的管理になるから。
	公的機関が間に入るから
	現在受託作業をしている人達が高齢化しつつあり、引き受けてくれる人を探すのも大変。機構を利用するといろいろなメリットがあるという事なので利用した方がいいと思った
トラブルの防止	
貸し借りを行ってない為、どの様にすれば良いか知りたい。良い点、悪い点など	
日光	長年、休耕田となっているから
	安心できる
	安心感が有る為

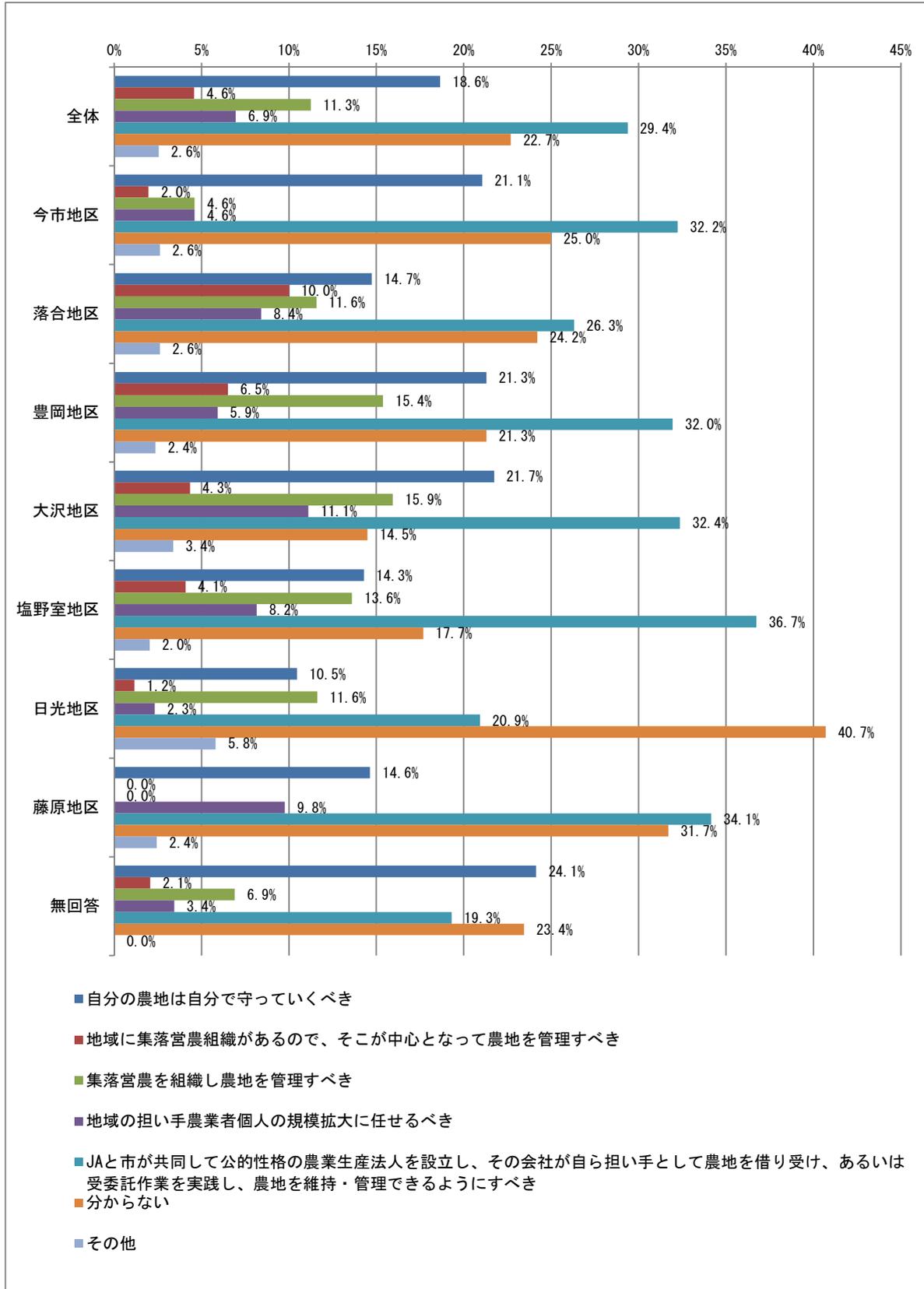
日光	安心のため
	農地が荒れない事、公的な機関が間に入るという安心感
	安心できる
	中間管理機構を通したほうが信用度が高いと感じられる。
	公的な機関が信頼できる
	公的機関を通した契約のため安心して農地の貸し借りができる。
	トラブルなど起きにくいので
現在、相対での利用を了解しています。相手から返された場合困ります	
藤原	お互いの信頼関係が大事
	期間設定がある
無回答	農地を長期的に借りることができる
	良く分からない。その時になって検討する。
	現在は農作業受委託契約書による
	相対では責任を持ってくれないと思う
<b>農業公社を通じた利用権設定</b>	
今市	役所が中に立って居るので安心です
	今まで通りで良いと思う
	相対より利害関係が生じにくいと思う
	公的な機関が間に入るので、安心感があるから
	安心である
	現在も公社を通じて行っている
	現在、公社を利用して貸している
	安心感がある。
	高齢者になると面積を拡大する必要はなく現状のままで将来は公社に相談が必要です。
	信頼できるから
身近で安心できるから	
落合	賃貸料が振込みになっているので安心
	地元で目に見え安心できる。今までの制度で特に問題はない。
	実績、経験が長い
	安心感がある
	借り手と貸し手の間で問題等が発生しにくい為
	居住地の公的機関の対応で安心確実
	公的機関で安心
	公的な機関が間に入るという安心感
	安心したから
	公的な機関が間に入るのでお互いに安心できると思う
	相対だと何かトラブルがあったとき困るから
	中間管理機構＝天下り確保＝農家からの手数料＝税金＝必要なし
	支払いがスムーズであるから
現在全ての土地を貸している	
豊岡	相対での利用権設定をして、一部の農地を貸しているが将来は農業公社を通じての利用権設定にしたい。
	後々の問題が少ないと思う
	安心した契約
	現在、農業公社を通じた利用権設定をしているが、今後の貸し借りは予定にありません。
	安心して貸し借りが出来る
	個人との契約でないので安心です。
	貸し借りを役所は中間で厳正しておく
	中間管理機構のシステム、内容が不明な為
	農業公社を通じた利用すると安心感ある
	既に総所有している水田の約半分に当たる面積を、本制度によって行っており、特別不満はありません。
	気軽に相談できる。農地中間管理機構は農業公社が兼務できるのでは？
	土地の所有権を維持できる
	後で問題が生じないように
	将来は農業公社が主体となった農地管理を行わざるを得ないと思うので。
	安心できる
	公社が間に入った方が安心だから
今までに貸し借りをを行った人の話を聞くと、公的な機関が間に入るので安心安全と言われました。	
農地面積が小さいので、中間管理機構を通しては賃貸契約が出来そうにもない。	
公社を通すと免税券がもらえたり、相手に小作米のことも言いやすいと思うから。	

豊岡	現状の運営状態を知っており安心できる。
	今まで通りがわかりやすい
	くるくるかわる農政として農協法まで書き換えようとしている。中間管理機構で土地を集積し、法をかえて大企業の生産法人が有利になるような戦後の農地解放の逆をやる。第一歩のように感じるので会社の方がよいのかなと思う。
大沢	今までの設定で十分
	利害が生じにくい。地域に密着している安心感がある
	中間管理機構のHPによる流れ（概要）を見ても、詳細が不明であり、選定過程がブラックボックス化され、フェアでない気がする。したがって、今行っている方法が慣れている。従来の方式で行いたいため
	農地の賃借をした事ないから、わからないので。
	安心だから
	当面安心して貸していける人をお願いしたい。
	公的な機関が入るのでトラブル等の時の安心感
	物納出来るので。
	第三者の確認が必要
	県全体を一括管理することは無理。圃場整備していることが、最低の条件となると思われる。市内には小面積の圃場が多く、機械作業がしにくい所も多く、市の単位でない無理。
	貸し手が農業公社を通してまでも貸してはくれない
	安心できる
	長期の計画が立てられ、安心感が有る。
	今までがそうだったから
公的な機関が間に入るので安心して貸し借りができる	
塩野室	安心してまかせられると考える
	農業公社と通した方が安心
	市、農業公社は身近に感じるため、地域の実情をよく分かっていると思う。
	他地域でも設定したい
	安心（契約に関する事）
	安心して貸し借りができるから
	明確だから。お互いに遠慮がいらぬから。
	安心感
	色んなトラブルが有ると思います。
以前経験があるから	
日光	中間管理機構は、農業振興地域内の農用地しか借りないため
	安心だから
藤原	現在利用権設定契約中。（一般財団法人日光農業公社）
	公的な機関が入ることにより、将来においてのトラブルが未然に防げるのではないかなと思う。
	内容がハッキリするから
	担い手に何かあった時に対応してもらえる
	トラブル防止になる
トラブルを避けるため	
無回答	依頼するため、管理の面で、不十分な点があるから
	安心だから
	公的な機関での安心感
	公的な機関が入り安心感から
<b>相対での利用権設定</b>	
今市	集落内、又、組内
落合	賃貸機関の10年以上は長い
	公的機関にお金を使うならば、他に使い道があるのではないかな？農協をしっかりとさせる事ができるならば、もっと信頼できる組織になると思います。
	個人間での信用でなり立ち、最終的に土地は個人のものでなければならない。
	現在数名の借り手の栽培を見ておりますが、管理等に於いてAさんよりBさんの方が良いと思うことがある為、相対で自分のお願したい方を選びたい。
豊岡	まずは相手を探してみつからない場合は中間管理機構を利用する。「中間-」は見ず知らずの他人に貸す場合もあると思うが、公的機関が間に入るといっても、相手の人となりかわからない不安があるため。
	借り手の方の高齢
	現在相対で委託している
	ただあかしておくのでは草ばかり生えてしまいます。
大沢	他に依頼すると手続きがめんどろうでは？
	知っている人だから
	親戚なので融通がきく

大沢	中間管理機構を通しても作業事務や細部内容については市町が実施しないとならないのでは。市町の負担は同じなので。	
塩野室	相手を知っている方が良い	
	以前、相対での貸し借りをしたことがあるから	
	人間関係で安心	
	相手方のひととなりは知った上で信頼できる人をお願いしたい。(農地を大切に使用してもらいたい。)	
	現在、お互いに誓約書を交わし、耕作してもらっております。30a 以外は自己管理水田耕起、春1回、秋1回、依頼しております。	
	農地が少ないから 今までのおつきあい	
日光	手続きが面倒 簡単だから	
藤原	現状	
<b>相対での農作業受委託契約</b>		
今市	現在、知人で又、信頼出来る人に作ってもらっている為、この形を続けたい。	
落合	現在も近所の方に作業をお世話になっているからです。 現状維持 面積が少ないため 現在も受託契約している。	
	従前からの契約だから 作物の価格が不安定なので、利用権設定よりも、作業受託の方が有利なのではないか(借りる(受ける)場合) 現在民間への委託契約でうまく機能しているから。	
	大沢	信頼できる人にたのみたい 信用・信頼があつての契約だから
塩野室	政策の変更がある為	
藤原	将来の方法にて進めたい。制度が変わる事が多く内容わかりづらい。	
<b>相対で口頭だけの貸し借り</b>		
今市	契約が面倒 作業の手間が高いのではないかと。	
豊岡	5年、貸し借り(今年で3年)	
大沢	相手を信用しているから	
塩野室	近所の人に貸したい	
<b>選択肢の回答なし</b>		
今市	貸し借りはしなないです。 現時点では検討中(未定) 農地中間管理事業は知らないなので、農協などに相談して委託するのかと思っていたので。	
	落合	どのような条件でも良い 今はまだ分からない
	豊岡	荒地では有るが、借りてくれる人がいれば考えたい。荒地を維持するのが大変な為。
大沢	何かよいのかまだわかりません 考えてない スムーズに借受が出来れば、管理機構でも公社でもよい	
	塩野室	現在全面委託で満足しております やっていただいている今この問いに対してよく理解できません

## 《地域農業と農地を守る方策について》

### 問1. 農業経営に関する問題解決の方策



【回答数】

	自分の農地は自分で守っていくべき	地域に集落営農組織があるので、そこが中心となって農地を管理すべき	集落営農を組織し農地を管理すべき	地域の担い手農業者個人の規模拡大に任せるべき	JAと市が共同して公的性格の農業生産法人を設立し、その会社が自ら担い手として農地を借り受け、あるいは受委託作業を実践し、農地を維持・管理できるようにすべき	分からない	その他	計	比率の母数
全体	212	52	128	79	334	258	29	1,092	1,137
今市地区	32	3	7	7	49	38	4	140	152
落合地区	28	19	22	16	50	46	5	186	190
豊岡地区	36	11	26	10	54	36	4	177	169
大沢地区	45	9	33	23	67	30	7	214	207
塩野室地区	21	6	20	12	54	26	3	142	147
日光地区	9	1	10	2	18	35	5	80	86
藤原地区	6	0	0	4	14	13	1	38	41
無回答	35	3	10	5	28	34	0	115	145

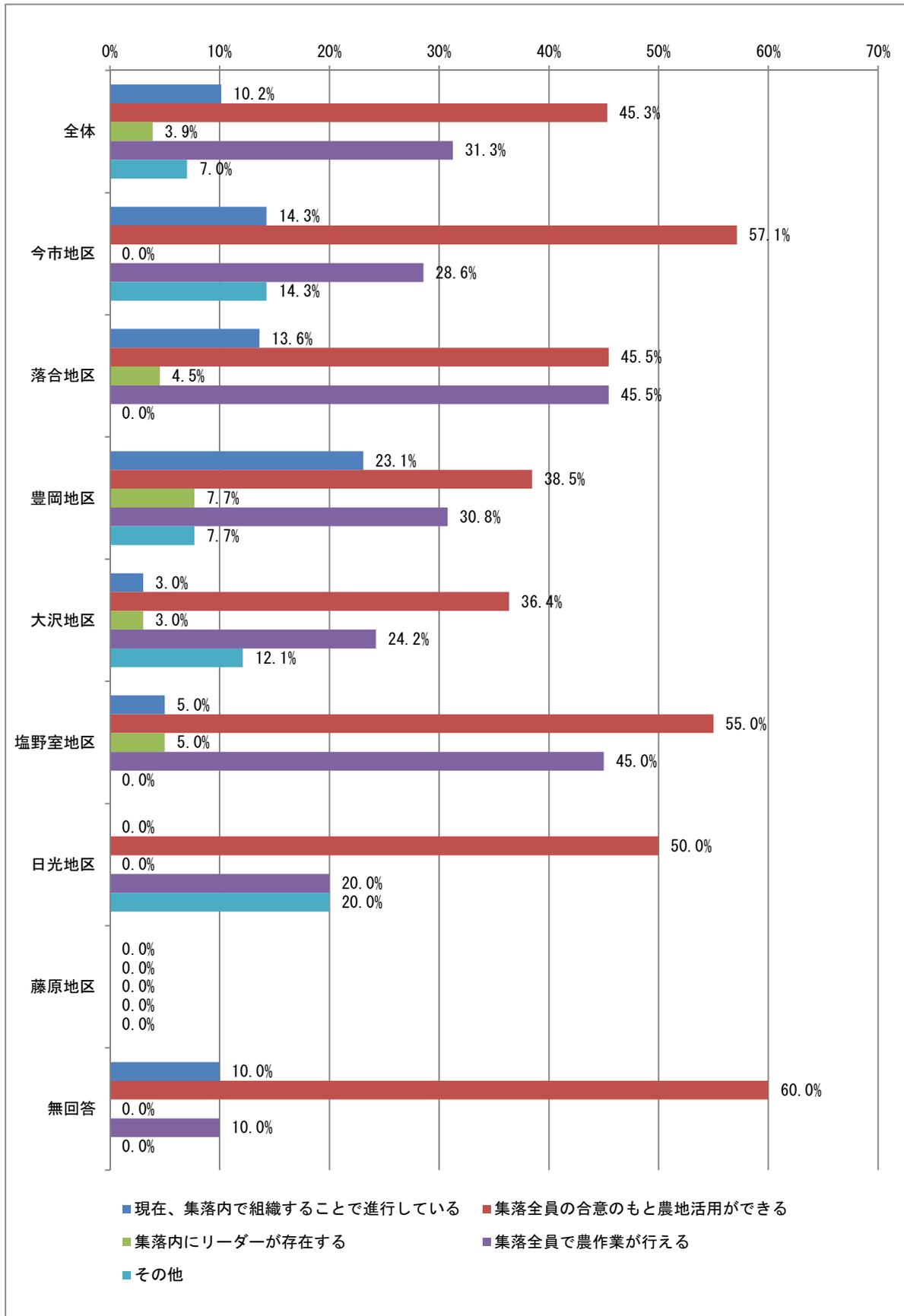
※比率計算の母数は地区別回収票数（合計1,137）となります。

○コメント

“農業経営に関する問題解決の方策”について尋ねてみると、全体では、「JAと市が共同して公的性格の農業生産法人を設立し、その会社が自ら担い手として農地を借り受け、あるいは受委託作業を実践し、農地を維持・管理できるようにすべき」が29.4%で最も高く、次いで「分からない」が22.7%、「自分で農地は守っていくべき」が18.6%、「集落営農を組織し農地を管理すべき」が11.3%で続いています。特に「分からない」を回答している方が多いことから、将来の農業経営について考える機会を検討することが望まれます。

これを地区別にみると、「分からない」が最も高い日光地区を除き、同様の傾向を示しています。「JAと市が共同して公的性格の農業生産法人を設立し、その会社が自ら担い手として農地を借り受け、あるいは受委託作業を実践し、農地を維持・管理できるようにすべき」の比率が高いのは、塩野室地区の36.7%、藤原地区の34.1%、大沢地区の32.4%、今市地区の32.2%となっています。また、「集落営農を組織し農地を管理すべき」の比率が高いのは、大沢地区の15.9%、豊岡地区の15.4%、塩野室地区の13.6%となっています。

## 問2. 「集落営農を組織し管理」を回答した理由



【回答数】

	現在、集落内で組織することで進行している	集落全員の合意のもと農地活用ができる	集落内にリーダーが存在する	集落全員で農作業が行える	その他	計	比率の母数
全体	13	58	5	40	9	125	128
今市地区	1	4	0	2	1	8	7
落合地区	3	10	1	10	0	24	22
豊岡地区	6	10	2	8	2	28	26
大沢地区	1	12	1	8	4	26	33
塩野室地区	1	11	1	9	0	22	20
日光地区	0	5	0	2	2	9	10
藤原地区	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	6	0	1	0	8	10

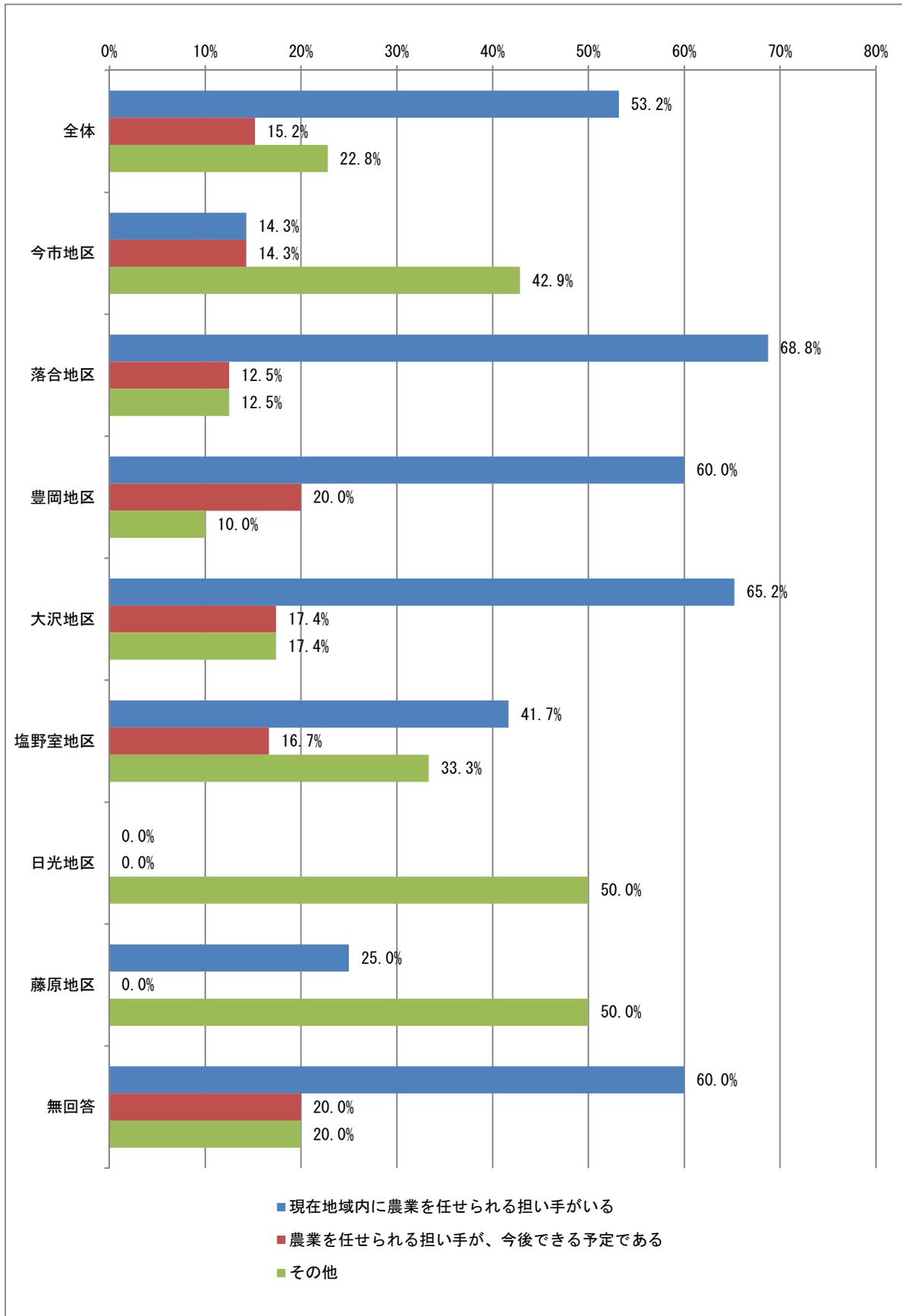
※比率計算の母数は問1で「集落営農を組織し管理」を選択した地区別回答数（合計128）となります。

○コメント

問1で“集落営農を組織し農地を管理と回答した理由”について尋ねてみると、「集落全員の合意形成のもと農地活用ができる」が45.3%で最も高く、次いで「集落全員で農作業が行える」が31.3%、「現在、集落内で組織することで進行している」が10.2%と続いています。

これを地区別で見ると、どの地区も「集落全員の合意形成のもと農地活用ができる」は最も高い比率を示していますが、「集落全員で農作業が行える」も比較的高くなっているのは落合地区の45.5%と塩野室地区の45.0%となっています。

### 問3. 「担い手（認定農業者等個人）」を回答した理由



【回答数】

	現在地域内に農業を任せられる担い手がいる	農業を任せられる担い手が、今後できる予定である	その他	計	比率の母数
全体	42	12	18	72	79
今市地区	1	1	3	5	7
落合地区	11	2	2	15	16
豊岡地区	6	2	1	9	10
大沢地区	15	4	4	23	23
塩野室地区	5	2	4	11	12
日光地区	0	0	1	1	2
藤原地区	1	0	2	3	4
無回答	3	1	1	5	5

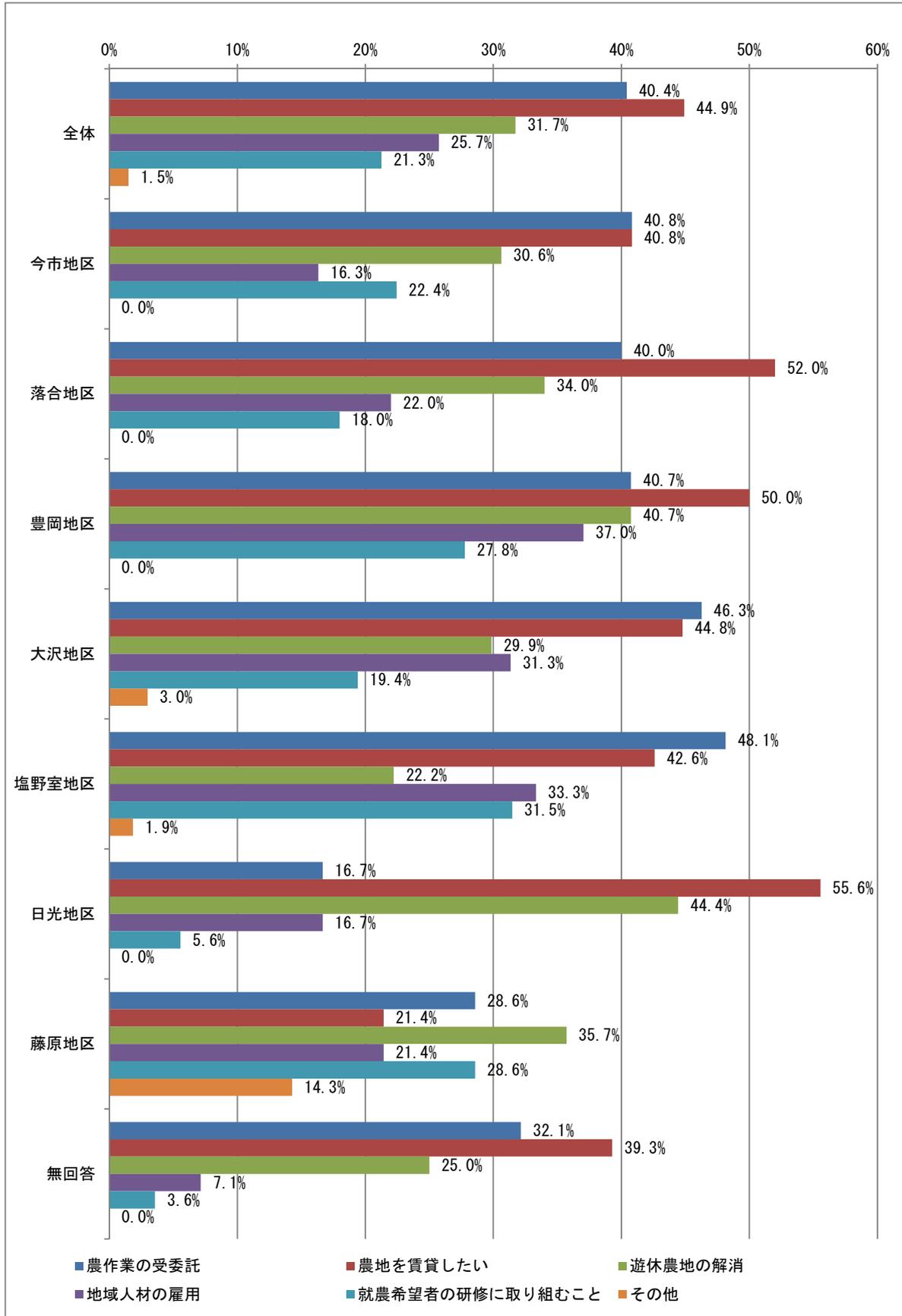
※比率計算の母数は問1で「担い手」を選択した地区別回答数（合計79）となります。

○コメント

問1で“担い手（認定農業者等個人）と回答した理由”について尋ねてみると、全体では、「現在地域内に農業を任せられる担い手がいる」が53.2%、「農業を任せられる担い手が、今後できる予定である」が15.2%、「その他」が22.8%の結果であり、現在担い手が確保できているのは過半数という状況になっている。

これを地区別で見ると、今市地区では「その他」が42.9%、日光地区と藤原地区でも「その他」が50.0%で最も高い比率となっています。「現在地域内に農業を任せられる担い手がいる」の比率が特に高いのは、落合地区の68.8%、大沢地区の65.2%、豊岡地区の60.0%となっています。

問4. 「公的性格の農業生産法人」を回答された方の法人への希望



【回答数】

	農作業の 受委託	農地を賃 貸したい	遊休農地 の解消	地域人材 の雇用	就農希望 者の研修 に取り組 むこと	その他	計	比率の 母数
全体	135	150	106	86	71	5	553	334
今市地区	20	20	15	8	11	0	74	49
落合地区	20	26	17	11	9	0	83	50
豊岡地区	22	27	22	20	15	0	106	54
大沢地区	31	30	20	21	13	2	117	67
塩野室地区	26	23	12	18	17	1	97	54
日光地区	3	10	8	3	1	0	25	18
藤原地区	4	3	5	3	4	2	21	14
無回答	9	11	7	2	1	0	30	28

※比率計算の母数は問1で「公的性格の農業生産法人」を選択した地区別回答数（合計334）となります。

○コメント

問1で“公的性格の農業生産法人と回答した方が法人に希望すること”について尋ねてみると、全体では、「農地を賃貸したい」が44.9%で最も高く、次いで「農作業の受委託」が40.4%、「遊休農地の解消」が31.7%、「地域人材の雇用」が25.7%、「就農希望者の研修に取り組むこと」が21.3%で続いています。

これを地区別にみると、「農地を賃貸したい」が比較的高いのは日光地区の55.6%、落合地区の52.0%、豊岡地区の50.0%となっています。また、「農作業の受委託」が最も高いのは塩野室地区の48.1%、大沢地区の46.3%となっています。藤原地区においては「遊休農地の解消」が35.7%で最も高く、「農作業の受委託」と「就農希望者の研修に取り組むこと」が28.6%で続いています。

## 《今後、地域の農業発展のためのご意見やアイデア等》

地区	自由意見
今市	・我々集落では水稲を行うだけマイナスになるとの事が多い。 ・補助整備は？ ・日本の主食である米があまりにも安い。作らない方が良く！
	現状維持で農地、自然を守りたいが、本人及び受託者の高齢化等で作業が困難になった場合を思うと悩む。
	特産地になるような農作物の開発。この場所だけの農作物の改良。
	・農地保全の良策。・アンケートの公表をすること（まとめ）。 ・減反政策を廃止しないと益々後継者は育たない。善後策は行政指導の責任でもある。
	稲作中心からの転換。特産品作り。技術の普及拡大。集落営農組合の設立（メイン特産づくり）。日光ブランド作り。
	JA と市が共同して、会社を設立して、小規模の農家にも手を差し伸べ、耕作放棄地とならない様にしてもらいたい。農業振興地域を広げてもらいたい。
	集落営農管理が良いと思いますが、今後もこのような形で農業が残っていくのか、将来とても心配です。
	道の駅等の大規模な販売所が必要だと思う。
	昭和 55 年農業廃業 農地はある
	・現状では農地を貸した人達は、農地を貸した後は人任せ。自分の田・畑は田の水・土手草刈等は田の持主がやるべき ・7,500 円が（前は 15,000 円）無くなった場合は田の持ち主が補うべき
	農業をやりたい人に土地を売りたい
	高齢なので出来ない。
	農地の線引きにより、農業振興地区と調整区域にわかれているため、私は農業経営上、水路の整備や農道の整備などで、どちらも農林課や県の農政部の働きを期待したい。
	農作業の賃金が全体的に高いと思うことと、材料も高いと思う。少しでも安価であれば、農家の支出も減少し、収入も増加し、農業を見る目も変化していくのではないかと。
	田、15 アールの地主です。後継者がいない為減反となっております。
	中山間地に加入している。その為用水路の整備が進んでいる。（直接支払い制度）
	委託料が高価なので全て自分で行いたい。ただ機械が高いので買う事も出来ないが全ては自分で
	①ブランドの農産物の今市の特徴を生かした農産物の推奨（例）〇〇梅・〇〇栗・〇〇大根等々。 ②遊休農地解消にも商品（農産物）を売る（さばける）力が無い（どこへ納めて売なのか？）特に一度に量がたくさん出る。大根・白菜等々いっぺんにたくさんの野菜収穫となると始末に負えない。どこかで一手に引き受けて出す（市場等）ところがあるといいが…？
	小生も高齢者で有り、いつ何があるかわかりません。後見人がはっきりしませんので、先が不安ですが、現状維持で何とか、理解の上、頑張っていきたいと思っています。
営農に必要な副資材は価格が上がることはあっても下がることはない。反面米価は多少の価格変動があっても大幅に上がることは望めない。会社経営であればとうに倒産していると思う。将来的に明るい希望がなければ、辞める他ないでしょう。先祖代々引き継がれた土地を維持管理していくのが関の山だ。	
他産業並みの利益追求に反対すること。特に TPP（アメリカ利益のため）に反対すること。	
落合	農業専業経営は大変です。協業化して助け合って、農業を守り、自給自足を原点に考えなければ、日本の農業はやって行けません。これから先・・・20年・・・50年、100年と先を考えなければ食糧不足は必ず来ます。補助的にも自給できる備えをしておきましょう。
	農作物の価格の下落。自給率の低下。先進国の中、日本の自給率は最低、食料は自国でとヨーロッパ及び、米 国並みの農作物の最低価格設置を要望する。
	離農者の農機具を斡旋しては、
	○日光市、JA、生産者一体となって、米の有利販売を研究する。そしてゆとりある農業者をつくる。○受託者と委託者が協力し合って、農業生産がスムーズにいくような体制を作ってほしい。○そばに関しては、製粉業者を通さない、生産者、JA、日光市による販売体制を作る必要がある。○日光市は農業者に元気がなければ、自然体の活性化を作ることが出来ないと思う。農業者が元気になることで日光市は豊かになる。
	上板橋地域の農地だけが区画整理から取り残されているので、市として考えていただければ幸いです。近年、遊休農地が増え、イノブタ被害も出ているため、将来が非常に心配であるためです。
	・国政に対して、もっと意見を言うべき。言いなりになっているように思える。・JAの組織が問われている。頑張ってもらいたい。
	食料危機が目の前にせまっているのに、今の農政でOKなの。農は国の基本（国土保全・安全・安心な食の確保など）であることは、子供でも理解できるのに。（ある程度の税金投入は必要でしょう。儲からなくては誰でもやりません。）担い手の役割と兼業農家の役割をそれぞれが共生する。
	もうかる農業を国策として推進。例えば、平日 8 時間労働で年収 500 万円以上
	地域内に 60 歳以下の農業経営者は居ないと思う。農家以外の大企業などに農地を（農業に参入してもらい）管理してもらう外は望みがうすい。
	地域の担い手の方に規模拡大のためにも任せべき公的な機関が入れば（農業公社）何事あっても集落内の人であれば話合いで出来るから。
	農業で生計が立てられようなくみが大前提。それが不可能であれば放棄するしかない。
	農用地、水路、農道等の地域資源及び農村環境の保全を図ること。
	集落営農組織を充実させ、法人化する。特に経理の支援を行う。
	農地をもっと多角的に見るべし。例えば、国土保全、環境上の見方、歴史的な見方等々。農産物を生産するだけが農地ではないと思う。
	農家亡て国さかえず。

	<p>所有する水田は、今回の圃場整備事業でも、水の関係で中止しており、個人的に管理（ていねいに）しなければ、水田作付けを他の機関等に依頼することは無理と思います。水田以外の作付けであれば、無償でも貸したい。後継者はたぶん無理だと思うので、最終的に荒れてしまうので、農地を外してもらおう等で処分していきたいと思っています。今市は働く場が少なく、私の家では子も含め、3人市外で働いています。働く場を確保するためにも、法人等会社を設立して、農地活用していってくれることを望みます。</p>
	<p>農村集落の過疎化しないため、小規模でも国の対策を改善しないと、農家が減少して、無人化の集落が出てくる。市、農協等で政策面の検討をされることを要望する。</p>
	<p>規模拡大と言っても、コスト高の日本の農業では不安。大きい農家の水田は管理不十分で畦畔の草も刈れない現状を見ると、小さい兼業農家の農地の管理が行き届いている。農地の集約化には不安である。</p>
	<p>農協の立て直し（色々な物が、民間の店と比べて高い）。農協の物産所以外で農協とは関係ない物産所の開設。（田畑に関しては、やはりその田畑の近くに住む方に任せる。そこに近所のコミュニケーションが発展する気がする。）農業機械への補助金制度。</p>
	<p>圃場整備を行ったため、作業効率が良く、個人作業の意識が強く、共同作業を行うのが難しい。やはり、最初から、将来を見通した経営（集落営農）が必要だったのかと思われます。</p>
	<p>農業の6次産業化について今盛んに言われているが、農業者自身が加工・販売をしていくより、農、商、工それぞれの立場の方と協力して製品をしていく方が、地域まとめた所得つながらし、それぞれの利点を生かせると思うので行政の方にその接点をつなげるような働きをしていただければと考えています。特に日光市は観光都市でもあるので地場産といったものは大きく利用できるものと思います。</p>
	<p>6月9日の水害による農地の再生に苦慮している。このままでは、遊休地に（農地からの収入と再生に係る費用）→（回収できない）したいと思っている。農地の有効利用以前の問題。同一地域内に農地（田）を有しているのに、中山間での補助対象と対象外がある。一方では、草刈りの日当あり←→一方では日当なし集落営農？→足かせではないか。</p>
	<p>当地域は個人経営が多く、規模拡大が進まない。しかしながら高齢化、後継者不足のため遊休地も発生、一方で米価が低迷。米作の水田農業には魅力はない。でも農地（水田）には米作しかない。基幹となる作物がほしい。楽しさ明るさが欲しい。積極的な指導が必要。無理なのかなあ～</p>
落合	<p>農地の維持管理については、担い手あるいは農業公社等に委託することにより保全が考えられるが、農業用水路（防火水路）の掃除修繕や農道の草刈等の実施については、課題が生じると考えられる。自己所有の地先の道路・水路の維持管理については、従来は地先所有者が自ら担当して来たが、農業への関心が薄れた現状その期待は出来ないだろう（出来ても永くない）幸い行政が導入した「農地水保全制度の主旨を地域の全住民に（農家非農家を問わず）十分周知して欲しい（助成金のある間の事業でありたくない）（参考までに小代圃場整備委員会会で実施したアンケート問8をご覧ください。）</p>
	<p>政府が小作料を補助してほしい</p>
	<p>機械代の負担が多いので、リースなどの方法があると助かる。全部所有していることは大変なことです。</p>
	<p>市やJAで遊休農地の活用を検討していただきたい。高齢化が進み、小規模農家は限界が来ていると思う。</p>
	<p>大規模農家が大きくなるのではなく、兼業農家や小規模農家同士が手を組み、互いの休みを利用して、少人数でも共同作業で、短時間作業をふやしていくべきである。</p>
	<p>私のところは山間地域です。私達小規模農家がみんなで、年に5回も6回も土手の草刈や水路の整備を一生懸命行っているから、今のきれいな日本の田園風景があると思います。私も体の続き限り、自分の住む、環境整備と考えると、出来るだけがんばりたいと思っています。</p>
	<p>堅実な農業公社が出来れば良いと思います。出来る事を期待します。</p>
	<p>水稻中心の地域農家の高齢化も進み、この先現況維持できるか心配。いずれ担い手さんをお願いする事になると思う。ただ今の様な米価では担い手も厳しいと思います。担い手で生産法人化すれば設備投資の軽減になると思う。地域の受け皿になってほしい。</p>
	<p>生産→販売までの全てにわたって、何か革新的な事が起きないとダメだと思う。</p>
	<p>市や農業公社がしっかりやれば中間管理機構など必要ない。その経費を農業への補助とすればおのずと集約され遊休地もなくなるのではないかな？</p>
	<p>3項目の間1にある公的性格の農業生産法人を設立して行く事が理想であると思います。その中で米だけでなく、他作物等の6次産業化等を行い集落の者が安心して働ける環境作りが必要であると考えます。</p>
	<p>地域に既に集落営農組織があるが、実績がほとんど無いというのが実情のようである。今後、国の農業・農村政策の見直しや変更に対応していくためにも、大規模農家以外は、集落営農組織を上手く利用していくことが必要だと思う。</p>
	<p>集落営農を組織し集落全員の合意のもと農地活用することが今後重要だと思います。その中で地域の特産物などを研究して販売収益を上げることが良いと思います。</p>
	<p>とにかくイノシシの駆除をやっていただきたい。</p>
豊岡	<p>集落内での基盤整備は難しいのではとの考えのもとに、個人的に相対で話し合い、農地交換し（登記済み）、今後委託する場合は受託者が作業しやすいようにまとめ、ある程度区画整理し、自宅周辺にまとめました。現在、集落内で作業受託している方はおりますが、ほ場は悪く（区画、面積が小さい等）、作業効率が悪いように見られます。今後の農地の集積、担い手の委託などの考え時。個人負担は多くなっても、希望があれば（希望者のみでも）小規模ほ場整備の話積極的に進めてもよいのではないのでしょうか？（当集落外でも多いと思われます）</p>
	<p>地域の農業発展のための意見やアイデアを、国や市が反対に速やかに農家に出してみたら、農家はただ従うだけ。国が減反を進め、農家は色々作付けや、自己保全していると市から長期自己保全している部分をつつかれ、反対にこっちが色々聞きたい。こんなアンケート出したら、切手代分を農家に配った方がまし！</p>

豊岡	担い手そのものに希望が持てないのを前提に考えれば、組合とかではなくて、会社化していかなければ、行く末は安い米を作るために高い投資になる悪い連鎖は無くならない。全てに専業でも利益を得るのに大変な思いをしている今日、現代の若者に「負」を前提に永い間、米作りをやる中小農家は考えられない。さらに TPP などで高収入になっていく米づくりは考えられず、百姓の先は見えている。担い手問題でなく、広大な農地の維持そのものが危うい。しっかりした会社組織が、土地そのものを借用か買い上げて運用するなどしないと未来は荒野に進化する。担い手はその会社が雇えば良いと思う。
	・この地域で安定して作付けできる（地域に合った作物）、農作物を見出し、各種機関（JA、マスコミ等）を巻き込んだアピール活動。 ・JA 栃木、JA かみつがから報道機関（マスコミ等）に働きかけ、著名人等の特任大使に任命して、アピール展開する。
	6次産業化について。個人が生産した農作物を組織化された6次産業団体が買い入れ、これを海外にも販売し、良質な農作物と消費者側から認められる農業が生き残る唯一の方策と思う。
	家庭菜園程度の農作業なので、これと言った思いは持っていません。
	山間地域で面積の少ない農地が点在しており、利用方法等を指導してほしい。
	米価の安定のため、政府の政策が重要です。30kg 玄米 4200 円は、他の食料品に比較しあまりにも異常です。これは納得できない。大問題である。
	農業発展とはならないかもしれないが、今後 10 年ぐらい水稻作付けをしたいと考えている。田植えをしてからの水管理、土手の草刈等が自分の健康に役立つと思っているので。
	圃場整備事業導入の際に営農組織を検討しましたが法人化などで取り組むことを断念しました。農地を守る観点で農業を進めて来ましたが交付金が減額され、農業を続けて行く事は国であり農地保全の観点で営農（耕作）される農業者に増額（10a 当たり 15,000 円）されたい。それが農地保全や営農につながるものです。農業を続けていくには所得がない農業を続けることは困難であり、それを交付金で生活して行くしかありません。農地を守りたい営農を行うことで健康に生きられる。
	・担い手への土地の集積～規模拡大を推進しているが、個人での管理、維持には限界があります。各地域で、管理が行き届かない所が散見されます。 ・公社が仲介の農地であれば、定期的なチェック指導が必要である。 ・集落営農への導引「農地、水」「多面的支払」等の制度を更に発展させていく。そうすれば、機械への過剰投資の抑制にもなります。（集落の農地、景観は集落を守るが基本） ・女性陣が毎日活き活きしている集落（加工品、レストラン etc…）
	組織が行政のためのものではなく、農家のためのものであってほしいものです。お願いします。
	皆、出来れば自分の農地は自分の手で守り続けたいと思っている方は多数いると思います。兼業農家をせざるを得ない方々は休日に農業をしても仕方がないと思っはいますが、米の価格を先ず最優先に見直すべきだと思っはいます。多少なりとも生活の支えになればと思っは頑張ってやっははきましたが、もうやりきれないけど貸したくないが皆の本音だと思っはいます。今年は、本当に思っはいました。とりあえず来年の価格を見てと思っは方はたくさんいるはずです。
	日本の食を守ってもらいたいです。水稻主体の農業をしています、米の価格が、収穫される頃になって概算金を通知されても、特に今年のような様では、来年をどうすれば良いか分かりません。しっかりとした生産調整をするなどの対策を、しっかりとっていただき価格の安定と利益の確保が出来ればと思っはいます。
	米に替わる作物（特産品）を模索。農家が安心して耕作できる価格政策を要求。
	遊休農地の賃借をする。
	大規模経営者が必ずしも地域の担い手ではないことも。
	年なので良く意味がわからない
	非農業者でも定年退職後、健康を目的として、農業を取り組みたい人々がいます。その人達にも情報を発信してはいかでしょうか。
	今後とも人手不足（高齢化、身近の具合が悪くなった）など集落で助け合うことで農作業、共同で継続できる。
	総論：公的性格の農業生産法人の設立による農業経営の安定化を図ることを希望します。 具体的：私のところは、農地の基盤が整備されていないため、農業を営むうえでは、まず、その整備が重要と考えます。そのうえで、上記のこと柄を希望します。
	集落営農組織が充実し、安定した経営ができる事で地域の農地も有効活用されていくと思っはう。
	集落ごと会社組織をいくつか作り、運営し、行っていく姿が望ましい。個人レベルでの運営はもうどん底に来ていると思っはいます。肥料は値上がりし、米価は安くなり、自分の給料を農業経費につぎ込んでいるのが現状です。補助金を当てにする様な経費では先はないでしょう。農地は多目的な活用法でもいいのでは一。都会の人は農業体験できる施設をつくり（宿泊できる）活気あるふれあいと楽しさを目指し協力しあいながら出来ればいいと思っはいます。（ひと昔前の農業スタイルは良かったなあ～）
	公的性格の農業生産法人は作業の委託、生産のみならず条約には、加工、販売まで行う組織に発展させる見通しを持って、設立する事がよい。そのようにすれば若い人材も加わり将来組織が発展する可能性が出て来ると思っはう。現在の日本の農地状況では、どのように効率的に生産しても、単位面積あたりの収量には限界があり、海外等の大規模面積を持つ生産者と競争するには無理がある。
	今後の国政に安心感が無い為、出来るだけ農地は管理していきたいが現状としては、難しい所がある。だが農地は出来るだけ管理しなくては行けないと感じる。将来の為に。今回、両親は高齢の為、子が記入。
栃木米の良い所を宣伝及び販売先の確保（特に日光米として）日光市に適した新種米の研究、開発。	
農業を出来る人にまかせて安心の農業生活が出来ることを望む。	
農地を整備するための助成をお願いしたい。米や野菜づくりの専門家がほしい。	
今度の土地改良で便利になってるので、助かっています。若い人達も広くて便利な田、畑であれば何でも作っていけると思っはうので、今は勤めていても、いずれか継いでくれる事を期待しています。	
主食米、消費量減少に伴い、国勢は飼料米作付を促進しているが、高齢者が多くなって来ると、自家、選別、調整作業は困難になって来ると思っはいますので、現在の針貝低温倉庫、板橋低温倉庫地内に、飼料用米、コントロールエレベーターを建設してほしい。大豆なども、交付金が良いので、農業公社、JA が協力し、播種機やコンバインを備え、リースする様にする。	

豊岡	生産原価（農薬肥料）が高く、高い米を食べている状況にあり、生活費より、米作りに金が流れるので、生産原価を下げて欲しい。
	上川室地区においては圃場整備や農地、水保全管理などの取組みも行われていない。水路等の痛みもあり、対策を実施しなければならない。圃場整備は、地形的にむずかしい感じがするが、水路の整備等はすぐにも実施したい。昔ながらの圃場でも、それを生かす取組みはできないか、不作付け地をなくすには、どうしたら良いか、集落全体として、環境の保全としての取組みはできないのか。私は今、生物保全型農業として無農薬、無科学肥料栽培として米作りをしています。イナゴやタガメ、イモリ、ドジョウなどが田んぼに戻ってきています。これを、集落全体に広げて、地区の特徴としていかせないか考えています。
	高収入につながる販売方策を実施すること。個人的には、海外輸出に挑戦してみたい。
	農地等の管理ができる人（畦畔の草刈や水管理ができる事）
	私のところでは、あちこちの田んぼをやっているが春水入れをするのに、集落に水利の係りがいなくて、市役所に頼んで水を増やさなくては田植えが出来ないところがある。今市全部がこのようなことになったら大変と思う。当たり前のことですが、リーダーは必要ですが、集落営農組合を組織し、とりあえずは集落で機械類は集め、特定の人だけが農作業やオペレーターをするのではなく、集落全員が体力、年齢に応じた仕事をし、土日祭日にはサラリーマンも営農組織に出勤するようにし、与えられた仕事をし、出勤しなかったら、恥ずかしいと思えるような顔見知り全員で仕事できる集落営農に組合が作れば最高ではないか、と思う。
	農業をやりたいけど、土地が見つからないというミスマッチが多くあると感じています。現在、通勤農家で生産は上がり悩んでいます。住居と農地をセットにした場所はなかなか見つかりません。農地と住居が別というのは地域とのつながりも広がらず次のステップに進めません。また知らない者に大切な農地や家を貸したくない気持ちも理解できます。しかし荒れた田畑を見るたびに残念でなりません。借り手ももっと積極的に働きかけることも必要だと思いますが、それにしても情報が少ないと思います。忙しいと思いますが行政の力で貸し手と借り手のお互いが納得できる関係を築けるようなバックアップ（例えば借りての信用保障など）していただければ幸いです。
	農家の多くは土地への思いがとて強い方が多く農地の出し手となる場合、自分が耕作していた時と同等の管理を求める方がおられ、受け手としては難しい問題となることがあります。受け手が、しっかりと農地の管理をするというのはもちろんですが出し手の意識の改革というのにも必要であると考えます。
大沢	鹿沼にある農業公社のような組織があれば、いいと思う。
	わが家では、すでに農業公社を通して賃貸しております。
	今まで莫大な予算等を使い展開してきた結果が今日の状況であり、農業発展のアイディアなどあるわけがないであろう。特に現政権のような強者主義の覇権政治では、農林水産業など発展する訳がない。この広大な農地が耕作放棄地になれば、県土保全、景観、防犯上も大問題である。特に、当地は用水不足等の条件不利地域はあるが、多数の農家が創意工夫し耕作してきましたから、細々ながら宮々と耕作出来た訳で、採算至上主義の企業や特定農家の規模拡大などでは対応できるはずがない。増して、米価下落、直接支払交付金の半減、廃止になる今後の農政は不安だらけ、路頭に迷う。だからと言って、リーダー不在、協調性ゼロの排他的農家では、営農組織などできない。やはり、日光市全域を金太郎飴的に一方策で解決しようとしても到底無理で、個々の集落単位等で、その地域特性に基づいた最適な手法で対応する必要がある。そう考えると、当地区は、主体的農家が担い手となり対応するしかないのか。そのためには、個々の農家一戸でも自由に利用できる機械・施設の補助制度が必要である。
	現在主として水稻の作付けがメインだが、自分としては畜産のほうに主力を転換し、黒毛和種の雌牛の頭数を増やし飼料作物の作付けやWCS等、又は耕畜連携を図りたい。労働力も、親も年齢的にきびしくなっており、集落内でいろいろと依頼があるが、これ以上限界がある。また、集落内の他農家も同じ問題である。これ以上個人農家、特に専業の人に作付けをまわされても今現在きびしいのにこれ以上は負担できない。特に農機等の更新も出来ず、借入金ばかりが増え、より経営は負担が増している。今現在の収入の不安定ではどうにもならない。
	耕作放棄地が多くなつては困る。
	集団営農は必要なことだと思います。相談したい場合はどうすればよいですか。連絡して伺えばよろしいですか
	現在まで（今後も？）担い手優先の状況があると思いますが、経営規模等で認定されない方兼業の方の不公平感が否めない。社会情勢が効率偏重の感がありますが、農業を守るのか集落を守るのか疑問です。真剣に取り組んでいる小さい農家にも目を向けていただきたい。
	その地域で一堂に会する機会を設けてはどうだろうか。農業を続けていく人達や、貸手の方々との対話の機会があればと思う。
	・TPPなど農業を取り巻く環境が整ってない。 ・農業はコストが高い。 ・たべられる農業でなければダメ。 ・エコ農業を行う事。
	農地の境の問題をなくしたい。境をはっきりして、土地の問題をなくし、地域の方たちとも良くやっていければ、農業をやりたいと思う方も減ると思います。農道、農地の整備、用水路の整備等、代かきのシーズン、いっせいに始まるので、川の水が減り、水掛け論的問題がおきる。道路にトラック等をとめていと通れなくなるなど、譲り合うことの出来ないわがままな方がいると問題が起きるので、問題なくやっていきたい。このような件で、農業をやめたいと思うことがあります。
自分は野菜中心の農業経営を行っていますが、JAへの出荷等が主ですが、相場の安定し、拡大しても安心できる品目がありません。農業を発展させていく上で、各経営者が利益を出せる事ができなければ、後継者も新規就農者も増加しないと思います。利益向上の為に、拡大していく事だと思いますが、安心して、パート雇を増やして生産できる野菜があればと思います。JA、市などの提案の元に指導等を頂ければと思います。	
若い後継者を育てる事。	
米だけでは生活できないので、減反などへ太陽光発電等設置できるシステム、それに関しての公の設備費などの援助があると米販売と電気販売を兼ねて、収入が得られるのでは・・・そうすると原子力発電はしなくてもいいです。	

大沢	<p>国は、大規模経営を目指す農家や集団のために農地を集約したり、企業の農業進出を後押しするなど、効率を重視した農業改革を進めているが、今まで日本の農業を支えてきた中小農家を切り捨てるのは納得できない。とは言っても自分がつぶれてしまうのは困る。集落に担い手がない事を前提として施策を講じるばかりでなく、努力して経営を行っている（多角的に）農家や、後継者が育っている集落にも目を向けて、支援してほしいと思う。一部の経営者やいわゆる上手な経営者に支援が集中しているような気もする。</p>
	<p>飼料用米の作付けについて。国の制度の安定や設備の整備、流通体制の構築なども大切だが、その前に物が無ければじまらぬ。まずは、生産を増やす見直しをつけつることだと思う。その為にも、JAや市が一体となって、方向性を示すことが大切だと思う。「日光地区は水田の半分で飼料米を作付けしましょう」とか。</p>
	<p>自分の土地は自分で管理する。</p>
	<p>農地が整備されていないため、機械の時代なので進んで田の整備など進めてほしいと思います。</p>
	<p>集落営農が基本にあって担い手が経営を維持できるように補助金を有効に使えれば！それぞれが生活できるようにならないと長く続かないので！</p>
	<p>集落の担い手として農業後継者が働ける体系や施策が必要。又、土地を集約した場合、農地を貸した農家の所得減になる更に就職先がない等、生活苦になる。農地集積を実施する場合、農家の現況確認を十分に行う必要がある。</p>
	<p>農協が食えて農民が食えない。おかしな農村環境である。</p>
	<p>日光市は、農業が基幹産業であり、きちんと位置づけて農業で生活できるようにして欲しい。自給率が今38～39%では、いざとなった場合の保障が無い。工業で（自動車中心）里子になり、それで食糧を買えばよい時代は過ぎたと思う。もっと農業に税金を使って、自給率を上げないと日本はおかしくなる。地域のまとまりも、農業があればこそではないか。</p>
	<p>定年者を集めた営農集団</p>
	<p>米の価格が低下して困っている。農業ができなくなる。</p>
塩野室	<p>水稲価格の低下</p>
	<p>他県、県内のJAでは、JAが経営する農業生産法人が活躍をしつつある。農家の方は、地域の法人、集落営農に委託するより、JAに委託する方が信用でき、相談等も出来るので、今後JAと市が共同して公的性格の農業生産法人を設立して進めていくことで農地の集約が進むのではないかと。</p>
	<p>一極集中的に農地を集積しても、国際価格には及ばない。地域創生のためには、集落一丸で、水路、畦畔の手入れが必要である。利益追求だけでは地域の維持は難しい。</p>
	<p>生産コスト削減が必要である。</p>
	<p>・もっと大規模な区画に再度区画整理するべき点有り ・公的組合を作成すべき ・賃貸の平等的金額の見直し</p>
	<p>1. 認定農業者等基準の見直し 2. 公的性格の農業生産法人の早急な設立を願う。</p>
	<p>計画性のある農政をお願いしたい。大豆作付けにしても、集団化を計り経費削減して、作付け面積拡大を目指し、生産と販売先との契約を密にして、主食米は国民が必要なだけの生産にして、今不足している食料の生産主に穀物を栽培していきたいのでよろしくお願いします。</p>
	<p>地域農業の中で私は一部共働きで水稲栽培をしていますが、兼業農家であっても、農業収入が生活に役立って農家経営を地域の中で協力しながら出来れば思う。</p>
	<p>塩野室地区内の大規模担い手農家の現状をみると、年齢層は60～70才前半がほとんどで、後継者もほとんどない。5年後10年後を想定すると個別農家で経営できるのはごくわずかと思われる。集落営農もよいが、これまた高齢化で厳しいと思われる。そこで、「公的性格の農業生産法人」が望まれる。また、土地利用型作物のみでの運営はむずかしく、園芸作物等も組み合わせ年間雇用利用と収入の確保が課題となる。まず旧村毎に一ヶ所程度の生産法人を立ち上げ、拡大していったらどうか。</p>
	<p>JAや民間会社などが農業経営や遊休農地を管理して効率の良い農業を目指していってくれたらいいと思う。又日本の技術を持っておいしい農産物を海外に売り込む事もできたら未来がくと思う。</p>
	<p>地域においても、今後高齢化が進むので地域全体の働く人が共に助け合って、地域農業を盛り上げていった方が良いと思われる。特に兼業農家が多いので、農地保全のためにも良いと思う。</p>
	<p>このまま農業が衰退するようなことがあれば、各地区のコミュニティーの消滅を意味し、日光市消滅が現実のものになってしまう気がする。農家の自助努力も必要だが、農家の就業者平均年齢68～69歳と言われる現在となれば、年金受給者となった人々に、それを望むのは無理がある。JAや市が協同で、若い人達が安心して農業に取り組み、地域を守って行けるような規模の農業生産法人を立ち上げ、地域農業再生の起爆剤としてもらいたい。集落営農は5～10年の短期は担えるが、その先となると全く読めない。中途半端な規模で若い後継者は出てこれないだろう。</p>
	<p>今のままでは耕作放棄地が増えてしまう。減反の作目も補助は数量払いでなく、面積払いで行った方が良く思う。農産物の品質は劣ると思うが、耕作放棄地は確実に少なくなると思う。</p>
	<p>JA等が主体となったのレストラン等を運営して、農家がそこに農産物を納入して利益を配分。</p>
	<p>相手の事情により耕作して頂けなくなった場合、同封していただいた、中間管理機構等に相談したいと思えます。せっかく農地構造改革もしたので、売却するのでも勿体ないかな？とも考えます。</p>
<p>地域に信用のある人が何か行動を進めないと高齢化が進んで後継者がいなくなり、どうなるかわからない。</p>	
<p>経済効果があると思われるのですが、日光地区に道の駅を作り各地区の農業生産直売所を守りつつも、皆で特産物を出し合い観光客を招きつつしながら出来ればと思います。市とか関係機関の協力も必要と思われませんが日光地区しか出来ない自玉商品を取り入れ、若い人が少しでも興味ある観光農業が実現しバスの観光客が、トイレ等に立ち寄り、ふれあいの場が出来れば良いのではないのでしょうか！！</p>	
<p>自分が出るところまでやって見て、自分の子供次の子が農業をやる人が出来るように自分が導くようにすると良いと思います。</p>	
<p>地域でうまい米を作ってブランド米を作っては。なぜ日光だけが米が安いのか。農業機構のリースがあれば。</p>	
<p>地域の特産品をつくる。米をやめる。</p>	
<p>今の所は現状維持でやって行きたい。今後は農業の成り行きを見ながら、農業続けて協力したいと思っている所です。</p>	

塩野室	現在委託中
	地域及び農業を守るためには、生産者が安心して米作りができ、消費者は安心・安全で美味しい米を買うことができるということが必要不可欠です。生産者と消費者同士顔の見える関係を作り、深めるための活動を始めてはどうでしょうか。米作りは、経験した者にしかわからない面白さ、奥深さ、難しさ、そして将来性を含んでいます。生産者が喜びを持って米作りに取り組むためには、孤立させることなく、しかも主体性をもって続けられる環境作りを、大勢で考え実行することが求められています。農業従事者は数%でも、その数%が 100パーセントの国民の食糧を担っていることを再確認すべきである。
	地域外から地域内へアクセスする為のインフラ（特に道路等）の整備からスタート。早急に受け皿（法人等）を設立し安心して貸貸が可能なる礎を作り上げて欲しい。米作中心の農業から他の作物への比重を増やし付加価値をつけた生産物の供給
	とにかくこれから日光市のブランドの農作物ができるとよいと思います。全国では地域でブランドとして作っているところもあるのをテレビでみました。日光市地域の方皆で協力し、特別の物ができるといいですね。
	各農家で所有する従来型の方法では生き残りが困難であることから営農集団組織の設立が急務である。 1. コストの低減を図る 2. 有利な販売経路の確立
	・主食米は品質にこだわる。カントリーによる一括調整でなく、ミニライスセンター品質管理 ・飼料米は、あさひの夢ではなく、専用品種にしなければならない。(コンタミのリスクは有るが、農家がきちんと管理すべき) ・どの様なお米を求めているのかりサーチ ・米以外のブランド化
現在貸しておりますので、今後も続くと思います。規模拡大に増々なることでした。	
日光	兼業農家ですが、ここ 15 年程、耕作しておりません。耕作放棄地にならないように、年に 2 回の耕うん、草刈を頼んで荒れないようにしています。
	私が住んでいる集落での発展は難しいと思います。
	農業は自家用のみ
	販売する先があると、やる気がでると思う。
	・圃場整備の推進及び集落営農を重点的に推進してください。・農業政策が近年まめに变化して地域農業者がついていけない状況にある。
	野生動物被害を何とかしてほしい。
	安全安心な作物の生産！
	老化して農作業が出来ない現在入院中で、先の見通しなく、継ぐ人も居なく困っています(田 2a)。どうぞ宜しくお願いします。長男も入院中で困っています。父 85 歳、母 85 歳。誰に相談する人なく困っていました。宜しく。
	遊休農地を解消し、農地に入る道路など作ることを希望する。
	獣害対策の充実(強化)
	農地がある為に草刈や管理に困っている。国で農地を買い取り、国で米作りを行う。
	農協改革
	山村農業の委託管理指導をお願いしたい。
	小規模の農地でも多少の収入が見込める作物及び特産物の推奨
	地域のブランドの商品化。若手育成・教育。JAの農業用資材の引き下げ。各地区において、農業用資材(肥料等)の適切なアドバイスが必要。国、市は助成金だけ交付しても解決にはならない。個人農家に対してアドバイス等がほしい。
	イノブタ、サル、シカに荒らされているので駆除
	現在私どもの集落では、農業を維持管理している方は減少しています。山村で農業を続けるにも困難な状況です。集落の農村環境を維持するため、耕作放棄地の改善等良い方策がありましたらご指導お願いいたします。
小来川に田んぼがあり現在土地を使ってもらっています。田んぼが荒れないようにです。離れて暮らしているため母が高齢でできないためです。もし、使ってくださいの方が高齢になり米が作れなくなったとき、その土地をどうしたらいいかわかりません。小来川は休耕田でとても多く草がはえ、林になりかけている所も多いです。何とか良い策を考えて欲しいです。	
1つ1つの農地の面積がせまいので果樹等は良いかなと思うけど、サル、シカ、イノシシの被害があるので難しいかな？	
平成 19 年に兄がなくなり、実家の全部を相続しましたが、夏場の草刈りがとても大変で困っています。お金も自分の体力もありません。冬は様子を見に行くだけで、空家です。農地は手がかかるだけでいりません。空いている農地には多年草の藁草でも植えたらどうでしょうね。サル、シカ、イノシシにいたっては、いたる所を掘り返し、それを埋めたり、土手を直したりするだけで本当に大変です。固定資産税はちゃんと払っていますよ。農業の事については何も判りません。でも先の事を考え困っています。	
藤原	遊休、耕作放棄地解消のため、公的な機関を通し、安心して貸借出来るよう解決策の検討をお願いしたい。
	現在の米余りの状態で、他国より安い米が入って来たら、我々のような小農家は一番ひどい。稲作を行えば、やる程、必要経費は上がり、赤字農家となる。農業を止めた方が我々小農家は利益が上がる。その上、農業を行う年齢も困難である。
	米が安いので、海外にブランド米として売りたい。
	・公的農業生産法人は早急に設立すべきだ。 ・同法人がカントリーエレベーター設置し、多様な穀類を引き受けるべきだ。 ・農作物(加工含む)の直売に、市、JA、公社が一体となり進めるべきだ。
	とうがらし・ごぼう以外は猿、猪等の被害により作付け不能のため
受委託両方の条件がプラスになるようにならないと。	
・昨年、イノシシやシカが出て、つくっていた大豆がすごく食べられてしまい、相談したら、オリやその他のものがかける場所がないとの回答。 ・今年になって、他の家では補助が出て、網を張ったみたいです。1年違いで、そういう事があるのかどうか？教えて下さい。	

藤原	地域特産品を作り、販売する事。作業機械の貸付。農作業の指導、勉強会等の開催。
	過疎化が進み、独居老人世帯が多くなる中、田畑を管理できなくなっている。国の補助金事業（中間管理事業等）を利用し、耕作（耕起、草刈）の担い手を雇用し、これらの世帯への管理事業を立ち上げてほしい。
	山間地のため管理が大変。イノシシ、シカ、サル
	地域の鳥獣の駆除を農業生産法人。県、市町村と共同でやっていただきたいと思います。個々人手対応がむずかしいし、TPPに対する考え方も違って来ると期待したいです。
	農地ばかりでなく、林業地の荒廃を危惧します。日本の食の輸出量を考えると国単位農地の保護、林業の保護を希望します。
無回答	農業を辞めるひとつの理由として、動物（サル、シカ、イノシシ等）の被害が大きく、食べられてしまうことを思うと、作ろうという気持ちになりません。
	TPP が決定され、外米の流入が多大きされて、価格が低迷すれば、米作農業はますます経営困難になるばかり。飯米の規模農業家では、市税も納入不可の状況になりかねない憂えや迷いが生じる現状ですので、市は勿論の事、国としても生活できる方法、対策を考慮、実施して貰いたいと思います。
	私自身、農業を守っていく現状は厳しいと改めて実感しています。それは目標とする米を作れないからです。それと農業に関する理解と環境を守り、やる気の出るような基本が足りてないと思いました。実際、後継者が必要になるとは思いますが、守られていないのが現状だと思った。やはりプラス思考に農業に関心を持ってもらうことだと思う。
	農業は発展しません。
	私は、家族で食べるだけの農業（主食用米）を作っております。現在の大規模農業、主食米を耕作されております皆さんを考えた場合、米価が安く、一方、農業機械、肥料農業等は高く、このままの状況ですと米農業を行う後継者はいなくなると思います。米価の安いのは、国民の消費減少等で古米が多量にある為と報道されております。国民の代表の国会議員の皆様の中に（農協も含み）海外援助の中で、食料援助を加えて、古米を援助の中に取り入れて行うことが必要と考えられます。
	圃場整備して誰がやるにしても使い易いようにしておく事が重要と思う。農業は誰かが続けるべきである。圃場整備にどの位の資金が必要なのか分からないので踏み切れない人が多い自分の土地があまり減らないで出資しないで、国がやってくれるという事ならやれると思うが当地区それでない無理と思う。地区全域でなく地区の一部（小規模）で整備が可能なら出来る区域は有ると思う（今の負担金で出来るという説明をして頂きたい）
	農業生産意欲を低下させるもの。獣害が第一希望をなくしてします。あらゆる作物が収穫まで至らない。いのぶた、さる、しか等が年々増加している。
	イノシシ、クマ、サル、シカ等で作物ばかりか、住まいまで危ない。それで私（69歳女性）はこの地区9軒は30年位で終止でしょう？子供達は他市に家を借りて住んでいます。夢も希望もなし、こんなはずじゃなかった人生の終わりを過ごしております…
	各地域の農地の見直しを行うべきだと思う。（基盤整備が必要）
	今農地は牧草を作っている人に貸してあります。長い間作っていない農地です。
	自分の代又は次の世代までは出来る限り地域の皆で助けあって農業を守って行きたい
	私は水田 60 アール畑 40 アールの小さい経営であり、みょうが、ふき、わらび等の山間地に適した作物を栽培しています。直売所出荷で、山菜を含めて、ピーク時には年間 150 万以上の売り上げがありましたが今は原発のため山菜等は出荷できず、現在は半分以下の売り上げです。水田は肩代り栽培実施中です。これで休耕田も草刈、管理もはらひがあります。続けて下さい。これからどんな農村になるのが、お店も無くなり、デマンドパスになり、イノシシ、サル、シカが毎日出てきて農作物を荒らす、行政はそっぽむいている。米 30K、5000 円で作る人はいなくなるよ・・・原発だけはやめて下さい。国富んで、民は貧しい・・・
認定農業者を国はあらゆる法制度で優遇しているが、市内の認定農業者のうち本当に法の定める要件を満たしている方々が何人いるのか。もう一度精査してもらいたい。特に後継者がいないにもかかわらず、市、県は国の農村方針の要請を満たすため、無用に認定しているのではないのでしょうか。周りの農家は困っています。草刈等は手抜きになっていてどうしようもない。中山間地はどのような事をして土地利用型の農業を展開できません。民間の農業参入を積極的に進めるべきだと思います。	
農業をやっている良かったと思える様な、食べて生活できるような農業が出来る国になったら幸福かなと思える今日この頃です。今のままでは生活できません。残念です。	

《各問での記述項目の一覧》

1. 現在の農業経営について

問2 農業経営の中心作目の「その他」

地区	その他
今市	面積が少しの為減反しています
	備蓄、加工用米
	デントコーン
	自己保全
	自作していません。ソバを作ってもらっています（貸しています）
	加工米 大麦 小麦
	農地は貸しています
	全面休耕田
	自己保全管理
落合	8割が農業公社通し賃貸契約になっている
	加工用米
	小豆、うずら豆、里芋
	小麦
	委託
	ドウダン
	自己保全
	シイタケ
	さといも
	知人に貸付
ゲンタン	
豊岡	豚
	加工用米
	公社委託
	小麦
	加工用米
	水田は法人
	備蓄米
菌茸	
大沢	備蓄米
	加工米
	菌茸
	加工米
	借土地
	加工用米
	もち米
	小麦
	加工米、備蓄米
	備蓄米
加工米	
水田委託	
塩野室	加工用米
	加工用米
	加工米
	自家用野菜
	加工米、備蓄米
	備蓄米
	備蓄米
	里菜ほか、観葉植物
	加工米
	六条麦茶シュンライ、もち米（モチミノリ）、備蓄米
	モチ
肉用肥育	

日光	茶
	山菜類 (フキ、ワラビ、コゴミ)
	体調により 26 年度は休耕している
	しその実
藤原	大麦 1.2
	休耕
	公社との利用権設定
無回答	自己保全、野菜自家
	柳の林
	少し野菜を作っている
	加工米
	自己保全
	わさび
	備蓄米・加工米

#### 問 4 農業機械は何を所有しているかの「その他」

地区	その他
今市	農機具はあります。
	草刈機
	管理機
	マルチャー、管理機、テラー他
	デントコーン一式
	草刈り機
	草刈機、播種機、耕運機
	あぜ草刈機、ブロードキャスター、ドライハロー、管理機
	管理小型耕運機
落合	ドゥフン (消毒用)
	管理機、草刈機
	管理機
	乗用管理機
	色別選別機
	防除機 (動噴)
	運搬車
	テラー、管理機
	認営者依頼し、農業機械を持たない
豊岡	小型管理機 3 台
	精米機
	ローダー
	カルチ
	管理、こううん機、軽トラック
	家庭菜園用耕運機
	公社委託
	乗用車草刈機
	管理機 2 台耕運機 1 台
	予冷庫、アスパラ選別機
	管理機
	ローダー
	軽トラック
	委託
	フォークリフト、グレータスローダー、バックホー
	管理機
	耕運機
	トラクターあるが田畑が荒れない用に使用している。
草刈機	
肩かけ草刈りき	
アスパラ選別機	
バインダー	

大沢	フォークリフト
	草刈機、ユンボ、軽トラ、育苗機、管理機
	軽トラック、自走草刈り機
	ホールローダー、フォークリフト
	管理機
	育苗機、ドライブハロー、自走草刈り機、モミ運搬機、小型バックホー、保冷庫
	耕運機、ローダー
	中耕栽培土機
	コイン（大型）精米機
	ローダー、フォークリフト
	管理機
	ハンマーモア（草刈機）
	草刈機
	機械なし
	上記消毒機、ホイールローダー、フォークリフト
	バックホー
	軽トラ、テラー、防草機（散水式）、ドライブハロー、草刈機等
	小型の畑用耕運機
	土壌消毒機
	ブルドーザー
塩野室	スタブルカルチ、フレコンスケール
	播種機、育苗機
	ブロードキャスター
	管理機
	ブロードキャスター、ドライブハロー
	ドライブハロー
	フレコン対応機
	管理機
	耕運機
	全面委託しているの、草刈機以外何ものなし
	プラソイラー
	ドライブハロー、保冷庫、歩行型刈り払い機
	草刈機
	管理機のみ
	草刈機
	スピードスプレヤー、バックホーン2台
管理機、マニアスプレッター、レーキ、テッター	
日光	小型耕運機
	小型耕運機
	ハーベスター、耕運機、バインダー
	耕運機
	管理機
	管理機
	管理機、耕運機
	ミスト・草刈機
	運搬機、選別機、トラック
	管理機
	こまめ
	そば蒔機
藤原	ハーベスター
無回答	草刈
	委託
	畑管理機、運搬機
	管理機等

問5 水稻・大豆・そばの作業委託について

(1) 現在委託している作業の「その他」

地区	その他
今市	かたがわり減反 日光市農業公社かした
落合	全部委託 田及びそばの収穫一式
豊岡	空散
	農地委託
	草刈
	飼料米
	全て
	全稲作
	集落協同作業
	減反地は組合に委託
	全部
	田は利用権設定委託
大沢	大豆調整
	現在作業委託
	芽出し
	ラジコンヘリ防除
塩野室	稲作全般
	26a 飼料米委託
	水田は委託
	水稻全て
日光	公社通じ、5年契約済、平成25年より5年間、面積約40a 米作りすべて委託している
藤原	休耕
	すべて委託中水稻のみ
無回答	委託済み
	親戚で作業
	現在自家製用水を委託済み

(2) 将来委託する予定の作業の「その他」

	その他
今市	作付けしない
	休田
	全般
落合	全て
豊岡	空散
	身体がきくうちは自分でやる
	やめる
	雑草刈り
	委託済み
	全ての作業
	稲作全般
	水田全般
	現在全部委託している
大沢	全般
	全部作業委託
	芽出し
塩野室	稲作全般
	貸付
	今後も全て
日光	作付けしてない
	わからない
無回答	作付けしない
	委託済み

問6 水稻・大豆・そばの作業受託について

(1) 現在受託している作業の「その他」

地区	その他
今市	全部受託した
豊岡	籾摺機
	水田全般
塩野室	水田は委託
無回答	委託済み

(2) 将来受託する予定の作業の「その他」

地区	その他
豊岡	今までどおり
日光	すべて委託したい
無回答	委託済み

問7 農業経営を続ける上で困っていることの「その他」

地区	その他
今市	休田
	政策が毎年変わるので（国の）高齢者としてついていけない（理解困難）
	病気
落合	経営面積が少ない
	米が安すぎる
	やめたい
	農道不整備（田に行けない）
	赤字であること
	田畑を持って余している
豊岡	全ての作業委託
	今後とも続けない
	獣害
	健康不安
	販売のための戦略
	収支がマイナスのため
	耕作地が少ない
大沢	所有地が少ない
	①管理不足（畦草刈、ヒエ田等）の水田があり、迷惑である②農業者の減少（作業委託者、小作化）により用水路の管理が将来できなくなる。当時は昔から受益者は、受益面積の大小にかかわらず一戸一名が出没して泥あげ等を行っていた。
	雪害により多額の出資
	委託で赤字
	米が安すぎる
塩野室	TPP の行方
日光	獣害
	獣害
	獣害
	獣害がひどい
	農業を行っていない
	獣害
	獣害
	多少の農地はあるものの農業に従事する余裕がない
	鳥獣被害、何を作っても取れない、深刻
	すべて困っている
藤原	健康上
	猿、鹿、その他
	委託先の問題
	獣害対策の手間と費用

## 2. これからの農業経営について

### 問1 将来の農業経営についての「その他」

地区	その他
今市	農業はずっとやっていない（休田）
	会社定年退職後、規模拡大も視野にあったが現状の農業を取り巻く環境では前向きに取り組めない。
	定年後考える
	未定
落合	続けられるまでやる
	検討中
	土地と貸与
豊岡	農業はやめた。農地は近所に貸した。
	できれば後継者にもやってもらいたいが、自家米だけなので機械も高価だし壊れたらやめることも考えている
	現在公社委託
	農業をやめている
	農業はやめている
	TPP 状況をみきわめてから考えたい
現に遊休地になっている	
大沢	農振地域の農地がない
	小規模で続けたい。大半は委託済み
	現在、農業委員会を通じて農地を貸しているので今後も継続していきたい
塩野室	現在もやっていないが、将来もやらない
	現在貸している
日光	もうやめている
	将来がみえない為、後継者しだい
	今は考えられない
	家庭菜園程度
無回答	後継者がいないので、やめる事になるでしょう

### 問3 問1で「規模を拡大したい」と回答した方について

#### (1) 拡大したい部門の「その他」

地区	その他
今市	デントコーン又はイタリアン
豊岡	小麦
大沢	野菜
	自作地に近い所

### 問4 「規模縮小」または「農業をやめたい」と回答した方について

#### (1) その場合農地はどうするかの「その他」

地区	その他
今市	農作物を作ってくれて、土地を荒らさなければタダでも貸します。
落合	自己保全
	分からない
豊岡	獣害等
	組合に委託
日光	地目変更
藤原	若い人に相談してから
無回答	作付けしても利益ないため
	管理はしておく草刈などを行い
	自作地のみ

## 問5 「農地を貸したい」と回答した方について

### (1) 貸したい理由の「その他」

地区	その他
落合	農地が荒れるから
	相続人はいるが、他産業従事者で、現在の農業収入では割に合わないという
	こんな広い田んぼを相続しても自分で何か作ろうとは思えない。
大沢	その他（後継者）はいるが将来やるかどうかかわからない（定年まで間が有る）
	体調が十分でないため、作業できず
	農機具がない
塩野室	身体の具合が悪いから
日光	高齢の母親がわずかな畑を耕作していたが、作業ができなくなった。
藤原	健康上

### (3) 借り手に求めることの「その他」

地区	その他
塩野室	高齢のため

## 問6 「現状維持」と回答した理由の「その他」

地区	その他
今市	適当な面積
	後継者の農業不安
	いずれは委託になるから
	本当はやめたい
	農地が少ないから
	拡大したいが設備費が掛かる特に大型機械
落合	そうせざるを得ない
	現状で満足はしていないが、放棄できないため
	貸したい
	わからない
	高齢であり後継者もいない
豊岡	今はやめるわけにいかない。
	現状で満足していないが、維持するしかない。後継者の考え方で変化する。
	健康の事
	畑作の鳥獣被害
	高齢のため仕事が大変
	委託中
大沢	国の政策がはっきりしてこないため、計画が立てられない。今後とても不安なため。
	現在も、借りてくれないかとの問い合わせがあるが、拡大するには労力不足。
	米価格の推移を見ながら
	農機の更新がむずかしい
	子供達勤めている
	規模拡大したいと思うが後継者はいるが、やるかやらないかわからない。
塩野室	面積は現状維持で、野菜で収入を上げる
	機械が壊れたら、やめようかとも思っている
	収入が足りないから 後継者がいない
日光	今年の雪害により、方針を改めなくてはならない
	獣害でどうしようもない
	猿、イノブタ、鹿にあらされて手間がかかるから
藤原	農機が使用できるうちは
無回答	現在の農機具が使えるまで
	親戚でやってくれるので

問7 農地中間管理事業について

(2) 同事業を何で知ったかの「その他」

地区	その他
豊岡	今回のチラシ
大沢	パンフレットより
	テレビ、国会等の報道
	友人からの話
	P.C
日光	農林水産省ホームページ

(3) 機構を通じた利用権設定のメリットの「その他」

	その他
今市	小規模の為、不安がある
	内容が分からない
	自作面積が少ない
落合	知らないから答えようがない
	そのもの自体が解らない
	メリットがよく分からない、借手として。
豊岡	現在ではわからない
	小規模の区画整理をやってもらえる事
大沢	よくわからない
	なぜ農業会社があるのに新たな組織が必要なのか？
塩野室	他地域からの場合、問題があると思う。
日光	メリット有るのかな？
無回答	農地の荒廃を防げる

### 3. 地域農業と農地を守る方策について

#### 問1 農業経営の問題解決で良いと思う方策の「その他」

地区	その他
今市	町内に自分の農地以外少ない
	いろいろな組織や規模拡大をしても経営として見合わなかったらだめなので、そこらを考えてやらないといけないと思う。
	集落営農を希望するが、全員の共同作業には無理がある ※高齢化を考えれば出来る範囲の参加すべき
	TPPなどで米価はどんどん下がるので買って食べる
落合	農作業は法人化して、作物の作り方は個人の希望に合わせた作り方、例えば無農薬、有機栽培等、選択できる形にする。
	JAの正会員の減少→それだけ今のJAを頼らないでも資源や薬・種・苗を買える。JAをしっかり立て直す事が重要ではないかと思えます。市としては、JAとは関係しなくとも、野菜を販売できる場所を用意すると少しは農業に対してお金になるという考えを持つ人も増えるのでは？
	本来は集落営農が良いと思いますが、個々の考え方の相違により利害に走り健全な集落営農が行われない場合がある。
豊岡	集落営農組織（JA等の出資型）を設立させ集落で運営する。
	現在は単独又は、複数の集落が集まって、集落営農を行っているが、20年、50年先を見ると、その存続ができていくか否かには不安がある。←中心人物の死去などで組織が崩壊する可能性がある。よってより経営母体が安定した公的な農業生産法人設立が望ましいと思う。
大沢	現状でどれだけの農地を守って行くのか？
	地域性があるので、各々あったもの考える
	担い手（個人）や農業生産法人等の多様な形態の共存
塩野室	特産物を作って売り出す（なし、りんご、ぶどう、かき、干し柿など）
	今やっていたので良く分かりません。でも農業ももう少し利益のあるような農業になったらよいですね。
	集落営農（全員による共同作業は無理ではないか）企業が入ると利益追求になりがちでは（JA含む）
日光	これから何年続くか？
	次元が違う。とにかく獣害をなくしてほしい
	作付けしても鳥獣被害により収穫できない。特に猿、鹿の駆除
	J Aは信頼できる組織ではないので、市と組む方法は賛成できません。社員にやる気もないし、きまりも守れない組織
	会社組織でやる
藤原	両者の話し合いが欲しい

#### 問2 「集落営農を組織し管理」と回答した理由の「その他」

地区	その他
今市	特産品作り、稲作からの転換、相互扶助
豊岡	ソバ生産での集落営農組合がある
	共同作業で行えば、短時間で1つの作業が終了できる。
大沢	現状のままでは今後地域のつながりが薄れ集落がこわれる
	わからない
	行くべき道がそれしかないと思う。
日光	所在を明確にするため

#### 問3 「担い手（認定農業者等個人）」と回答した理由

地区	その他
今市	経営が安定している
落合	地域に担い手になるものが居ない
	集落内のリーダーに適する者が少ない。
塩野室	数年後、自分がそうなりたい
	認定農業者の育成につながり、農村の活性につながる
藤原	日光市内で近隣ではない。担い手の人達の意欲。努力、競争力、経営力を尊重したい

#### 問4 「公的性格の農業生産法人」と回答した方が、法人に希望することの「その他」

地区	その他
塩野室	園芸作物の指導的栽培普及の役割